

「市民の声受け工事費削減」も

# 総事業費150億円変わらず

## 備品更新代膨らむと市

### 松江市役所 建て替え

松江市役所本庁舎(松江  
市末次町)の現地建て替え  
事業に関し、市が20日、実  
施設計の作成過程で建設工



松江市が作成した新庁舎  
の外観イメージ

事業費を削減したものの総事業費は150億円のままだと明らかにした。巨額の事業費を疑問視する市民の声を受け、コスト削減が可能な項目を洗い出して約4200万円減らしたが、老朽化した机や椅子などの更新費が想定より膨らんだとしている。

市議会新庁舎建設特別委員会(立脇通也委員長、9人)で報告した。

市によると、市民の憩いの場として整備するテラス(屋外スペース)に設置する手すりや、外壁、庁舎内の天井、内壁、床に汎用性の高い材料を採用することで、安価に仕上げられると説明。再生材のウッドデッキを使う2階を除き、テラスの素材をコンクリート平板に代えてコストを抑え、市民が利用しない文書庫棟や車庫棟などの窓ガラスの

断熱性グレードを下げることにした。

この結果、総事業費の大半を占める建設工事費が、基本設計の段階で見込んだ136億5400万円から136億1200万円に減額できるとはじいた。

市民から事業規模の再考を求める声が上がったことを踏まえ、市が基本設計の中から経費削減できる項目を抽出。設計業務を委託する石本建築事務所大阪オフィス(大阪市)、小草建築設計事務所(松江市)、矢野建築設計事務所(同)の3者でつくる共同企業体に指示して金額を算出した。

一方、市は現庁舎の執務室や市民の待ち合いスペースでも再利用するが、経年劣化で破損した机、椅子、棚などが多数あり、新規購入の必要数が具体化したた

め「その他経費」が約4千万円増となったという。

市はこれらを盛り込んだ実施設計を基に入札を行い、12月下旬に請負業者と契約を結んで、来年1月以降の工事着手を予定する。

(久保田康之)

## 松江市新庁舎

# 事業費150億円の実施計画完成

## 工事費約4212万円抑制

松江市は20日、市議会の新庁舎建設特別委員会（立脇通也委員長、9人）で、新庁舎建設の工事発注に向けた「実施計画」を示した。建設部材を汎用品に置き換えるなど、徹底した見直しで工事費を約4212万円抑制。一方で、労務単価の高騰傾向などを踏まえ、事業費は計画通り150億円とした。

松江市新庁舎整備課によると、工事費の抑制は、車庫の窓ガラスや3階より上のテラス部床材など、市民の往来があまりない場所の建設部材の見直しによるもの。断熱性のグレードを下げたり、汎用品に置き換えるなど、徹底的な見直しを行ったという。

一方、事業費を150億円に据え置いた理由は、「余裕を持たせるため」（同課）。労務費の高騰傾向や、突如の燃油高騰などの可能性を織り込んだもので、同課は「建設が終わったとき、150億円よりも安くなる可能性はある」としている。また、市職員が使う机やイス、書棚などは基本的に再利用する方針だが、建設期間中や引越して更新の必要が生じた場合にも、この余裕分に対応する

考えという。

同市はこの実施計画に基づいて、近く、入札の手続きを開始する予定。仮契約の締結後、市議会に契約案を提案し、可決されれば、事業着手となる。実際の工事作業については、年明けになる見通し。

# 事業費150億円維持

松江・新庁舎「減額努力続ける」

12月着工予定の松江市新庁舎建設事業で市は20日、実施設計の事業費が基本設計と同じ

150億円になると明らかにした。市は同日朝の新聞に折り込んで配布した説明チラシに「150億円という事業費は決して安い金額ではないと考えています」「実施設計においても可能な限りコスト

削減に取り組むよう努めています」と記していたが、結果的に据え置きとなった。

市新庁舎整備課によると、資材の変更などにより工事費は約4200万円減額したが、新たに必要な備品などが判明。市はこの日の新庁舎建設特別委員会で、外壁などの資材を安価なものに変更した

上で、全国的な建設費高騰に備えて計画に若干の余裕を持たせたと説明した。

同課の岡田等課長は「資材置き換えなどの努力をした。工事を進める中で、減額できる部分については引き続き努力を重ね、市民にしっかり説明できるような手続きを進めていきたい」と話した。

【小坂春乃】

紙面編集 辻田 真伍

## 民主主義の根幹を揺るがす

松江市大庭町

佐々木敬子 77歳

松江市役所建て替えの件で市議会が先日開催され、着工延期の是非を問う住民投票条例案が否決された。とても残念に思う。

事前に市民団体の代表の3人が建設自体の賛否や移転の是非を問うものでなく、市民の直接の意見を伝える機会を求めるものであると力説された。市長は今まで5年間市議会と討議してきたが、1人の反対者もなかったし広報ですつと説明してきた。行政手続きも終わったのにいままら直接請求するのは権利の乱用だと言つ。

広報は新築を前提にしたもので意見を求めるものではなかった。市議の

各地域での説明も意見を問うものではなかったと聞く。

先日市民団体の人が現地立替えと県立プール跡地に移転新築との比較案を出され、移転新築の概算事業費は106億円で、44億円も抑えられ駐車場も200台多く駐車できるといふものだった。

## 条例案のあら探し批判とは

松江市西川津町

白石 光生 63歳

現行の松江市庁舎建設計画見直しを求めた住民投票条例案が先の市議会

た。この案に賛成した市民も多いと思うのに却下されるとは…。

市長が現在地に固執する理由は何か？ 役所は行政業務をするところで観光施設ではない。景観は関係ない。まだ続くコロナ禍で打撃を受けている人が多い中、多額の税金を使用しているのか？

条例案の否決は市民の声を聞くという、民主主義の根幹を揺るがすものだと思えて、とても残念だ。

で否決された。市民の関心も高くケーブルテレビ、インターネットなどでライブ中継され拝聴した。

今回の結果については市民を代表する議員各位の判断が示されたので良

かったと思うが、議員各位の判断に至る意見を拝聴して気になったことがある。それは①住民投票を仮に実施する場合②コストと時間がかかる③5年間にわたって検討しスタートした事業を今になって中止できない④の議員各位の認識である。

市民が新庁舎の建設に真剣に関わりを持ちたいと上げた声を、条例案のあら探しをして批判し、間接民主主義になじまないとい蹴してしまつた。

否決に賛成した議員たちは、「市長と市政執行部には真摯に市民の声を聴け」と要望はしたが、さて自分たちはどうであろうか。いずれにせよ、来年市長選挙がある。民意を示す良い機会なので争点になることを期待したい。

## 松江市庁舎建て替え

# 態度が分かれた市議会議員

松江市東出雲町

佐藤 幸男 71歳

松江市役所本庁舎の建て替え事業を巡り、先日市議会が、着工延期の是非を問う住民投票条例案を賛成少数で否決しました。

その賛否については先頃、新聞社のアンケートで、共産党市議団を除く各党派の回答は、重要案件につき答えられないとのことでしたが、大方に反対の二ユアンスが感じられました。

そんな中、市議会最大党派・松政クラブに所属する出川桃子議員は、8月中旬に市内で街頭演説を行い、事業計画に対し市民の理解が十分に得ら

れていないとして、「市が説明責任を果たすべき」と持論を訴えられました。その行動には驚きもしましたが、さて9日の市議会ではどう回答されるのか興味がありました。

そして10日の本紙1面に、前列で賛成の起立の

## 積極的に知る努力をしたか

松江市南田町

引野 律子 71歳

松江市役所本庁舎建て替えを巡る住民投票条例案は否決された。安堵した。

現在地の風光は絶景である。観光と生活は表裏一体。市役所があるから

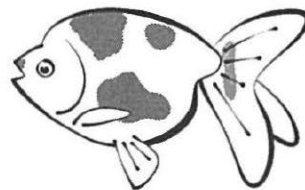
写真がありました。あっぱれでした。拍手喝采です。多数の同派議員と異なる行動、自身の主張をされたことに敬服いたします。

それにしても残念なのが、棄権された議員さんです。いろいろな事情があったことと思いますが、議員として「どちらでもない」は無責任だと思えます。

出掛けたついでに穴道湖を眺める。観光施設へ行くよりは頻度ははるかに多い。

堺市役所の21階展望ロビーには観光ボランティアガイドがいて眺望を熱心に説明してくれた。建設される松江市役所でも参考にして、継続的にボランティア活動に活躍の場を提供したらどうか。

建て替えについて、情報が見えていないというが、積極的に知る努力をしたか。資料を見ない、読まないでは前に進まない。経費も、節約は大切だが安ければ良いという



ものでもあるまい。

何であれ異議を唱えるなら、たとえ1人でも積極的に動くという、民主主義にはそんな覚悟も必要だといつも思う。周囲に勧められて署名したのでは世の中は変わらない。この町の人は周囲を見てやっとな動く。遅い。松江に住んで40年、これも市民の声だ。

## 松江市庁舎建て替え

# 移転新築なら事業費増

## 現行計画より8億〜10億円

### 市試算

## 松江市役所 建て替え

総事業費150億円と見込まれる松江市役所本庁舎（松江市末次町）の現地建て替え事業について、市が

16日、市内の別の場所に移転新築した場合、総事業費が8億〜10億円程度高くなるなどの試算を明らかにした。防災対策を実施済みで、そのまま活用する予定の本館西棟の解体費用などを計上する費用があるためとし

ている。（29面参照）  
8月末に市議会新庁舎建設特別委員会（立脇通也委員長、9人）から説明を求められ、基本設計を基に算出した。  
市によると、移転先は市が所有する島根県立プール

跡地（学園南1丁目）とホテル穴道湖跡地（西嫁島町2丁目）の2カ所を想定。地下駐車場の有無が異なるものの、どちらも現地建て替えの場合と同じ6階建ての建物で試算した。  
景観との調和を目的としたテラスの設置費（2億8千万円）や仮設庁舎の建設費（3億6千万円）が不要になる一方、新たに2億8千万円の再設計費や17億2千万円の本館西棟の解体費が必要になるとの前提で金額をはじいた。

この結果、設計費、建設工事費、備品購入費などを合計した総事業費は、県立プール跡地だと157億8千万円、ホテル穴道湖跡地では159億5千万円となり、現地で建て替えた場合を上回った。  
このほか、設計をやり直すことに伴い、34億円分の国の有利な起債制度が使えなくなり、事業の完了時期も2027年3月を見込む現行計画より、1年9カ月以上延びるとした。  
市役所本庁舎の建て替え事業を巡っては、県立プー

ル跡地への移転新築を求める市民団体が9月、3階建てに抑えることで概算106億円为建设できるとの試算を発表した。団体によると、この金額には再設計費や本館西棟の解体費は含まれていない。  
市は、12月下旬に請負業者との本契約を結び、来年1月以降に工事着手を予定する。担当職員による出前講座の利用を市民に呼び掛けているほか、試算結果の概要を20日朝刊の新聞折り込みチラシで紹介する。  
（佐々木一全）

市議会松政ク

## 住民投票賛成の出川議員除名

### 統一見解の理解得られず

松江市議会（定数34）の自民党系の最大党派・松政クラブ（16人）が16日、総会を開き、所属する出川桃子議員（42）を除名処分にした。会派の統一見解や行動に理解が得られなかったことを理由に挙げた。

ほか、市役所本庁舎の建て替え事業に関する住民投票条例案に賛成し、松政クラブの他議員と異なる対応を取っていた。  
総会では出川議員と欠席した1人を除く14人の賛成で処分を決めた。取材に対し、森脇勇人会長は「本来は1人の除名も出さくなくないが、会則に基づく致し方

ない判断だ」と話した。  
出川議員は「いかなる処分も受ける覚悟で総会に臨んだので真摯に受け止めた。指導いただいた松政クラブには感謝している」と述べ、当面は無会派で活動するとした。

これにより、市議会の会派構成は、松政クラブ15人▽真政クラブ5人▽公明クラブ4人▽市民クラブ4人▽共産党市議団3人、友愛クラブ2人▽無会派1人となった。  
（久保田康之）

出川議員は2月定例市議会で当初予算案に反対の立場で本会議採決を棄権した

（久保田康之）

（久保田康之）

（久保田康之）

# 松江市新庁舎

# 移転案の事業費を公表

## 7.8 ) 9.5億円増額に

松江市は16日、新庁舎建設の比較案として、旧県立プール跡地と旧ホテル栄道湖跡地、それぞれに移転した場合の事業費(粗試算)を発表した。総事業費150億円の現行計画に対し、移転案は最低でも7・8億円から9・5億円高く、実質30億円以上の追加的な将来負担が生じるといって、「移転のメリットはない」とした。

同市が比較のために示した事業費は、建設設計と工事費の合計。現行計画139・3億円に対し、旧県立プール跡地(同市学園南)への移転案は147・1億円で、さらに土地利用目的の変更に係る

「借入償還残額」約1億円が必要とした。一方、旧ホテル栄道湖跡地(同市西嫁島)への移転案は148・8億円。さらに用地取得にかかる費用が生じるといって、増額の理由は、現行

計画が、市役所西棟をそのまま利用する計画となっており、移転案には、西棟分の増



床整備・既存解体費として17・2億円が計上されている。また、これまで測量調査や設計、広報に費やした2・8億円を、上乘せ分として計上している。

現時点からどちらかの移転案に変更する場合には、さらに実質30億円以上の将来負担が発生。地方債に対する国からの財政支援の適用期限が切れ、支援が受けられなくなるため

市議に対し試算結果などを説明する市執行部  
16日、松江市議会新庁舎建設特別委員会

新庁舎整備課は、「現行計画の総事業費が150億円を超えることはない」とし、さらに経費節約の取り組みを進める考えを示した。今月20日には、建設事業の実施計画が完成する見通し。それを基に入札し、今年中に契約案件(議案)を市議会が可決すれば、年明けから着工となる。

市議会の新庁舎建設特別委員会(立脇通也委員長、9人)の求めに応じ、試算したもので、16日の同委員会ですべて公表した。比較案はいずれも、現行計画と床面積や駐車場台数、耐震構造(免震構造)などを同一とし、移転後に現庁舎を解体・撤去するなどの前提の下に行ったとい

## 松浦市長「権利の乱用」発言

## 法的根拠示すべき

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業に関する住民投票を求めた市民団体の動きに対し、松浦正敬市長が行政の手続き後に直接請求するのは「権利の乱用」と発言した問題で、哲学者で民主主義についての著作も多い東京大学大学院総合文化研究科准教授の國分功一郎氏（46）は、山陰中央新報社の取材に対し「発言の法的根拠を示すべきだ」と述べ、世論形成をゆがめかねない発言だと強く批判した。

（多賀芳文）



國分功一郎氏

2013年に東京都小平市の都道建設計画を巡る住民投票に関わった國分氏は「権利濫用」は法的用語であり、使用できるのは極めて限定的なケースだと説明。松江市の場合、直接請求が乱発されたわけでも市の権利や利益を不当に侵害したわけでもないことから

「こうした発言をするならば法的根拠を示すべきだ」と指摘した。

市民団体の呼び掛けで直接請求に必要な署名数の4倍超となる1万4千人分が集まったことを踏まえ「市民は頼まれたり、報酬を得て運動しているわけではない。とつもない努力を払わなければならないほど不満があったという意味を全く理解していない」とも指摘。「その意味を理解するどころか、面倒だという思いをもっともらしい言葉で覆い隠していると言わざるを得ない」と指摘した。

市民が公的に異議を申し立てることができ、また政府がそれに責任をもって応える体制においてこそ健全

な政治が成り立つと説いた米政治学者ロバート・ダール氏の考えを引き合いに「議会にさえ配慮してれば民主主義が成立すると考えるのは幻想だ。周囲の意見に耳を傾けなければ民主主義は専制化すると強調。「市民の運動を『権利の乱用』と表現するようでは、今後の市民の世論形成に非常に悪影響があると思う」と述べた。

松浦市長は市民団体が2日に市議会本会議で意見陳述した後、記者団に「直接請求の権利はあるが、行使するタイミングがあると思う。いろんな手続きが終わってから出されるのはある意味で権利の乱用と言ってもいい」と述べた。

こくぶん・こついちろう

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授。専門は哲学・現代思想。著書に「スピノザの方法」「来るべき民主主義」「中動態の世界」（小林秀雄賞受賞）など多数。千葉県出身。

## 哲学者・國分功一郎氏が批判

松江市役所  
建て替え

## 世論形成ゆがめかねず



# 「権利乱用」発言撤回を

## 市民団体声明、市長を非難

### 松江市役所 建て替え

く、団体は「権力のおごりだ」と強く非難している。条例案は9日に市議会で否決された。

松江市役所本庁舎（松江  
市末次町）の建て替え事業  
に関する住民投票条例の制  
定を直接請求した市民団体  
が12日、行政の手続き後に  
直接請求するのは「権利の  
乱用」と述べた松浦正敬市  
長に、発言の撤回を求める  
声明を発表した。地方自治  
法に請求時期の定めはな

松浦市長は市民団体が2  
日に市議会本会議で意見陳  
述した後、記者団に「直接  
請求の権利はあるが、行使  
するタイミングがあると思  
う。いろんな手続きが終わ  
ってから出されるのはある  
意味で権利の乱用と言って  
もいい」と発言した。

規定している。直接請求を  
住民の基本権として認め、  
請求時期に定めはない。  
市民団体「松江市民のた  
めの新庁舎建設を求める  
会」（代表・片岡佳美島根  
大法文学部教授）は声明文  
で「市民に『今は直接請求  
をしてはいけない』と言う  
ことこそ、首長の権力の乱  
用ではないか。まさに権力  
のおごりだ」と批判。記者  
会見で片岡代表は「市民を  
大切にしていないことの表  
れだ」と憤った。

一方、松浦市長は山陰中  
央新報社の取材に対し「間  
違ったことを言ったとの認  
識はない。なぜ、これまで  
声を上げてこなかったのか  
（市民団体は）はっきりさ  
せていない」と述べ、撤回  
しない考えを強調した。  
市民団体はこのほか声明  
で、請求者に質疑ができる  
参考人招致ではなく意見陳  
述にとどめた市議会に「不  
信感が残る」と記載。市や  
市議会が市民アンケートな  
どで新庁舎建設に関する民  
意を検証すべきだとした。  
今後、市長や市議に面会  
を求め、市政の在り方を考  
える11月3日の市民集会の  
開催後に解散する。

（佐々木一全、久保田康

### 直接請求制度

地方自治法においては、住民自治の徹底を期  
するため、直接民主主義の原理に基づく直接  
請求の権利を住民の基本権として認めている。  
（総務省／住民自治に関する諸制度）

#### ～地方自治法 第12条～

日本国民たる普通地方公共団体の住民は、この法律  
の定めるところにより、その属する普通地方公共団  
体の条例の制定又は改廃を請求する権利を有する。

#### ～地方自治法 第74条～

普通地方公共団体の議会の議員及び長の選挙権を有  
する者は、その総数の50分の1以上の者の連署をも  
って、その代表者から、普通地方公共団体の長に対  
し、条例の制定又は改廃の請求をすることができる。

### 批判は免れない

地方自治法や行政法に詳  
しい静岡大の恒川隆生名誉  
教授（行政法）の話、法の  
中で直接請求をいつ出すべ  
きかという決まりはない。  
この点を取り上げて「権利  
の乱用」との言葉で反論し  
たことは軽率な印象を受け  
る。批判は免れないだろう。  
市や議会が直接請求のタイ  
ミングに言及すれば、市民  
の権利行使を萎縮させるこ  
とにつながるかねない。

### 言い過ぎで乱暴

住民投票制度に詳しい鳥  
取大地域学部の塩沢健一教  
授（地域政治学）の話、直  
接請求のタイミングが遅か  
った点は否めないが、活動  
に賛同する約1万4千人分  
の署名が集まっており「乱  
用」は言い過ぎで乱暴だ。  
そもそも市は市民から直接  
請求が出たこと自体を重く  
受け止めるべきだ。発言撤  
回を求められても仕方がな  
い。

松江市新庁舎

市長発言など「看過できない問題」

住民投票否決で市民団体 住民アンケート要求、公開質問も



条例案の否決を受け声明を発表する呼びかけ人の3人=12日、松江市末次町の松江市役所

松江市役所新庁舎の一時中断の是非を問  
い、住民投票条例案を直接請求した市民団  
体「松江市民のための新庁舎建設を求める  
会」(代表呼びかけ人・片岡佳美島根大学  
教授)は12日、同案否決を受けて声明を発  
表した。「看過できない問題があった」と  
して、市長に対する公開質問や、市・市議  
会に対する住民アンケートの実施要求など  
を行う方針を示した。

この日、松江市役所  
で会見を開いた片岡さ  
らら3人は、3点の問  
題点を指摘。「いろん  
な手続きが終わってし  
まった以降に直接請求  
を出されるのは、ある  
意味で権利の乱用だ」  
とした松浦正敬市長の  
発言について、撤回を

求めた。市長への公開  
質問と面談要求を行う  
という。

直接請求代表者の  
参考人招致が行われ  
なかったことについて  
も、「対話なく採決し  
た市議会には、不信感  
が残る」と問題視。同  
団体として、市議会議

員に対するアンケート  
調査を行う考えを示し  
た。また、「住民投票を  
せすとも住民アンケー  
トなどで市民の意向を  
確認できる」とした市  
議会討論を受け、同市  
と市議会に対し、アン  
ケートの実施を求める  
という。

同団体はこれらの活  
動を最後に解散する予  
定。11月3日午後2時  
から、松江市市民活動  
センター(STICピ  
ル)で総括・報告会が  
行われる。定員約20  
0人で、参加無料。事  
前参加申し込みは、同  
団体(電話090・1  
880・4767、メ  
ールinfo@matia.jp)へ。

# 江 市長発言撤回求める

松

## 市民団体「権利の乱用」に反論

12月着工予定の松江市新庁舎建設事業を巡って市議会が9日、着工延期の是非を問う住民投票条例案を否決したを受け、条例制定を直接請求した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は12日、直接請求を「権利の乱用」と発言した松浦正敬市長に撤回を求める声明文を

発表した。

同会は、松浦市長による「計画の最終段階での直接請求は権利の乱用」という発言を問題視し、「直接請求の時期については法に定められていない。権力のおごりだ」と反論。

松浦市長に対し公開質問状提出や面会要求を

していくという。また、同会による市の広報不足の指摘について松浦市長が「意図的にねじまげている」との趣旨の発言をしたことについても説明を求める。

声明文には、議会がある予定。【前田葵】

# 最後まで思い届かず

## 「市民の声聞く市政に」

### 否決 住民投票

松江市役所建て替え事業

〈下〉

「最後まで市民への共感を再検討するよう求めたが伝わらなかった」  
松江市議会が9日午後、

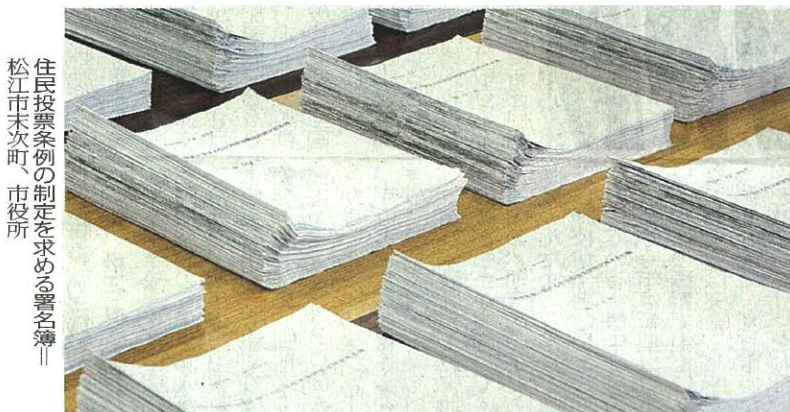
市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡る住民投票案が否決されると、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の片岡佳美代表（島根大教授）が肩を落とした。市民の意見に耳を傾け、事業計画

### どうする!? 松江市役所 建て替え

賛同者は想像した以上に多かった。戸別訪問などで署名を集める受任者は開始時に約300人だったのが最終的には600人以上に膨らんだ。団体のホームページにも応援の書き込みが続き、直接請求に必要な署名数（約3400人）



松江市役所前で市民（右）に署名への協力を呼び掛ける市民団体のメンバー＝8月、松江市末次町



住民投票案の制定を求める署名簿  
松江市末次町、市役所

の4倍超となる一方4千人分が集まった。「市民の関心は確実に高まっている」（片岡代表）との手応えを感じていただけに、今回の

### 繰り返し訴え

求めた住民投票の条例案

は、建て替え事業を中断しないとする考えを強調して計画を練り直すか、12月2日に着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問うことを想定。新庁舎の建設に反対する意向はな

### 多くが不満抱く

住民投票案は否決されたが、新型コロナウイルスの影響は今後も続き、総事業費が150億円と決まってしまう。市民が意見を述べる機会がないといった事実は変わらない。署名で意思表示した約1万4千人を超える多くの市民が市の姿勢に不満を抱いているのは間違いないだろう。

団体は近く、活動意義などを総括した上で解散する。片岡代表はこれまでの約4カ月を振り返りながら切実に願った。「どうか、市民の視線を大切に、市民の声を傾ける松江市政であってほしい」  
（政経部・佐々木一全、久保田康之が担当しました）

# 市民の声届かず

1万4145人



住民投票条例案に賛成し、起立する議員(前方の4人)＝松江市末次町、市議会

# 住民投票条例案否決

## 松江市議会賛成少数

松江市役所本庁舎(松江市末次町)の建て替え事業を巡り、松江市議会が9日、着工延期の是非を問う住民投票条例案を賛成少数で否決した。議長を除く33人のうち、賛成4人、反対27人で、2人は採決

を棄権した。民意を事業に反映させるため、十分な説明と慎重な議論を求める市民の声は届かなかった。(佐々木一全、久保田康之) 26、27面に関連記事

### どうする!? 松江市役所 建て替え

賛成したのは、共産党市議団の3人と、最大党派・松政クラブ(16人)の出川桃子議員。討論では、共産党市議団の田中肇議員が「市民の声を聞く松江市の政治の象徴として(新庁舎)が建設されることになる」と住民投票の意義を説いた。

これに対し、松政クラブの13人(議長を除く)と第2党派・真政クラブの4人、公明クラブの4人、市民クラブの4人、友愛クラブの2人が反対した。松政クラブの森脇勇人議員は反対討論で、事業を中断して段階から再考するの条例案に示されておらず、在任外国人の投票権の有無も不明だと指摘。「住民投票よりも市民アンケートの方が目的に沿っている。住民投票に固執する特段の事情がない」と強調した。松政クラブの三島進議員と真政クラブの貴谷麻以議員は棄権した。住民投票条例の制定は、1万4145人分の署名を集めた市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(代表・片岡佳美島根大教授)が9月下旬、松浦正敬市長に直接請求した。

一方、松浦市長は記者団に「あまり間を置かずには続きを進めていきたい」と述べ、計画通り12月にも着工する考えを強調。情報提供や説明不足との指摘に関しては「問題提起を生かせるよう対応していきたい」と述べた。採決後、9月定例市議会は閉会した。

13人が本会議で意見陳述した。条例案の否決を受け、片岡代表は「市民の今の声に寄り添ってもらえず、残念だ」と落胆した。

その後、松浦市長が制定に反対する意見書を付して市議会に条例案を提出。今月2日に市民団体のメンバー

賛成	松政クラブ	出川桃子
	共産党市議団	橘祥朗、吉儀敬子、田中肇
反対	松政クラブ	比良幸男、立脇通也、三島良信、森脇勇人、吉金隆、野津照雄、野々内誠、野津直嗣、柳原治、三島伸夫、米田ときこ、細木明美、河内大輔
	真政クラブ	南波巖、石倉徳章、川島光雅、岩本雅之
	公明クラブ	篠原栄、田中明子、長谷川修二、太田哲
	市民クラブ	川井弘光、津森良治、畑尾幸生、森本秀歳
	友愛クラブ	宅野賢治、新井昌禎
棄権	松政クラブ	三島進
	真政クラブ	貴谷麻以

採決の結果(敬称略)

採決に加わらない議長は除く

# 閉鎖的市政浮き彫り

## 否決 住民投票

松江市役所建て替え事業

「起立少数であります。よって議案は否決されました」

9日午後、松江市議会本会議。森脇幸好議長が市役所本庁舎の建て替え事業を巡る住民投票条例案の採決結果を告げた。賛成の起立をしたのは議長を除く33人のうち4人。27人が反対し、2人は棄権した。市民が建て替え問題に直接、意思表示する機会は失われた。

### 賛成4人のみ

賛成したのは、共産党市議団の3人と最大会派の松政クラブに所属する出川桃子議員のみ。採決に先立つ討論でも、賛成の意見表明をしたのは共産党市議団の田中肇議員だけで、松政、公明、市民、友愛の各クラブ

（会派）の4人はそれぞれ反対した。

それぞれ反対理由として、各種団体の代表者らでつくる市民会議や市民ワークショップのほか、市議会特別委員会で議論を重ね、関連予算も可決してきたことを強調。条例案の規定に不備があることや、住民投票を行う場合、選挙人名簿登録のシステム改修などの準備に180日間、総額8400万円を要するとの市の試算を引き合いに、実施する必要はないと訴えた。一方、矛先が松浦正敬市長に向かう場面もあった。市民から、市による事業計画の説明が不十分との批判が相次いだことに、公明党クラブの篠原栄議員は「市長が直接、何らかのアクションを起こすこととは



松江市役所本庁舎—松江市末次町（小型無人機で撮影）

### 市議による討論（意見表明）の主な内容

<b>賛成</b>	<b>田中 肇</b> 議員（共産党市議団）	住民投票条例案は、市民の声を聞くかどうかを決めてほしいと求めているのであり、現行計画の是非を問うものではない。新庁舎が「市民の声に聞く耳を持つ」市政の象徴として建設されることを願う
	<b>森脇 勇人</b> 議員（松政クラブ）	事業計画の決定手順について大きな瑕疵（かし）が見当たらない中で、市税を投じて住民投票をすることは理解しがたい。（住民の意思確認の定義が不明確など）この条例案では適切な住民投票はできない
	<b>篠原 栄</b> 議員（公明クラブ）	建設事業を中断し再考する場合、どの段階から考え直すのかが不明確。（直接請求した団体側は）条例原案の選択肢にこだわらないとするが、署名に応じた市民の声をないがしろにしているのではないかと
<b>反対</b>	<b>津森良治</b> 議員（市民クラブ）	これまで、市民への意見公募、議会での議論を重ねて合意形成を図ってきた。既に建設工事の大部分を占める予算を認め、実施設計の最終盤を迎えている。この段階での住民投票は時機を逸している
	<b>宅野賢治</b> 議員（友愛クラブ）	住民投票は、対話を踏まえて再考するか、現行案で着工するかを問うもので、住民の自由な意思が反映できる明確な選択肢になっていない。最低投票率と得票率の要件も規定で定めるべきだった

クリック

松江市の新庁舎建設事業 現庁舎の老朽化と耐震強度不足に伴い、現地で建て替えを計画。新庁舎は地上6階地下1階で、総事業費を150億円、工事期間を約7年と見込む。仮設庁舎は設けず、段階的に工事を進め、完成した建物に順次、引っ越しながら市役所業務を続ける。総事業費のうち、約30億円は国が返済時に財政支援する有利な起債を充て、約50億円を庁舎建設基金（貯金）、約70億円を地方債（借金）で賄う予定。

「市長が直接、何らかのアクションを起こすこととは」

「自分の言葉で直接語ってこられたのか」と語気を強めた。

### 対応終始冷淡

松浦市長は記者団に「新庁舎の問題に市民の皆さんが関心を持っていただきたかった」と述べたが、言を打診された市長はかたくなに拒み、市役所内での記者会見やメールマガジン、ケーブルテレビ番組を通して発言。団体メンバーと直接交わしたのは、直接請求を受けた9月24日のみだった。「対話」を避け続けたことで、市民の事業計画に対する疑問が市政への不満に変わり、不信感につながったといえる。

実施せず、意見陳述にとどめた市議会も及び腰だった。住民投票条例案の否決によって新庁舎は12月に着工される見通しとなった。しかし、「市民不在」で議論が進み、民主主義がないがしろにされていると訴えた市民団体の活動は、市政の閉鎖的な対応を浮かび上がらせ、行政の合意形成の在り方に一石を投じた。

# 避け続けた市民との対話

本会議で団体メンバーに質疑ができる参考人招致を

# 聞く耳持ってほしかった

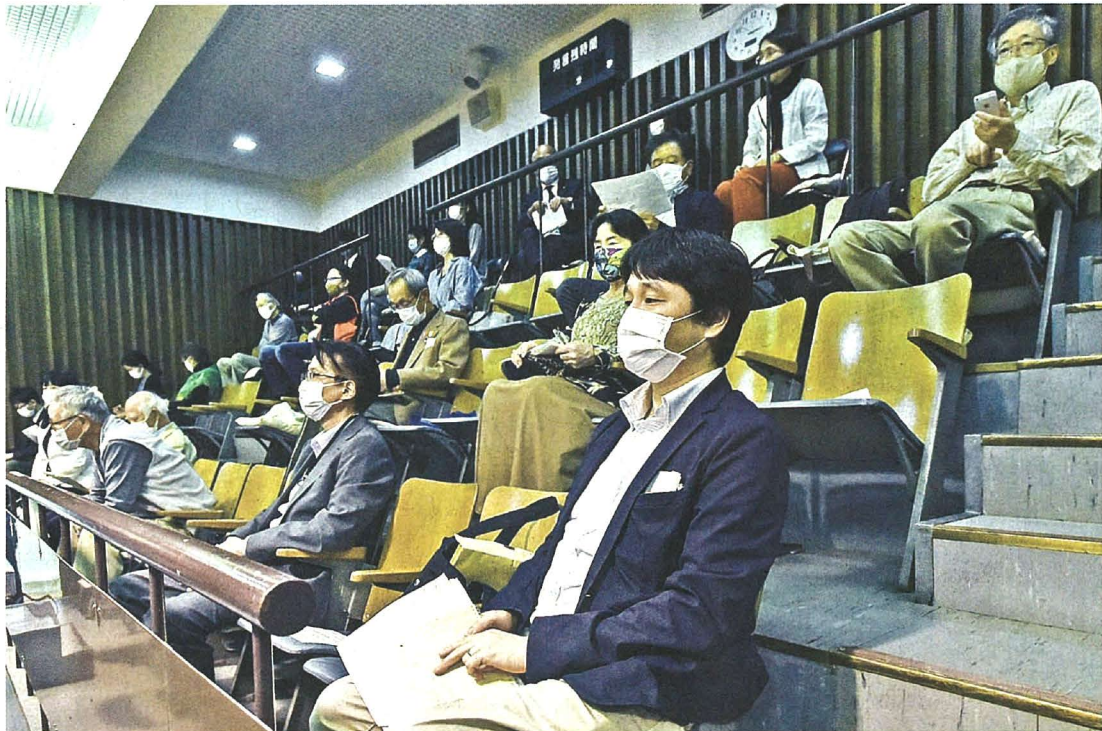
## 住民投票条例案否決

市民団体が1万4145人分の署名を添え、松江市長に制定を直接請求した住民投票の条例案を、松江市議会が9日、賛成

# 「民意軽視」市民団体憤り

少数で否決した。建て替え事業を中断して計画を練り直すか、12月着工を予定する市の計画通りに進めるかを問う住民投票は実現せず、議論に参加できる時間を確保するよう求めた市民の願いはかなわなかった。  
(取材班) 11面参照

どうする!?  
松江市役所  
建て替え



採決を見届ける傍聴者 松江市末次町、市議会

住民投票条例の制定を直接請求した大学教授らでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の片岡佳美代表(島根大教授)は、条例案が否決されると「非常に残念だ」と悔しさをにじませた。採決前の質疑や討論では、市民が声を上げたことを評価する議員が相次いだものの「議論に5年をかけたとか、中断すれば経費が増えるという話ばかりだった」と肩を落とした。団体の中心メンバーの関耕平島根大教授も「討論が条文の中身に終始していた。大切なのは市が民意を確認することだ」と憤り、聞く耳を持たず、訴えの本質から離れた議員のやりとりを批判した。一方、1万4千人分を超える署名を集め、市施策に関する初の直接請求に結び付けた一連の活動を振り返る。大切なのは市が民意を確認することだ」と憤り、聞く耳を持たず、訴えの本質から離れた議員のやりとりを批判した。一方、1万4千人分を超える署名を集め、市施策に関する初の直接請求に結び付けた一連の活動を振り返る。

## 不信感払拭へ説明尽くせ〈解説〉

住民投票を通して「熟議」を求める声は届かなかった。だが「市民不在」の議論を問題視する市民団体の呼び掛けに1万4145人分の署名が集まり、条例制定が直接請求された事実は重い。市と市議会は、市政への不信感を招いた原因がどこにあるのか直視し、払拭に向けて努力すべきだ。

一連の動きの中で最も問題視されたのが市の説明姿勢だった。松浦正敬市長の「自分の耳に入っていないことをもって『説明がない』』と言ひ、それを理由に着工延期を求めるのは少し乱暴ではないか」との物言いは、市と市議会の決定事項を黙って受け入れよと言わんばかりに映った。過去の議論と行政手続きの正当性を繰り返すばかりではなく、市民団体が企画した討論会に出席するなどして対話の意思を示し、納得の得られるまで事業推進の意義を説くべきではなかったか。主張に耳を傾けて、歩み寄ろうとする姿勢が終始見られなかった点は残念でならない。

資金的な後ろ盾のない市民団体の呼び掛けに、1カ月で有権者の約8割に相当する署名が集まったことは、市民が市と市議会の対応に不満を抱いている証左だ。住民投票の機会が失われたが、来年4月に予定された市長選、市議選で市民の判断が示されることになる。(政経部・佐々木一全)

# 住民投票条例案が否決

## 松江市新庁舎建設 賛成4 反対27

松江市が計画する新庁舎建設をめくり、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が直接請求した計画中断の是非を問う住民投票条例制定案は9日、市議会（定数34）で採決され、賛成4人、反対27人で否決された。住民投票は実施されないことが決まった。

### 「住民自治の前進を」 「合意形成経ている」

条例案は「中断して住民との対話、討論を踏まえて再考する」か「現行計画案のまま着工する」を問う内容。建設の是非ではなく、公共事業の決め方や進め方を問題にしていた。

採決に先立ち、質疑と討論があった。賛否を述べる討論では、5会派の5人が立った。賛成は共産党市議団のみで、田中肇市議は「（賛成するのは）新しく建設される新庁舎が、市民の声に聞く耳を持つ市政の象徴として建設されること

を願うからだ。1万4千人を超える賛同が寄せられた。住民投票を実施し、住民自治の前進に生かすべきだ」などと述べた。

松政、市民、公明、友愛の4クラブは「署名の重みは真摯に受け止める」としながらも、市民に説明して議会で事業費を議決し、合意形成を経ていくこと、中断しての先延ばしは現庁舎には耐震面で問題があり、事業費増大が懸念されるなど主張し、反対した。採決は市民にわかりやす

く伝えるという市議会の判断で拳手ではなく、起立で実施された。議長は採決に加わらず、2人は直前に退室し、棄権した。

傍聴席は新型コロナウイルス感染症対策で定員を27席に減らし、座れなかった5人は別室で聴き入った。

### 市民団体「大きな意義あった」

閉会后、共産党市議団（3人）の橋本明団長は「否決は残念。コロナ禍で市民生活が脅かされる中、市民が市政のあり方に主体的に意見を発して行動する機運が高まっている。投票すれば結果にかかわらず、市民が市政に関心を持つ機会になったはずだ」と話し



住民投票条例制定案の採決では4議員が賛成し、起立した＝松江市末次町

た。最大会派・松政クラブ（16人）の森脇勇人会長は「議会として新庁舎計画に時間をかけ、市民にもオープンに議論を尽くし、予算を認めてきた。異論があるのなら、もっと早く議会に働きかける必要があった。着工が近づいた段階で計画

を中断すれば市民に大きな不利益になる。肅々と対応した」と述べた。報道陣の取材に「求める会」代表呼びかけ人の片岡佳美・島根大学教授は「残念な結果になったが、市議会で審議されるなどしたことは大きな意義があった。市政に違和感がある時に声を上げる文化や雰囲気、土台をつくられた」と話した。

一方、松浦正敬市長は「署名によって新庁舎計画にもう一度関心を持ってもらうきっかけになった。（討論で）発信力や情報提供、説明不足の指摘を受けた。何ができるか考え、問題提起を生かせるようにしたい」と述べ、12月議会に契約案件を提案して着工する考えを示した。

今回の直接請求では、有権者の5分の1（3350人）の署名が必要だったが、「求める会」は7月21日から1カ月で集めた。市選挙管理委員会の審査で有効とされた1万4145人分を添えて9月24日、松浦市長に請求した。

松浦市長は同29日、「住民投票の実施は必要ない」との意見書を付けて市議会に条例案を提案した。その際、老朽化した現庁舎は倒壊の危険が高く、緊急性がある▽2015年2月議会場で現地建て替え方針を表明後、5年かけて市民への説明などをしてきた▽市議会での議論も経て、25年度までの工事予算の議決を経たことなどを説明。住民投票に反対し、改めて12月着工を目指す考えを示し

た。「求める会」は、今月2日の市議会での意見陳述で「市民との対話と討議を尽くして意向を反映させるべきだ」「投票は市民が議論に参加する時間をつくるか否かを問うもの。声を上げている市民の声を聞いて」などと訴え、賛成するよう求めていた。

（浪間新太、杉山匡史）



松江市新庁舎

# 住民投票条例案を否決

## 市議会「現行計画のまま着工」



起立賛成で行われた採決の様子=9日、松江市末次町の松江市議会議場

することは疑問だ」などと指摘。また、「市民が意見を述べる機会がない」などとする直接請求代表者の主張に対し、「正確ではない」と否定し、「意見を述べる機会が過去にあった」と強調した。

一方、賛成の立場から討論に立った共産党市議団の田中肇市議は、「現地建て替え」について賛成との考えを示した上で、賛成の理由について「新しく建てる庁舎が、市民の意見を聴く象徴になっ

ほいから」だと述べた。同市によると、住民投票の実施費用は約8400万円で、同条例案で示された「70日以内の実施」は、実質的に不可能という。これは、外国人住民の取り

扱いに関する外部委員会の設置や、システム改修などが理由で、最短でも約180日間を要するとしている。同条例案の提案は、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めろ」(呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人)による直接請求を受けたもの。同団体は1万4145筆の署名を集め、条例案とともに、市長に提出していた。

松江市議会9月定例会は、新型コロナウイルス感染症対策を含む約11億399万円の一般会計補正予算案など41議案を可決・承認し、10日に閉会した。感染症対策は、市単独事業の▽路線バス事業者に対する、J・R西日本の交通系ICカード「ICOCA(い)」の導入費用を支援▽出雲空港路線を利用した旅行商品の造成・PRの支援▽観光回復キャンペーン事業など6事業。条例案では、子ども医療費助成条例の一部改正と、新規自営業者に対する資金貸付事業に関する条例の一部改正が可決された。

9月定例会は当初10月2日までの日程だったが、直接請求に基づく条例案の提案などを受けて、9日まで会期を延長していた。

### 「非常に残念」

#### 提出の市民団体

松江市民団体が9日、住民投票条例案が否決されたことを受け、同案提案の直接請求代表者の一人、片岡佳美島根大学教授は、「非常に残念」と述べた。ただ「市民が、声を上げていいんだ、という認識が広がったと思う」と話し、署名活動などの意義を強調した。

市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めろ」の今後については、「活動は終わりに

なりません。(市民の)関心もつきっかけ」に

松浦市長

同日の市議会9月定例会閉会后、報道陣の取材に応じた。松浦市長は「(市の)発信力や説明不足を指摘いただいた。どうゆうことができるか考え、提起いただいた事を生かせる努力したい」と述べた。

新庁舎建設の一時中断の是非を問う、直接請求された住民投票条例案について、松江市民団体の田中代表は「市民との対話、再考」または「現行計画のまま着工」の二者択一の選択肢に対し、「住民の意思が判断できない」「投票者が困惑する」などの反対意見が多数を占めた。

採決は、市議会議長と辞退者1人を除く32人で行われ、共産党市議団(田中代表、3人)の全員と松政クラブ(野津直嗣代表、16人)の1人の計4人が賛成。残りが反対を表

「非常に残念」と述べた。ただ「市民が、声を上げていいんだ、という認識が広がったと思う」と話し、署名活動などの意義を強調した。

市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めろ」の今後については、「活動は終わりに

なりません。(市民の)関心もつきっかけ」に

松浦市長

同日の市議会9月定例会閉会后、報道陣の取材に応じた。松浦市長は「(市の)発信力や説明不足を指摘いただいた。どうゆうことができるか考え、提起いただいた事を生かせる努力したい」と述べた。

新庁舎建設の一時中断の是非を問う、住民投票条例案が否決されたことを受け、同案提案の直接請求代表者の一人、片岡佳美島根大学教授は、「非常に残念」と述べた。ただ「市民が、声を上げていいんだ、という認識が広がったと思う」と話し、署名活動などの意義を強調した。

市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めろ」の今後については、「活動は終わりに

なりません。(市民の)関心もつきっかけ」に

松浦市長

同日の市議会9月定例会閉会后、報道陣の取材に応じた。松浦市長は「(市の)発信力や説明不足を指摘いただいた。どうゆうことができるか考え、提起いただいた事を生かせる努力したい」と述べた。

同日の市議会9月定例会閉会后、報道陣の取材に応じた。松浦市長は「(市の)発信力や説明不足を指摘いただいた。どうゆうことができるか考え、提起いただいた事を生かせる努力したい」と述べた。

同日の市議会9月定例会閉会后、報道陣の取材に応じた。松浦市長は「(市の)発信力や説明不足を指摘いただいた。どうゆうことができるか考え、提起いただいた事を生かせる努力したい」と述べた。

# 住民投票条例案を否決

## 市議会 市民団体「非常に残念」

12月着工予定の松江市新庁舎建設事業を巡り、市議会は9日、着工延期か予定通りの着工かを問う住民投票条例案を反対多数で否決した。議長を除く33人が採決に臨み、賛成は4人。条例案は、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の直接請求によって提出された。同会は有権者の約10分の1となる1万4145人もの住民投票実施を求める署名を集めたが、その声は届かなかった。

【前田葵】

採決を前に、条例案の提出者である松浦正敬市長に対し各会派が代表質問。討論で、市議会6会派のうち松政クラブ▽市民クラブ▽公明クラブ▽友愛クラブが条例案に反対し、共産党市議団が賛成。真政クラブは立場を明確にしなかった。

松政は、住民投票には約8400万円を要するとして「選

択肢が明確ではなく、住民の意思を反映できない」と主張。また市内に居住する外国人の投票権について明記がないことを挙げ、その検討やシステム改修にも経費がかかると批判した。友愛は、事業は着工目前で、議会が責任を持って検討してきたとし「市民を分断することがあってはならない」とした。

一方、多くの会派が新庁舎事業の市民への周知や説明について、「方法はもっとあった」と話した。



住民投票条例案を採決する松江市議会。反対多数で否決された＝松江市末次町で

と指摘。市民は松浦市長が丁寧に説明するよう求めた。

閉会后、松浦市長は報道陣の取材に「私の意見に同意いただきありがたい。情報発信への指摘には対応したい。12月定例会で着工手続きを進める」と表明。議会を傍聴した同会の片岡佳美・共同代表は「非常に残念。民主主義とは何かを考え、声を聞いてほしかった」と話した。

# 市民の声市議会に届くか

## 住民投票条例案きょう採決

松江市役所本庁舎（松江期末次町）の建て替え事業を巡る住民投票の条例案が9日、松江市議会で採決される。午前10時に本会議を開き、条例案に関する質疑と、議員が賛否の理由や意見を表明する討論を経て、起立採決で住民投票の実施の可否を決める。市議が市民の声をどう受け止め、判断を示すのか、注目される。

（久保田康之、佐々木一全）

住民投票は、建て替え事業を中断して計画を練り直すか、12月着工を予定する市の計画通りに進めるかを

問うことを想定する。地方自治法に基づき、大学教授などでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が9月下旬、

1万4145人分の署名を添え、市内で初めて市長に条例制定を直接請求した。松浦正敬市長は反対の意見書を付け、市議会に条例案を提出し、市民団体のメンバー3人が今月2日、本会議で意見陳述した。採決は議長を除く議員33人で行う。

市庁舎整備を巡る各地の住民投票の実施例

実施日	自治体	主な選択肢	投票結果	投票率
2012年5月	鳥取市	耐震改修か新築移転か	→ 耐震改修	50.8%
14年8月	三重県伊賀市	現地建て替えか新築移転か	→ 投票率50%未満のため開票されず	42.5%
15年4月	滋賀県高島市	現庁舎の増改築か新築移転か	→ 増改築	67.9%
◇	長崎県壱岐市	庁舎建設に賛成か反対か	→ 建設反対	63.7%
5月	愛知県新城市	市計画の大幅見直しか大幅な規模縮小か	→ 大幅な規模縮小	56.2%
11月	大阪府和泉市	現地建て替えか新築移転か	→ 新築移転	48.8%
16年2月	沖縄県石垣市	現地建て替えか新築移転か	→ 新築移転	39.1%
3月	山梨県南アルプス市	現庁舎の増改築か新築移転か	→ 増改築	49.9%
20年8月	鹿児島県垂水市	新築移転に賛成か反対か	→ 移転反対	68.8%

致で条例が成立した。地方自治研究機構によると、2012年以降、鳥取市をはじめ、愛知県新城市や山梨県南アルプス市など9市で市庁舎整備に関する住民投票が実施され、6市で当初計画が見直された。

一方、議会が認めなかったケースも多い。総務省によると、12年以降に少なくとも13市で市庁舎整備に関する住民投票の条例案が否決された。

直近では今年8月、約94億円の事業費を見込む静岡市役所清水庁舎の移転の是非を問う住民投票条例案が、昨年10月に続いて否決され、住民投票の実施に至らなかった。

松江市議会が審議中の住民投票条例案は、着工を延期して市民が議論に参加できる時間を確保するか否かを目的としており、建設自体の賛否や移転の是非を問う他市の条例案とは異なる。

（久保田康之、佐々木一全）

### どうする!? 松江市役所 建て替え

市役所庁舎の整備に関する住民投票は近年、各地で実施例がある。市民が直接、意思表示できる機会を設け、民意を事業に反映させる動きが出ている。

住民投票は、地方自治法に規定された「住民による条例制定または改廃の直接請求権」（12条、74条）に基づくもので、議会の議決を経て実施される。

## 民意で計画見直し 各地で

鹿兒島県垂水市では今年8月、老朽化に伴う市庁舎の新築移転計画の賛否を問う住民投票が実施された。結果は賛成4080票、反対4424票の僅差で計

画反対が賛成を上回り、9月着工を目指していた尾脇雅弥市長が計画を白紙に戻すと表明した。市の計画では、約43億円をかけて海沿いの埋め立て

地に4階建ての新庁舎を整備する予定だった。これに対し、複数の住民団体が反対の声を上げ、住民投票条例の制定を請求。条例案はいったん昨年12月の市議会で否決されたものの、建設予算の執行を止める住民訴訟の動きがあり、議会内の賛否も拮抗していたことから、7月に一転して全会一

# 住民投票賛成広がらず

## 新庁舎市議会あす採決

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、松江市議会が9日、着工延期の是非を問う住民投票の条例案を採決する。山陰中央新報社の取材に対し、議員34人のうち23人が

賛否を明らかにしていないが、大半がこれまで市の事業計画に前向きな姿勢を示しており、条例案に賛成する議員は広がりを見せている。

住民投票は、建て替え事業を中断して計画を練り直すか、12月着工を予定する

市の計画通りに進めるかを問う内容で、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が9月下旬、市長に条例制定を直接請求した。

取材に対し、条例案を可決すべきだと答えたのは4

人で「住民の総意で市庁舎を建設するため」「住民の意見を聞く機会になる」といった理由を挙げた。

一方、7人が否決すべきだと回答し「一度事業が中断されると再開は難しくなる」「市民の安心安全のため」と主張した。

賛否を明らかにしなかった23人は「重要案件のため、慎重に審議している」などと説明。一部議員は、在任外国人の投票権の有無が記載されておらず、成立要件に投票率が含まれていない不備があるとして、条例制定に否定的な考えを示した。

9日は午前10時に本会議を開く。条例案に関する質疑、議員の意見表明（討論）を経て、起立採決を行い、住民投票の実施の可否を決める。

（佐々木一全、久保田康之）

どうする!?

## 松江市役所 建て替え

## 費用手間多い現地建て替え

境港市馬場崎町

松岡まゆみ 60歳

私は松江市民ではないのですが、松江新庁舎のことが気になっています。というのも新庁舎の建て替えが、今の場所で行わなければならないのだからかと疑問に思っているのです。

今の場所での建て替えとなれば、建設をしている間はどこで業務を行うのかと考えました。他の場所での業務となれば、

移動費やその手間などか

かると思いますし、その後、新庁舎の完成時には、また移動費と手間がかかると考えます。別の場所での建設であれば、移動は一度で済むので、負担は少なくなるのではないのでしょうか。

市長は今の場所がいいと言われますが、市民はどうとらえているのでしょうか。市の庁舎とは、市民のためにあると私は考えます。住民投票を市長は要らないと言われてもいますが、1万人以上の署名があったことから

も、市民は住民投票の必要性は少なからずあると思われているのではないのでしょうか。

庁舎の建て替えに150億円かかるのは、多いように感じます。コロナ禍の今、費用を抑えることも大切だと思えます。市民に寄り添うことも、為政者の大事な役割ではないのでしょうか。

松江市新庁舎

## 現地で建て替え観光活用も

松江市亭町

本間 順一 84歳

松江市民の皆さん、県都である松江市の本庁舎は、ぜひ現地で計画通りに着工していただきますよう、お力添えをお願いいたします。

眼前の穴道湖、東に大山、南に紫の山並みを越え美しい中国山脈、西に三瓶山。こんな素晴らしい環境を、松江市民が自信と誇りを持って県外の皆さまに紹介できる市庁舎は、この場所しかありません。

9月22日の本紙「どうする市役所建て替え／私たちの思い」で足立正智さんのお話がありました

た。「庁舎はまちの顔であるべき」というタイトルと「松江の都市計画ビジョンに適した存在感のある庁舎が建つことを願っている」と締めくくっておられました。私も全く同感であります。別の記事には「庁舎は

別の場所に建て現地は観光施設にすべき」との声もありました。しかし私は、松江の未来のために、素晴らしい眺望を新庁舎のテラスからご覧いただけるよう、観光バスの駐車場を確保していただき、穴道湖の夕日とともに松江の観光スポットにしたい、たくよう提案いたします。

## 議員は責任果たしてきたか

益田市木部町

野村 良二 76歳

連日本紙で松江市庁舎の建て替えについて大きく報道されていて、遠く離れた益田市に住む者として感じていることを書いてみます。

松浦市長の言われる

## どうする!? 松江市庁舎

「5年も前から議論しているのになぜ今になって」という気持ちは理解できます。こんな大きな事業をするにはまず基本構想をつくり、基本設計を経て実施設計を行い、入札にかけて工事業者を決定、その上で着手するという一定の手順があると思います。

市民に対して適切な情報提供を行い声を聞かれたのかも少々疑問に思えます。

議員定数削減が提起されるたびに、議員は「定数が減ると市民の声が届きにくくなる」と言われます。議員は今からでも市民の声を届ける姿勢を見せ、責任を果たしてほしいと思います。



## 異論に耳を傾ける民主主義

松江市米子町

坪内 智江 39歳

数十年ぶりに学生時代の友と10人ほどで旅館に泊まることになっていった。そんな中、メンバーの1人が車椅子生活になってしまった。計画当初には歩けたので異論はなかったが、予定の旅館はバリアフリーではないので、このままでは泊まらない。

「計画して提示した時には異論がなかったのだからもう変更はできない」「まあ、そう言わずに。時間がかかるけど、変更して車椅子のそいつが参加できるなら、計画を練り直そうや」

市長と市民団体の新庁舎問題は私の目にはこう

映る。

市役所新庁舎の計画を立て始めた5年前と比べ、大規模災害が格段に増え、コロナ禍で生活様式が随分変わった。業務の電子化も一層進んで、手続きの仕方も変わってくる。

移転すれば、市役所周辺の飲食店や現地の方が

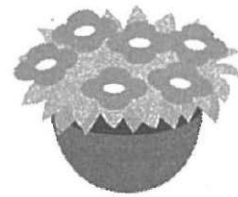
## 市議は市民に説明したのか

松江市砂子町

小畑 稜一 60歳

今後五、六十年は使うであろう松江市役所の建設は大事業です。市職員にとっても市民にとっても使いやすく災害にも対応できる施設の建設を望みます。

便利な人が反対するのは必至だろう。ただ、市民団体が求め



ているのは、異論に耳を傾けること。民主主義とはそういうことではないだろうか。

新庁舎に関しては今、

市民の一部が立ち上がり、計画の見直しを訴え、住民投票に向けて動いている。いつしやるようです。ここまで議論が盛り上がってきたなら立ち止まった方がよいと思います。2020年度末までの事業には、34億円の補助金がつくとのことですが、それを踏まえても安易に

事業を進めないほうがいいような気がします。

私が思うところ今回の問題は、市議会議員さんが日頃、市政報告会などで松江が抱えている問題を支持者に説明し、市民の声を吸い上げていくことをしていたなら、このような事態には至らなかつたのではないのでしょうか。

他にも県の問題かもしませんが、松江北道路の建設も今本当に優先的に必要な事業かどうか論議されてもよいかと思います。

来年4月には市長選、市議会選も予定されていると思います。この機会に市政の問題を市民が共有し、今回の件にしても広く市民からアイデアを募って対案をいくつか出し、21世紀を生きる子どもたちに自慢できる松江を残していければいいと思います。

どうする!? 松江市庁舎

# 住民投票求め意見陳述

# 「新庁舎 市民の声聞いて」



住民投票条例の制定を求めて市民団体の代表者が意見陳述した松江市議会本会議—松江市末次町

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡る住民投票の実施を求め、条例制定を直接請求した市民団体のメンバー3人が2日、市議会本会議で意見陳述した。12月着工を予定する市の計画に対し、市民の理解や納得が得られておらず、市民が議論に参加できる時間を確保すべきだとし、着工延期の是非を問う住民投票の必要性を訴え掛けた。

（佐々木一全 24、25面に関連記事）

## 市民団体 市議会で初の訴え

意見陳述の主な内容(発言順)

### 関耕平氏

市が手順を踏んで周知に努めたことと、市民の合意形成が獲得できているかどうかは別問題だ。私たちが求めているのは計画の白紙撤回ではなく、市民との対話と討論だ。

### 長谷川浩二氏

署名をした1万4145人の中には、市の建て替え計画に賛成している人も、疑問を持っている人もいる。両者の思いを受け止めて住民投票を実施すべきだ。

### 片岡佳美氏

住民投票で問うのは事業への賛否ではなく、市民を交えた議論の時間をつくるか否かだ。市民のための市民による市政を実現するため、声を上げている市民を無視せずに、事業を検討してほしい。

## どうする!? 松江市役所 建て替え

地方自治法に基づき、意見陳述したのは、条例制定を請求した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めると」の代表を務める片岡佳美氏（島根大教授）、関耕平氏（同）、長谷川浩二氏（自営業）。市議34人と市長が出席した本会議で、各15分の持ち時間で意見表明した。

関氏は手順を踏んで市民に説明してきたとする市側の主張に対し「周知に努めてきたこと、市民の納得と合意形成が得られている

かどうかは別問題だ」と強調。住民投票を通して市民との対話や議論を行うよう求めた。

これまでの市報の誌面をパネルで示し、情報量の少なさを指摘した長谷川氏は「市報をくまなく読んでも150億円の総事業費一つ分らない。住民投票を求める1万4145人分の署名の重みを切り捨ててよいのか」と訴えた。

片岡氏は「住民投票は新

庁舎の建設の賛否や建設場所を問うものではなく、市民が議論に参加できる時間をつくるか否かを問うものだ」とした上で、「市民は意見を聞いてほしいと言っている。民主主義を尊重するからこそ、住民投票を求める」と述べた。

意見陳述は請求者に質疑を行う参考人招致とは異なるため、議場での市議や市長の発言はなかった。大規模地震への備えや既

紙面編集・斉間 大輔

に連続予算が可決されていることなどを理由に住民投票に反対する松浦正敬市長は終了後の取材に対し「行政の手続きが終わって直接請求するのはある意味で権利の乱用だ」と述べた。

市議会は9日に本会議を開き、市長への質疑と賛否の討論後、起立採決で住民投票条例案を採決する。



# 住民投票 迫る議会の決断

## 市民の声重く受け止め



松江市が現地建て替えを計画する市役所本庁舎—松江市末次町

松江市役所本庁舎の建て替え事業を巡り、市議会の議場で住民投票の実施を求める市民団体の主張を聞いた市議の多くは、市民からの意見表明を歓迎しつつ、住民投票の条例制定には慎重姿勢を見せた。松浦正敬市長は改めて反対の意思を示した。

市民団体のメンバー3人の意見陳述に耳を傾けた自民党系の最大党派・松政クラブの森脇勇人議員は「市民が市政に関心を持ち、発言することは歓迎すべきことだ」と評価した。一方、「思えばかりの主張だった」とも述べ、市長が意見書で指摘した条例案の規定の不備に対する説明がなかったことを残念がった。

公明クラブの篠原栄議員も「(意見は)しっかりと受け止めさせてもらった」としつつ、市議が市民を見

ていないと訴えた市民団体の代表の主張には「あくまでも代表個人の意見だ」と話した。

松政クラブに所属する出川桃子議員は「真の民主主義とは何かという問いかけに、改めて正面から向き合

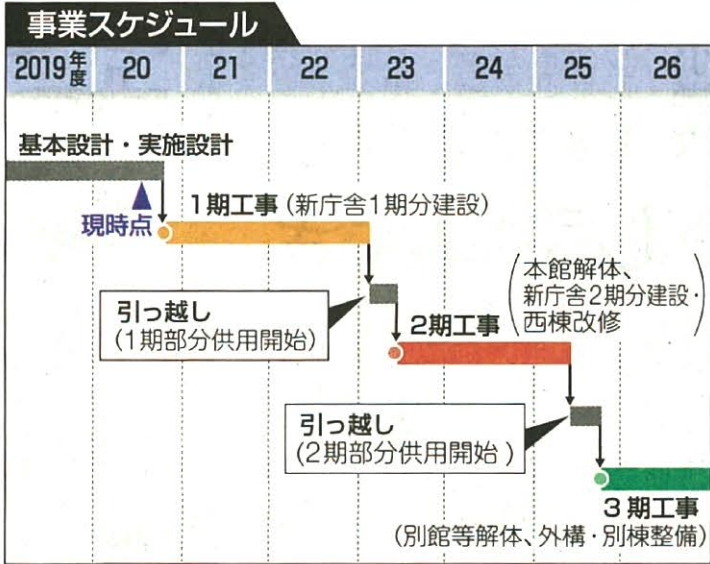
### 窓口分散解消

### 面積1.5倍

### 災害対策強化

### 市、工期7年の見込み

松江市が12月着工を予定する市役所本庁舎の建て替えは、総事業費を150億～160億、工期を約7年と見込む。穴道湖畔の現地に地



建設することで、行政サービスの窓口が分散している問題を解消し、2階以上にテラスを設けて市民や観光客に開放する計画だ。

市の基本設計によると、新庁舎の延べ床面積は現庁舎の1.5倍となる約2万5千平方メートル。近隣の別棟や環境センター(松江市学園南1丁目)に分散していた市役所機能を集約する。

大規模地震に備えて建物の被害を抑える免震構造を採用。浸水対策のほか、原子力災害を想定した対策も設ける。

具体的には、今年12月、23年春の1期で現庁舎の南側駐車場に新庁舎の半分を建て、23年春～25年秋の2期で新庁舎の残り半分を建設する。25年秋～27年春の3期で別館の解体や外構工事を終える。

総事業費のうち、約30億円は国が返済時に財政支援する有利な起債を充て、約50億円を庁舎建設基金(貯金)・約70億円を地方債(借金)で賄うとしている。

(久保田康之)

つていく決意を固める契機となった」と述べ、住民投票の実施を求める市民団体の訴えに理解を示した。

既に市議会に反対の意見書を提出している松浦市長は終了後、記者団に対して「(住民投票を求める)直と反論した。(取材班)

「事業の中断によって議論を白紙に戻してしまうと、庁舎が建てられなくなる」と反論した。(取材班)

接請求の権利はあるが、行使するタイミングがあると思う。行政の手続きが終わってから出すのはある意味で権利の乱用だ」と強調。

「事業の中断によって議論を白紙に戻してしまうと、庁舎が建てられなくなる」と反論した。(取材班)

# 民主主義本質求め意見陳述

市議会本会議で意見陳述した。代表の片岡佳美氏（島根大教授）、関耕平氏（同）、長谷川浩二氏（自営業）の発言要旨は次の通り。

（取材班）＝1面参照

## どうする!? 松江市役所 建て替え

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡る住民投票の実施を求め、条例制定を直接請求した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」のメンバー3人が2日、



自営業 長谷川浩二氏



島根大教授 関耕平氏



島根大教授 片岡佳美氏

### 市民に議論参加機会を

住民投票は新庁舎の建設に賛成か反対かを問うものではなく、市民が議論に参加する時間をつくるか否かを問うものだ。私たちは事業計画の決め方や進め方を問題にしている。現状では市議会に市民が十分に参加できていない。市議会では長年、新庁舎に関するたくさんの議論が行われてきたが、市民の思

住民投票は新庁舎の建設に賛成か反対かを問うものではなく、市民が議論に参加する時間をつくるか否かを問うものだ。私たちは事業計画の決め方や進め方を問題にしている。現状では市議会に市民が十分に参加できていない。市議会では長年、新庁舎に関するたくさんの議論が行われてきたが、市民の思

### コロナ踏まえるべきだ

市民が建設問題に敏感になっている背景には、コロナ禍による地域経済や財政への不安がある。市は事業費を盛り込んだ中期財政見直しを根拠に「財政運営

市民が建設問題に敏感になっている背景には、コロナ禍による地域経済や財政への不安がある。市は事業費を盛り込んだ中期財政見直しを根拠に「財政運営

### 公正性や正当性に傷

私たちの活動で集まった署名1万4145筆の中に、市は建て替え計画に賛成している人も、疑問を持っている人も、両者の思いを真摯に受け止め、住民投票を実施する必要がある。市は意図せず、5年間

私たちの活動で集まった署名1万4145筆の中に、市は建て替え計画に賛成している人も、疑問を持っている人も、両者の思いを真摯に受け止め、住民投票を実施する必要がある。市は意図せず、5年間

## 3氏の主張に真剣 傍聴席、賛同や疑問

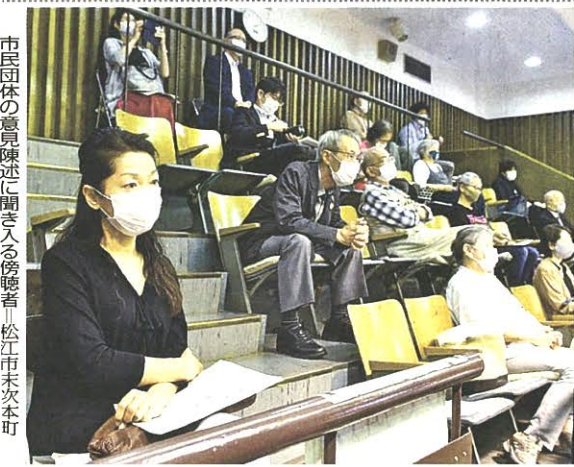
住民投票条例案を直接請求した市民団体の代表者による意見陳述を聞こうと、松江市議会議場の傍聴席が埋まった。市民運動が本格化した以降初めて、市や市議会に直接意思表示する場となり、傍聴者は腕組み、時折うなずきながら、主張

住民投票条例案を直接請求した市民団体の代表者による意見陳述を聞こうと、松江市議会議場の傍聴席が埋まった。市民運動が本格化した以降初めて、市や市議会に直接意思表示する場となり、傍聴者は腕組み、時折うなずきながら、主張

「公に意見できる場が設けられたことで、市役所建て替えへの問題意識がぐっと高まった」と高松町名分の農業安達進さん(67)は、登壇した3人の声にじっくりと耳を傾けた。「民主主義の根本が問われている」と感じ入り、「市議会は市民の声を反映した判断をしてほしい」と、9日の条例案の採決を注視する考えを示した。

同市国屋町の無職酒向武(7)さんは、市役所建て替えに関する市広報が不十分と感じており「市報くらいでは、市民は把握できない」と厳しい口調。同市の自営業の60代女性は「このまま事業を進めるのではなく、立ち止まるべき」との意見が出ている。住民投票をやったかどうか」と持論を述べた。

市民団体の主張に疑問を持つ声もあった。同市中原町の無職太田穂さん(73)は「市の説明が足りない」と言っているが、市議会が議決して、きちんと検討しているはずでは」と首をかしめた。



市民団体の意見陳述に聞き入る傍聴者。松江市末次町

## 松江新庁舎建設 住民投票条例案

# 請求代表者「可決を」

松江市の新庁舎建設をめぐり、計画中断の是非を問う住民投票条例制定を本請求した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めの会」の代表者3人が2日、市議会で意見陳述した。

「市民の納得と合意形成に十分配慮すべきだ」「署名(1万4145人分)の重みを受け止めて」と訴え、9日の採決では可決するよう求めた。

条例案は「中断して住民



との対話、討論を踏まえて再考する」か「現行計画案のまま着工する」の二者択一で問う。建設の是非ではなく、公共事業の決め方や進め方を問題にしている。

意見陳述は1人15分以内。初めに関耕平・島根大学教授が、市や市議会で議論されてきたことを認めたくらうで「市民に情報が行き渡り、納得と合意形成が獲得できていることは別問題。市民との対話と討議を尽くして意向を反映させるべきだ。可決されることを願っている」と主張した。代表呼びかけ人の片岡佳美・島根大教授Ⅱ写真Ⅱは「請求は、市民が議論に参加する機会を設けるための時間を作るか否かを問うもので、議会制民主主義を補完している。今声を上げて

いる市民の声を無視せず検討してほしい。市民は大きな関心を持って見ている」と訴えた。

条例案は本請求を受けた松浦正敬市長が9月29日に提案した。その際、老朽化した現庁舎は倒壊の危険が高く、緊急性がある▽2015年2月議会で現地建て替え方針を表明後、5年かけて市民への説明などをしてきた▽市議会での議論も経て、25年度までの工事予算の議決を経た——ことなどを説明。「住民投票の実施は必要ない」と制定に反対の意見を述べた。

陳述後、報道陣の取材に片岡教授は「主張は伝えられたと思う。意見を踏まえて可決されることを願っている」。一方、松浦市長は「直接請求が民主主義の補完と主張するならタイムリングがある。様々な手続きが終わった中で出すのは権利の乱用だ」と述べ、建設の方針を変えない考えを改めて示した。

(杉山匡史)

# 松江市新庁舎巡る住民投票条例

# 直接請求の住民団体が意見陳述

## 「民主主義とは何か、考えて」

新庁舎建設の一時中断の是非を問い、松江市に住民投票条例の制定を求める直接請求を行った市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の呼びかけ人3人が2日、松江市議会本会議で意見陳述し、条例案の可決を訴えた。9日に採決が行われる。



議場での意見陳述は地方地自法に基づくもの。登壇した、島根大学教授の関耕平さんとパソコン教室経営者の長谷川浩一さん、同大学教授の片岡佳美さんの3人が、それぞれ条例案の趣旨を説明した。

住民投票条例案の可決を訴える片岡さん(2日)、松江市末次町の松江市議会本会議場

片岡さんは、条例案は「新庁舎建設の反対や撤回を求めるものではない」とした上で、「市民が議論に参加する期間を設けるために、時間を作るか否かに、時間をとるかと強調。問う」ものだと強調。

「知らないうちに、詳しい内容が決まっていた」「結果的に、市民は置いてけぼり」などと指摘し、「民主主義とは何か。これを考えて審査いただきたい」と訴えた。

同日の本会議終了後、報道陣の取材に応じた松浦正敬市長は、この直接請求について「市議会の議決など(全て)が終わってか

ら出すのは、タイムシフトとしておかしい」と指摘。現庁舎の耐震性問題に触れ、「早くに建て替えないといけない」と改めて計画通り着工する考えを強調した。

直接請求は、市民1万4145筆の署名に基づくもので、同市民団体は署名とともに、条例案を市長に提出。松浦市長が開会中の松江市議会9月定例会に上程し、審査が行われている。

同新庁舎建設を進めては、別の市民団体が、現行計画の対案として、県民プール跡地(松江市学園南)への「移転建替」案を発表している。

## 市民と議論 する機会を

松江市庁舎建て替え  
市民団体が議会陳述

松江市役所本庁舎の建て替え計画で、工事の一時中断の是非を問う住民投票条例制定を直接請求した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の代表者は2日、市議会で見陳述し、新庁舎計画を市民と一緒に議論する機会を設けてほしいと訴えた。市議会は9日、採決する。

求める会の呼び掛け人の片岡佳美島根大教授ら3人が1人15分の持ち時間で意見を述べた。

このうち片岡教授は、市議会に提出された住民投票条例案が、新庁舎建設の賛否や現行計画の撤回を問うものではなく「市民が議論に参加する機会を設けるために時間をつくるか否かを問うもの」と説明した。

一方、市側が長い時間をかけて計画を作ってきたこ

とは認めながらも「市民は知らないうちに計画が決まった」と思っている」と決定までのプロセスを問題視。「パブリックコメントを踏んでも市民が知らないと感じているなら不十分。やり方がまずかったと言わざるを得ない」と主張した。

新庁舎の建て替えを巡り、求める会は1万4145人分の署名を集めたほか、別の市民団体は現行案とは違う事業計画案を発表している。（高埜正範）

# 住民投票の意義訴え

松江・新庁舎 団体が意見陳述

市議会

12月着工予定の松江  
市新庁舎建設事業を巡

り、市民団体「松江市  
民のための新庁舎建設  
を求める会」の直接請  
求によって住民投票条



住民投票条例につ  
いて意見を述べる  
片岡佳美共同代表  
＝松江市末次町の  
市役所で

例案が提出されたのを  
受けて2日、市議会で  
同会の共同代表3人が  
15分ずつ意見陳述し  
た。片岡佳美・島根大  
教授は「(事業は)多  
くの市民の思いを反映  
しているとは言えな

い。市民を無視せずに  
検討を」と主張。議員  
と、立ち見を含む約25  
人の傍聴人が耳を傾け  
た。

あったのか」とし、住  
民投票の意義を訴え  
た。  
9日の本会議で、条  
例案を提出した松浦正

関耕平・島根大教授  
は「市が手順を踏んで  
事業の周知に努めて  
きたことと、市民の納  
得と合意形成が獲得  
できているかは別問

敬市長への質疑と討論  
を経て採決される。議  
員34人のうち最大会派  
の松政クラブ(16人)  
の動きが採決を左右す  
る。  
【前田葵】

題」、長谷川浩二代表  
は「市民が事業につい  
て知り、意見を述べる  
チャンスはどれくらい

紙面編集 永瀬 尊将

# 市民は行政判断に関われないのか

哲学者・國分氏

どうする!?

## 松江市役所 建て替え



國分功一郎氏

「住民投票には現在の民主主義を補完する機能がある」。こう訴えるのは哲学者の國分功一郎氏だ。着工延期の是非を問う住民投票条例制定の直接請求が行われた松江市役所本庁舎（松

江市末次町）の建て替え事業。2013年に東京都小平市の都道建設計画を巡る住民投票に関わった國分氏は、自身の体験を踏まえて「日本の民主主義には行政の判断に市民が関われない根本的な問題がある」と指摘する。

# 議会制が問題覆い隠す

## 公の議論 住民投票の意義

多様な民意を議会がどう判断するかが問われている、松江市役所本庁舎（松江末次町）の建て替え事業を巡る住民投票条例制定の直接請求。哲学者の國分功一郎氏は、議会こそが民主主義の中心という考え方が問題を覆い隠してきたと指摘。行政の決定に関わりたくないという住民の純粋な思いが住民投票という形に反映されているとし、行政は情報を包み隠さず提供するように求める。9日の市議会採決を前に、民主主義の在り方などを聞いた。（聞き手は報道部・多賀芳文）

### 民主主義の在り方 國分功一郎氏に聞く

「地方自治体の政策決定 何かに対し、住民が異を唱えるケースが全国で相次ぐ。議会制民主主義が運用されている自治体で、こうした事態が起る根本的な原因は

「議会制民主主義の盲点に着目する必要がある。近代の政治理論では、立法権に最終的な決定権（主権）がある」とされているから、市民が立法府、つまり議会に何らかの形で関わって「民主主義」を標榜できてしまう。市民は選挙を通じて議会に関わることしかできず、実際の政策を決定している役所のような行政執行部にほとんど関われない」

### どうする!? 松江市役所 建て替え

「主権者たる市民は、議が公的に介入できるルート



こくぶん・こういちろう 東京大大学院総合文化研究科博士課程修了。東京大大学院総合文化研究科・教養学部准教授。専門は哲学・現代思想。自身が住む東京都小平市の都道建設を巡る住民投票に関わった。著書に「スピノザの方法」「暇と退屈の倫理学」（紀伊國屋じんぶん大賞受賞）「来るべき民主主義」「中動態の世界」（小林秀雄賞受賞）など多数。千葉県出身。46歳。

「住民投票といっても、役所が主導するものと、住民が直接請求するものとでは全く性質が異なる。松江市の例は後者であり、行政の決定に関わりたくないという住民の皆さんの気持ちが反映された結果と言える。当事者でない私にも言えるのは、それだけの署名が集まったという事実は、これまでの行政の進め方に説明不足などの問題点があったのだらうということだ。ならば、行政は、住民の理解を求め、情報を詳細に公開していけばいい」

「松江市側は、政策実行の過程でパブリックコメント（意見公募）や特別委員会を経て、適切な手続きを取ったと説明している。『自分たちが適切と考えた手続きを取っても不十分だったのなら、さらに知恵を絞って、不十分を補うよう努力すればいいだけだ。民間企業では、いつも通りの仕事をしても利益が下がっているならば、改善しようとして工夫する。役所が通常の方法で理解を得られない

「情報や論点の共有」

「住民投票の意義とは何なのか。『世論はあらかじめあるものではなく、つくっていくもの』という考えが大切。その意味で住民投票において、実際の投票日よりむしろむしろ、そこに至るまでの期間に意義がある。さまざまな情報が公開され、さまざまな論点が報道され、一人一人が周りの人と何げなくこの問題について話をしながら意見を組み立てていくことができればいい」

「住民投票が双方のネガティブキャンペーン（中傷攻撃）や分断を招くと指摘する声もある。『住民投票を行わねばならないような問題が既に議論のならば、むしろ公に議論しないことにより分断が生まれてしまうだろう。話すべきことを話さなければ、人々の間に嫌な雰囲気だけが残る。それは日常生活の知恵として誰もが知っていることではないだろうか』

「他自治体の事例に目を向けると、住民投票の直接請求後に議会で否決されたら、住民投票の結果に反する決定が実行されたりするケースが珍しくない。住民投票の運動に意味はあるのか。『私自身、署名集めのためには5分ぐらい立ち話をするだけで、無関心だった人が大いに関心を深めてくれるという経験をした。住民投票運動は情報や論点の共有という大きな役割を果たすと思う。後の選挙に影響することもある。行政は一般に住民投票運動の成り行きをかなり気にしているから、プレッシャーも与えているだろう』

「市民と行政は住民投票にどう向き合うべきか。『市町村行政は私たちの身近な生活に直結している。例えば、保育所が閉所すれば子育て世代が仕事もままならなくなるように、行政の決定が明日の生活を左右する。住民税を支払っている身として、文句を言うためではなく、『いかに役立つことをやってもらうか』という視点で提案し、そして監視もしていく。こうした姿勢を忘れないようにしたい』

「役所の人も市民に役立つたいと思って仕事している。本当は、市民の生の声を聞けば聞くほど、行政は自信を持って仕事を進められるはず。市民に疑念や不満が広がっているのであれば、論点を数行で説明するような資料を作って満足するのではなく、生の詳細な情報を公開し、自分たちがやっていることを理解してもらおうという気持ちで当たってほしい」

取材はヒデオ通話システム「Zoom（ズーム）」で行った。

「地方議会の場合、主たる仕事は予算案の承認で、議員が役所の決定一つ一つに十分に関わっているとは言えない。例えば、道路を整備する際、地図を使って検討しているのは議会ではなく役所。行政は決定された事項を粛々と遂行する機関とのイメージがあるが、実際には遂行する以前に多くを決定している。ところが、その役所の決定に市民が公的に介入できるルート

「不十分補う努力を」

「松江市役所本庁舎の着工延期の是非を問う住民投票条例の制定を求める有効署名数は1万4145票。直接請求に必要な数（約3

「不十分補う努力を」

「松江市役所本庁舎の着工延期の是非を問う住民投票条例の制定を求める有効署名数は1万4145票。直接請求に必要な数（約3

「不十分補う努力を」

「松江市役所本庁舎の着工延期の是非を問う住民投票条例の制定を求める有効署名数は1万4145票。直接請求に必要な数（約3



東京都小平市では都道整備計画で雑木林（奥中央）の伐採が懸念され、住民投票運動が起った。2013年、共同通信社へりから



# 住民投票条例案 提出

# 1万4千の民意

# どう受け止める

# 議会問われる判断

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、市民団体が直接請求した着工延期の是非を問う住民投票の条例案が29日、市議会に提出された。住民投票の実現を求めて署名した1万4145人の民意をどう受け止めるのか、市民から負託を受けた市議が大きな判断を迫られる。

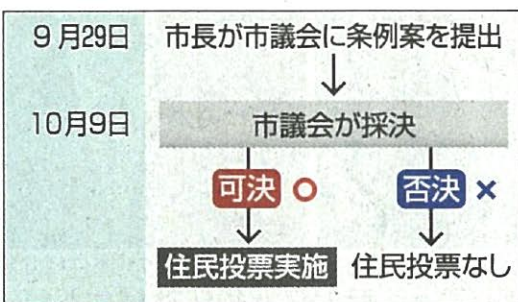
（久保田康之）

「はない」と述べた。提出後、取材に対してこれまで議論してきた内容と変わった考えを申し上げたつもりはない。市議会の皆さんには十分ご理解いただき、判断いただければ」と述べた。

市議会は今後、10月2日に本会議を開いて条例制定を直接請求した市民団体の代表4人が15分ずつ意見陳述する場を設ける。9日に再び本会議を開き、松浦市長に対する質疑と賛否の討論後、起立採決で住民投票を実施するかどうかを決める。

## どうする!? 松江市役所 建て替え

住民投票条例案を巡る流れ



住民投票の実施に反対する意見書を付けて条例案を提出した松浦正敬市長は市議会本会議で、現庁舎は耐震強度が不足しており、大規模地震に備えて一日も早く新庁舎を建設する必要があると強調。市政に市民が関心を持つことは重要としつつ、5年がかりで議論してきた経緯があるとして「住民投票を実施する必要

# 住民投票条例案 提案

## 松江新庁舎建設 市長は反対意見

松江市の松浦正敬市長は29日の市議会本会議に、新庁舎建設の計画中断の是非を問う住民投票条例制定案を提案した。市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の本請求を受けたもので、「住民投票の実施は必要ない」と制定に反対する意見書をつけた。

10月9日に採決される。条例案は、「中断して住



住民投票条例案を提案する一方、制定に反対の意見を述べる松浦正敬・松江市長＝松江市末次町

民との対話、討論を踏まえ「現行計画案のまま着工する」の二者択一で問う内容。建設の是非ではなく、公共事業の決め方や進め方を問題にしている。

松浦市長は意見書で、本館と隣接する計7棟は築40～58年で現在の耐震基準を満たしておらず、大規模地震時は倒壊の危険性が高いことを挙げたうえで緊急性を強調した。

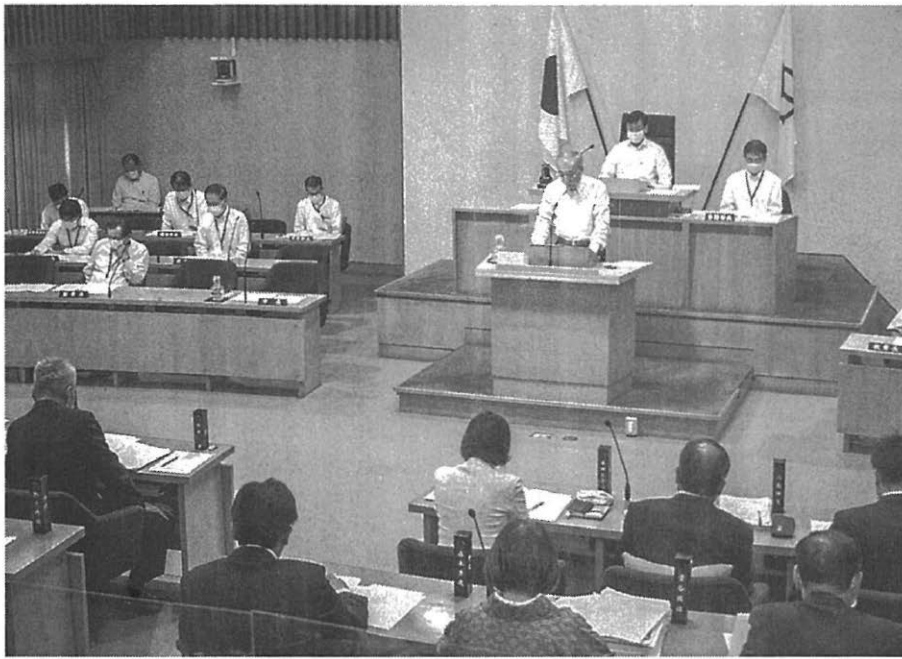
そのうえで15年2月議会で現地建て替え方針を表明後、広報誌などで情報を伝え、市民から意見を募るパブリックコメントを実施するなど、情報公開や市民の意見を聞いてきたとも主

張。市議会による基本設計の了承や、25年度までの工事予算の議決も経てきていない」とした。

新庁舎は、移転にすると跡地も含めた新たなまちづくりが必要で事業費が高くなる。期間も長くなりメリットはないとした。

最後に「署名(1万4145人分)の事実は真摯に受け止める。市民の負託を受けた議員の意見を聞き、理解を得て進めるため住民投票の実施は必要はない」とし、12月着工の考えを改めて示した。

「求める会」代表呼びかけ人の片岡佳美・島根大教授は取材に「反対を明確に主張されたことは非常に残念だ。市民不在で事業が進んでいることに対して問題提起し、採決までにしっかりと議論してもらおうように訴える」と話した。(杉山匡史)



提案理由とともに反対の立場から意見を述べる松浦市長＝29日、松江市議会本会議場

## 松江市新庁舎

# 直接請求受け条例案上程

## 松江市長「住民投票必要ない」

新庁舎建設の一時中断の是非を問う、住民投票条例の制定を求める直接請求を受け、松浦正敬松江市長は29日、開会中の市議会9月定例会に、条例案を提出した。10月2日に、直接請求の代表者が意見を陳述し、9日に採決が行われる。

提案理由の説明に際し、松浦市長は、「一定数の市民が署名された事実は真摯(しんしん)に受け止める必要がある」とした一方、市民や市議会からの意見を聴き、計画を構築してきたことを強調。「住民投票を実施する必要はない」とする意見を付け加えた。「建設費用を、新型

コロナウイルス感染症の対策に使ってはどうか」などとする、市民団体の提案に対しては、「新庁舎建設も、これ以上先延ばしがない最重要課題(同感染症対策と)同時に進めなければならぬ」と説明。同感染症の影響で疲弊した市内経済の回復のため、経済界から「計画通りの

事業推進を強く求められている」と述べ、理解を求めた。

同条例案の提案は、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人)による直接請求を受けたもの。同団体は1万4145筆の署名を集め、条例案とともに、市長に提出していた。

松浦市長が、「現地建替え」とする新庁舎建設を表明したのは2015年の2月定例会。当初、現庁舎の耐震化事業が検討されていたが、▽築後約60年が経過▽1981年以前の「旧耐震基準」に基づく構造であることなどから、技術的・財政的に困難だと判断。「現地建替え」について、市議会特別委員会や、市民らによる「新しい松江市役所検討市民会議」パブリックコメントなどで意見聴取、議論が重ねられていた。着工は2020年12月の予定。

# 「住民投票」の実施 松江市長 反対意見

## 市役所建て替え計画

松江市役所本庁舎の建て替え計画で、市民団体が工事の一時中断の是非を問う住民投票条例を制定するよう直接請求したことについて、松浦正敬市長は29日の市議会本会議で、条例制定に反対する立場の意見書を添えた上で条例案を提出した。市議会は10月2日に市民団体から意見を聞いた上で9日に採決する。

市民団体が求める住民投票は、新庁舎の建設を中断して再考するか、現地で建て替える現行計画のまま着工するかを市民に問う。

直接請求では1万4145人分の署名が集まっており、松浦市長は意見書で「一定数の市民が署名をされた事实は、真摯しんしに受け止める必要がある」としながらも、これまで市民の負託を受けた議員とも連携しながら進めており「住民投票を実施する必要はない」と述べた。さらに意見書では、現庁舎は老朽化が進み、大規模地震が起これば倒壊の恐れがあることや、2015年からワークショップやパブリックコメントを実施して市民から意見を聞いてきたことなどを挙げ、プロセスに疑義を訴える市民団体の主張に反論した。

(高埜正範)

住民投票条例案への反対意見を述べる松浦正敬市長  
〓松江市末次町の市役所で



## 条例案に反対意見付帯

松江庁舎住民投票 市長が提出

松江市長が12月着工予定の新庁舎建設事業を巡って市民団体が着工

延期の是非を問う住民投票条例制定を直接請求したのを受け、松浦正敬市長は29日、市議会に条例案を提出した。松浦市長は市議会での議論を経てまとまった事業だとして「突然中断することは考え

られない」と反対する意見を付けた。10月9日に採決される。

付帯意見では、新庁舎について▽現庁舎は耐震基準に満たず早く新庁舎が必要▽(現地建て替えてなく)移転の場合は築15年の西棟の解体などでコスト増▽庁舎建設と新型コロナ対策は並行する――

などと説明。条例案については▽選挙肢が不明確で住民の意思が反映できない▽住民投票の成立要件である投票率に関する規定がない――とした。

松浦市長は議会后、報道陣の取材に「これまでの市の説明に関心も無かったのに、何も聞いていないと言われるのは乱暴。住民投票も対案を設けて住民の判断を仰ぐものではない」と述べた。【前田葵】

県の財源推移予測  
16億〜22億円不足

21〜25年度

県は29日、2021〜25年度の財源不足が16億〜22億円で推移するとの財政見通しを発表した。21年は18億円

# 松江市長 条例案反対意見

## 年度内着工の計画推進

きょう提出

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、松浦正敬市長が住民投票の実施に反対する意見を付け、29日に市議会へ条例案を提出することが明らかになった。着工延期の是非を問う市内で初めての住民投票の実現を求め、約1万4千人分の署名が集まったが、否定的な立場を明確にする。市議会は10月9日に条例案を採決する。

（久保田康之） 26面に関連記事

# 市議会10月9日採決



松江市役所本庁舎—松江市末次町

### 住民投票条例案を巡る今後の流れ



地方自治法によると、市民団体から条例制定の直接請求を受けた松浦市長は、20日以内に自身の意見を付して条例案を提出しなければならぬ。条例案が成立するか否かは議会に委ねられている。

意見書で松浦市長は「一定数の市民が署名された事実を踏まえ、東日本大震災や熊本地震を教訓に、市民の生命と財産を守る市役所機能を維持するため、一日も早く新庁舎整備を進める必要がある」と強調。市議会で既に建設工費の大部

実は真摯に受け止める必要がある」としつつ、「新庁舎建設という重要な事業を議会制民主主義の中、市民の負託を受けた議員の理解を得ながら進めており、住民投票を実施する必要はない」と記載。年度内に着工する現行計画を推進する考えを改めて示した。

**どうする!?**  
**松江市役所 建て替え**

分を占める予算が可決され、実施設計も最終盤を迎えており「この状況下で事業を突然中断することは考えられない」とした。

## 10月2日意見陳述

## 市民団体の代表者

松江市議会の議会運営委員会（森脇勇人委員長、9人）が28日、松江市役所本庁舎の建て替え事業に関する住民投票条例案の審議日程を決めた。10月2日に条例案を直接請求した市民団体の代表者による意見陳述を行い、9日に松浦正敬市長への質疑を実施した後、採決する。いずれも本会議を開き、委員会審議は省略する。

この日は、条例案を審議するため、9月定例会の会期を10月9日まで7日間延長することを決定。市議者が請求者に質問をして見解や

財源に関しても、庁舎整備に用途が限られた地方債や基金を充てる予定で、新型コロナウイルス対策には活用できないと説明している。このほか、極端に投票率が低ければ、偏った結果が住民の総意と見なされる可能性があるがあり、住民投票の結果を市長、市議会が尊重するためには最低投票率を規定すべきだなどと、条例案の内容にも不備があると記した。

（佐々木一全）

# 「一方通行で対話ない」

## 広報や議論尽くしたと市

### ④なぜ説明不足と声上がるのか

松江市役所本庁舎（松江 市末次町）の建て替え事業に関する市民運動が広がった最大の要因は、市側の消極的な説明姿勢にある。市民の多くが事業計画を理解していないと訴える市民団

体に対し、市は「説明を尽くしてきた」と繰り返すばかりで、対話を拒むかのよきな対応に不満の声が相次ぐ。若者の政治参加を考えると、島根大の学生団体「ポリレ

ンジャー」は8月下旬、建て替え事業に対する市民の関心を高めようと、市担当者と着工延期や計画の変更を求める市民団体のメンバーによる公開討論会を企画した。



7月上旬に市が開いた住民説明会で担当者から事業計画を聞く市民—松江市北田町、城東公民館

しかし、学生の呼び掛けに対して、市は「出席することは適切ではない」と返答。これまでも市民の意見を反映して事業を進めてきているとの理由だったが、沢田香純代表（20）＝法文学部2年＝は「どうして断るのか」と首をかしげざるを得なかった。

市が繰り返すのは、これまで市報やホームページなどで説明が不十分だと批判が相次いでいることを問われた松浦正敬市長は「情報は常に出している。自分の耳に入っていないことをもって『説明がない』と言いや、それを理由に着工延期を求めるのは少し乱暴ではないか」と反論した。

市が繰り返すのは、これまで市報やホームページなどで説明が不十分だと批判が相次いでいることを問われた松浦正敬市長は「情報は常に出している。自分の耳に入っていないことをもって『説明がない』と言いや、それを理由に着工延期を求めるのは少し乱暴ではないか」と反論した。

市によると、建て替え事業を担当する新庁舎整備室を2017年に設置して以降、基本計画や基本設計の内容などを紹介する記事を10回程度、市報に掲載し、2度のパブリックコメント（意見公募）を実施した。さらに、各種団体の代表者らでつくる市民会議や市民ワークショップを開き、今年に入ってからは6月以降、市内29の公民館区で住民説明会を開催。市民から寄せられた主な疑問点への回答をまとめたチラシも戸別配布した。

（地域報道部・久保田康之、政経部・佐々木一全が担当しました）

ただ、市民団体側の受け止めは異なる。大学教授らでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」の片岡佳代表は「決まった情報だけを報告されても、議論の余地がない。それでは市民参加とは言えない」と批判する。

実際、総事業費が150億円に上ることを公表した19年11月以降、市民が意見を述べる機会は設けられておらず、市が決定事項を伝えるだけの一方通行の情報提供にとどまっているとの不満は根強く残る。

求める会の呼び掛けで集まった着工延期の是非を問う住民投票に賛同する署名は約1万4千人分になった。今月24日、市内で初めてとなる条例制定の直接請求が行われ、署名簿は松浦市長の手に渡った。

条例案は10月9日に市議会ですべて採決される見通しだ。十分な説明と議論を求める市民の意思は届くのか。市と市民の間に生まれた「溝」の象徴として庁舎が建つ事態は避けなければならぬ。

おわり

# きょう 条例案提出へ

松江市議会 新庁舎の住民投票

松江市新庁舎建設事業の着工延期を求める市民団体が松浦正敬市長に直接請求した住民投票条例の制定について、29日の9月定例会市議会本会議に関連する条例案が提出されることが28日、議会運営委員会会で決まった。10月2日閉会予定だった会期を9日まで延長。2日に請求代表者である市民団体代表らが意見陳述する予定で、採決は9日に行われる。

事業着工の延期の是非を問う住民投票条例案が、松浦市長の意見を付けて議会に提案される。一部の議員だけでなく全議員で協議するため、委員会に付託しない方針。9日の本会議で議案提出者の松浦市長が質疑に応じ、その後議員による討論を経て採決される。

議会運営委員会では条例案の請求代表者への質疑を求め、委員から参考人招致が提案されたが、賛成1、反対7で否決された。

【前田葵】



# 住民投票条例案 来月9日に採決

## 松江市新庁舎建設

松江市の新庁舎建設計画をめぐり、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が市に本請求した、計画中断の是非を問う住民投票条例制定案について、市議会議会運営委員会は28日、10月9日に採決することを決めた。2日までの会期を延長する。

まず、松浦正敬市長が29日に「中断して住民との対話、討論を踏まえて再考する」か「現行計画案のまま着工する」の二者択一の条例案を議会に提出。その際、賛否の意見を付ける。

2日に意見陳述があり、本請求した「求める会」代

表呼びかけ人の片岡佳美・島根大教授ら4人が意見を述べる。質疑は「陳述で意見を聞ける」として、行わない。

9日は市長に対する質疑と賛否の討論後、採決する。市民の関心が高まる中、わかりやすくするとの判断から、挙手ではなく起立で実施することにした。

本請求は24日、片岡教授らが、請求のために集めた1万4145人分の署名簿と共に松浦市長にした。

松浦市長は「新型コロナウイルス感染対策も老朽化した庁舎の建て替えも重要な課題。計画を白紙に戻すことは考えられない」との姿勢で、条例案に反対を表明するとみられる。

(杉山匡史)

# 巨額事業費に市民反発

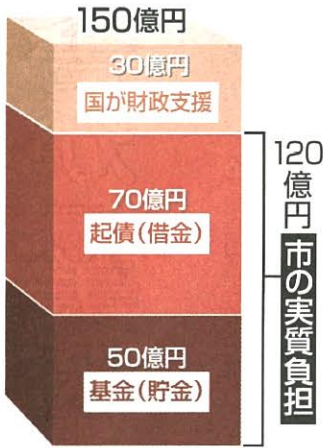
## 市「百年の大計 規模適正」

### ③ なぜ150億円なのか



松江市が計画する建て替え後の市役所本庁舎の外観イメージ

松江市役所建て替え  
事業費内訳のイメージ



どうする!?  
松江市役所  
建て替え

松江市役所本庁舎(松江  
市末次町)の建て替え事業  
を巡り、市民からの反発が  
特に強まっているのが巨額  
の事業費だ。東京五輪や大  
阪・関西万博に伴う全国的  
な建設価格の高騰を反映さ  
せた結果、総額150億円  
になると公表した市は、将  
来にわたって市民が使い続  
ける拠点を整備する「百年  
の大計」と位置付け、規模  
は適正だと説明する。

市が総事業費を公表した  
のは2019年11月。建物  
の構造や設備の配置などを  
まとめた基本設計の作成過  
程で積算し、松浦正敬市長  
が公表した。

大半を占めるのが、13  
6億5千万円の建設工事業

だ。1階部分の床を現庁舎  
より40センチ高くする浸水対策  
や、原子力災害に備えた陽  
圧化対策の実施費、現庁舎  
の解体費が含まれる。新庁  
舎は地上6階地下1階の構  
造で、地震対策として柱と  
基礎の間にゴム製の素材を  
設置して上層階に揺れを伝  
えにくくする「免震構造」  
も採用する。

市によると、20年度中に  
実施設計に着手すれば国が  
返済時に財政支援する有利  
な起債(借金)制度が活用  
でき、実質的な市の負担額  
は120億円(利息分は除  
く)となる。

このうち、50億円は庁舎  
建設基金(貯金)、70億円  
は地方債(借金)で賄う計  
画で、市民1人当たりの借  
金負担額は利息分を含め  
ると4万1千円程度になる見  
通しだ。

松浦市長は「家を建てる  
ときのことを考えてもらう  
と分かるように、一度にお  
金が必要になるわけではな  
い。財政見直しにも浴け込  
ませており、適切なものだ  
と強調する。

これに対し、市民有志で  
つくる市民団体「松江を考  
える会(古志勝俊、錦織伸

若者の政治参加をテーマ  
に活動する島根大の学生団  
体「ポリレンジャー」が27  
日、松江市内で地方自治の  
在り方を学ぶ勉強会を開い  
れ「もう一度議論して皆で



中央学院大・福嶋教授(※出身)

### 徹底した対話必要

島根大 勉強会  
市庁舎問題に言及

がな一  
姿勢は  
対話に  
対話の  
たは欠  
治には  
自と説  
地と松  
江市西  
川津町

行代表世話人は、敷地が広  
い別の場所に移転新築する  
ことで建物を低くすること  
ができ、工費の安い「制震構  
造」でも耐震性が確保でき  
ると主張。建築関係者の見  
解として、免震構造を採用  
することで工費が2割ほど  
高くなる上、埋め立て地と  
は相性が悪いと指摘する。

近年に本庁舎を建て替え  
た山陰両県の他市に比べ  
と事業規模の大きさが際立  
つ。出雲市は91億円(旧庁  
舎の解体費を含む)、鳥取  
市は105億円(旧庁舎の  
解体費を除く)で、いずれ  
も移転新築のため単純比較  
はできないものの、1.5  
倍前後の開きがある。

このほか、市民団体が問  
題視するのが、市が当初は  
総事業費を120億円と示  
していた点だ。市は18年2  
月にまとめた基本構想で、  
事業規模がイメージしやす  
いよう、条件的な類似点が  
多い広島県呉市の例を参考  
に1平方メートルあたり単価(40  
万円)を床面積(2万5千  
平方メートル)に乗じて建設費を  
単純試算し、公表した。

その後、基本設計の積算  
で150億円と算出。公民  
館区ごとに開いた説明会で  
説明してきたが、いまだに  
30億円分の「増額」と捉え  
ている市民も多い。次世代  
の負担にも関わる一大事業  
の事業費についての説明が  
不十分であることは否めな  
い。

決めるという形になれば  
民主主義が深められる」と  
述べ、自治体と住民の徹底  
した対話が必要だと強調し  
た。

1995年から千葉県我  
孫子市長を3期務め、常設  
型住民投票条例を制定した  
福嶋氏は、住民意思を自治  
体の市政に反映させる方法  
として、首長選や議員選挙  
に加え、多くの人の納得が  
得られる手段の一つとして  
住民投票も有効だと紹介し  
た。

松江市役所の建て替え事  
業に関しては、説明不足が  
指摘される市側と、動きだ  
しが遅かった市民の双方に  
反省点があると指摘。「議  
論が沸騰している場に市が  
入ってけんかをしていい  
い。徹底的な対話をしてこ  
そ、市民との信頼関係が生  
まれる」と述べ、市民団体  
が求める着上延期の是非を  
問う住民投票の実施が望ま  
しいとの考えを示した。

勉強会は地域課題を考え  
る場を設けようと同市西川  
津町の島根大で開催。会場  
のほか、ビデオ会議システ  
ムを使って県内外の社会人  
を含む計14人が参加した。

ポリレンジャーの代表を  
務める島根大法文学部2年  
の沢田香純さんは「今後  
後もさまざまな課題を熟議  
できる場を設けていきな  
い」と話した。

(多賀芳文)

# 市議は回答せぬ理由回答を

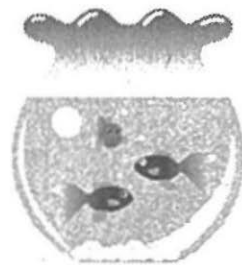
松江市鹿島町

安達 進 67歳

松江市庁舎の建て替え事業について行われた市議会アンケートの本紙記事（10日付）を読んで、政策の良しあし以前のこととして、議員・市長・議会に対して抱いたのは「不信感」そのものです。強く思う意見を二つ訴えます。

一つは、アンケートに対して共産党議員以外の全議員が「関連議案の審議前であり回答すること

はできない」と答えたこと。こんなに市民をばかにする話がありますか。ぜひ「審議前ではなぜ回答ができないのか、なぜこの時点での意見が言え



ないのか」理由を追加で聞いてほしいです。

それに「事業計画を十分に説明しているか」くらいは、現状のことだから即答できるはずです。

また「これまで議員個々がこの問題にどう取り組

んで、どういう意見・態度を示していたか」も聞いてほしいです。過去の事実のことだから、これも即答できるはずです。二つ目は、松浦市長は市民団体とは「現段階ではお会いするのは適切でない」という考えのようですが、ならばいつなら会われるのでしょうか。本会議審議が終わってからお会いするのでしょうか。

松江市新庁舎

# 松江新庁舎

# 市民団体が対案発表

## 現行計画より「51億円削減」

松江市の新庁舎建設について、市内の会社経営者や建築・土木の専門家などつづいて市民団体「松江を考える会」は25日、現地建替えとする現行計画の対案として、「県立プール跡地への移転案」を発表した。試算では、約150億円とする現行計画よりも、最大で51億円ほど安く建設できるとしている。



同会代表世話人で、菓商を経営する古志勝俊さんと、青果店経営の錦織伸行さんの2人が同日、松江市役所内で会見を開き、移転建替え案を示した。発表

は、新庁舎建設の再考に向けた機運の高まりを捉えたもの。「立ち止まって考える、その一歩先へ」とし、市民や市議会での対話・議論が深まることに期待しているという。

最大51億円の削減が可能なのは、「県立プール跡地」の広い敷地面積を生かすため。現行計画と建物面積などの「グレードを同じ」とした上で、3階建てにするのを提案。これにより、高額な免震構造が不要となり、工期も現行の7年間から3年間に短縮可能という。また、平面駐車場としても約1000台

分を確保できることから、地下駐車場が不要になるとした。

対案発表に併せ、同会は24日、市長や新庁舎建設特別委員会の院長ら計3人に公開質問状を提出。「現地建替え」と「移転」の比較結果など、現行計画への意思決定過程について、記録開示を求めている。

新庁舎建設をめぐっては、別の市民団体が、一時中断の是非を問う住民投票条例の制定を求め、署名活動を展開。直接請求に必要な3350筆の約4倍超となる約1万5000筆を集め、このほど条例案とともに同市に提出した。

意見広告

# 松江市役所建て替え計画

# 14,145人のご署名、有り難うございます!

私たちは「松江市民のための新庁舎建設を求めると(代表:片岡佳美)」の「住民投票条例案」に賛同し、署名活動に積極的に協力してきました。沢山のご署名を頂きましたことに、私たちからも厚くお礼を申し上げます。

# どうすれば、市民の声は「市政」に届くのでしょうか?

皆さまの貴重なご署名は、松江市選挙管理委員会が精査して頂いた後の9月24日(木)に、松江市長宛ての「住民投票条例案」とともに提出されました。市長は、これに意見を付託して市議会に送り、審議することになっています。

市議会でこの条例案が否決されたとすれば「市民の声」はどうなるのでしょうか? 松江市政が始まって以来の多くの「市民の声」は、議論の糸口さえ持たないまま泡のように消えてしまうのです。私たちは5月30日(土)付の山陰中央新報に意見広告を出しただけでなく、これまで様々な活動をしてきました。特に、「市民が納得するような説明と市民の声を是非取り入れて欲しい」という対話の姿勢は、松江市にも市議会にも常に忘れずに取り続けてきました。市民の疑問に答える初めての公開説明会、様々な考えを語り合うシンポジウム……など。

しかし、この松江市役所建て替え計画への疑問が深まり、要望が高まるにつれ、残念ながら松江市は次第に私たちとの距離を置き始めました。

ついには「松江市の施策方針と反する団体との対話は馴染まない」という意味の市長名の文書で「対話」を拒絶されてしまいました。鳥根大学の学生団体の「対話」の申し入れも同じよ

うな扱いを受け、市長への面談さえ許されませんでした。

市長は「5年前から話し合いと手順を踏んで議論をしてきた」と言いつつ、松江市主催の全公民館区での「説明会」とは名前ばかりで、実態は全てを決めて後戻りの出来ない段階で行われた「報告会」に過ぎず、新型コロナを理由に極めて限られた市民の参加しか許されませんでした。

私たちは、決して古くなった松江市役所の立て替え計画そのものに反対しているのではありません。今のままの計画を進め、子や孫たちに負担を強いることに大きな責任を感じているのです。

決して今からでも遅くはありません。まずは市民の代表である市議会が立ち止まり、心を開いて話し合ってくださいることを私たちは切に願っています。



## 松江を考える会 古志 勝俊・錦織 伸行

松江市上乃木9-18-20 TEL080-1929-1496/090-3370-6036 e-mail info@new-matsue.life

### 議員アンケート

## 市議会議員さんは市民と市政の大切なパイプです。

質問① あなたは平成27年2月市議会の市長発言までに、「現地建て替えの方針」について市長と話し合われましたか?

①話し合った(時期はいつ頃ですか? ) ②話し合っていない ③当時は議員でないので分からない

質問② あなたは3年前の選挙の折に「新庁舎建て替え計画」を有権者にパンフレットや街頭で説明されましたか?

①説明した(具体的に) ②説明していない(理由: )

質問③ あなたは議員就任後、昨年11月の市長記者会見までに有権者に対して「新庁舎建て替え計画」について情報発信されたり話し合いをされましたか?

①発信した(具体的に) ②発信していない(理由: )

質問④ コロナ禍で新庁舎の着工を延期もしくは凍結している自治体もあるが、松江市がこの計画を進めることをどう思っておられますか?

①このまま進めるべき ②一度立ち止まって再検討すべき ③その他( )

アンケートは9月8日(火)に文書を郵送し、締め切りを9月19日(土)にして回答をお願いした。

所属党派	氏名	回答の有無	質問①	質問②	質問③	質問④
松政クラブ (16人)	河内 大輔氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	このまま進めるべき※
	出川 裕子氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	一度立ち止まって再検討すべき
	細木 明美氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	このまま進めるべき
	米田とまこ氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	このまま進めるべき※
	三島 伸夫氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	このまま進めるべき
	野津 照雄氏	あり	話し合っていない	説明していない※	発信した※	その他※
	柳原 浩氏	あり	話し合っていない	説明していない※	発信していない※	このまま進めるべき※
	野津 画嗣氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	その他※
	野々内 謙氏	あり	話し合っていない	説明した※	発信した※	その他※
	吉金 隆氏	あり	話し合っていない	説明していない※	発信した※	その他※
	森脇 勇人氏	あり	話し合った※	説明した※	発信した※	その他※
	三島 良信氏	あり	話し合っていない	説明した※	発信した※	その他※
	三島 進氏	あり	話し合っていない	説明していない※	発信した※	一度立ち止まって再検討すべき※
	立脇 通也氏	なし	—	—	—	—
真政クラブ (5人)	比良 幸男氏	あり	話し合っていない	説明していない※	発信した※	その他※
	森脇 幸好氏	あり	話し合っていない	説明していない※	発信した※	このまま進めるべき※
	岩本 雅之氏	なし	—	—	—	—
	貴谷 麻以氏	あり	話し合った※	説明していない※	発信した※	一度立ち止まって再検討すべき※
	川島 光雅氏	なし	—	—	—	—
公明クラブ (4人)	石倉 徳華氏	なし	—	—	—	—
	南波 巖氏	なし	—	—	—	—
	太田 哲氏	あり	当時は議員でない	説明していない※	発信した※	その他※
	長谷川修二氏	あり	話し合っていない※	説明していない※	発信した※	その他※
市民クラブ (4人)	田中 明子氏	あり	話し合っていない※	説明していない※	発信した※	その他※
	藤原 栄氏	あり	話し合っていない※	説明していない※	発信した※	その他※
	森本 秀雄氏	なし	—	—	—	—
	畑尾 幸生氏	なし	—	—	—	—
日本共産党松江市議員団 (3人)	津森 良治氏	なし	—	—	—	—
	川井 弘光氏	なし	無回答※	説明していない※	発信した※	その他※
	田中 肇氏	あり	当時は議員でない※	説明していない※	発信した※	その他※
友愛クラブ (2人)	吉濱 敬子氏	あり	話し合っていない※	説明していない※	発信した※	その他※
	橋 祥郎氏	あり	話し合っていない※	説明していない※	発信した※	その他※
その他	新井 昌裕氏	なし	—	—	—	—
	宅野 賢治氏	なし	—	—	—	—

※は記述もあり、全文を当会HPに掲載しています。議会中のご多用にも関わらず、多くの市議さんに真摯にご回答を頂きました。皆さんから想像以上のたくさんの資料や長文を頂きました。心から感謝を申し上げます。編集上、ご回答は簡略化して全てを掲載できませんでしたが、勝手ながら詳細は当会のホームページに掲載しております。ご了承ください。

新庁舎は、将来の松江市のまちづくりの骨格をなす建物です。普通なら複数の候補地をあげ、「費用」「効果」など様々な面から比較検討するのが本来の姿です。松江市のHPによれば、平成27年1月に市長は「市内のプロジェクト会議で庁舎整備方針案を作成し、その結果や議員の皆さんの意見を聞きながら本年度中(3月までに)整備基本方針を判断したい」と発表されました。その後、同27年2月に行われた松江市の上層部だけのプロジェクト会議で、現地建て替えを前提とした現行計画の案が固まり、市長に報告されました。そして、期限の2月市議会で市長は議員の質問に答えるかたちでいきなり「現地建て替え」を考えたい旨の表明をしました。しかし、不思議なことに私たちが情報公開請求で頂く資料には、その間に議員の皆さんの意見を聞いたとされる公的な会議の「議事録」はおろか、「開催記録」も現時点では提出されていません。本当に市長は、市議会と公的に話し合われた上で「現地建て替え」を表明されたのでしょうか?

すべての譲りは「現地ありき」の市役所上層部だけの議論から始まりました。私たちの素朴な疑問は、令和元年11月に「総工費が120億円から150億円に増額」と報道されたところから始まりました。その直後の市報には「予算増額」については一言も触れられず、それに際してバブルコメントを求められた形跡はありませんでした。「なぜ、そんなに費用が一気にふくらむのでしょうか? 私たちは市議会の特別委員会を傍聴したり勉強をしたりしていくと、次のような根本的な原因があることに気づきました。1. 工事期間が7年間もかかること 2. 建物が増築構造であること 3. 地下駐車場を作ること 4. テラスを作ること などを。それら全ての原因を探っていくと、通常の市役所業務をしながら建て替えなければならないという「現地での建て替え計画」そのものに、根本的な無理があるのではないかという結論に至りました。こうした計画になった理由や原因を、松江市や市議会議員に問い合わせてみましたが、私たちが十分納得させるような回答や公式な資料は出さっていませんでした。私たちは身近な「松江市役所の建て替え計画」が「誰も責任を取ろうとしない悪しき公共事業」の典型的な一例を見る思いになりました。そこで、この問題を更に追及するために市議の皆さんへのアンケートによる事実の確認とご意見を伺うことを決断いたしました。

現在地以外の建て替え案(県立プール跡地を活用したイメージ)や松江市案との比較は、ホームページをご覧ください。  
<http://new-matsue.life/>



運営や活動は、多くの市民のご寄付やカンパで成り立っています。  
※1口 1000円 振込先: 山陰合同銀行 津田支店 普通 4503429  
松江を考える会(マツエヲカンガエルカイ)

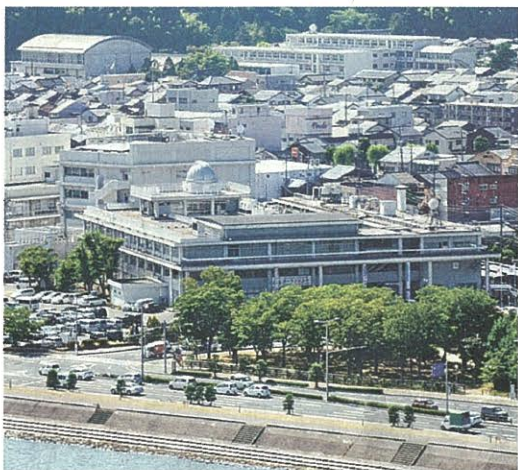
# まちづくりに最適と主張

## 市民移転の比較なく異論

### ②なぜ現地で建て替えか

松江市役所（松江市末次町）近くの末次本町町内会が6月下旬、町内54世帯を対象にアンケートを実施すると、市が進める本庁舎の現地建て替え事業に対する疑問や意見が次々と寄せられた。市が2020年度中の着工を目指す中、「現地にこだわる理由が分からない」「宍道湖岸の現地は観光地としての活用を考えるべきだ」と、近隣住民から異論が上がった。

### どうする!? 松江市役所 建て替え



宍道湖畔に位置する松江市役所本庁舎（手前）＝松江市末次町



松浦市長は今年6月の記者会見で「市役所が長年、作業が進んだ。」

調べた専門業者が14年に今後80年間のコスト比較を行ったところ、耐震補強を含む現庁舎の改修より、現地で建て替えた方が33億5千万円抑制できると判明。当時の報告書が下地となり、市内で検討が進められた。

その後、松浦正敬市長が15年の2月定例会市議会で現地建て替えの方針を表明。市議会や各種団体の代表者らでつくる市民会議、市民ワークショップ、2度のパブリックコメント（意見公募）でも目立った異論はなく、5年をかけて具体化の作業が進んだ。

今の場所であり、まちづくりをしてきた。これを移転することは考えられないという価値観が共有されてきた」と力説。現地在建設場所として最適との認識を改めて強調した。

市民団体から、事業費や工期の圧縮につながる島根県立プール跡地（学園南1丁目）での移転新築にかじを切るべきだとの声が上がっているが、松浦市長は「早く早くできるから移転するというのはおかしい」と反論。

逆に移転するには3分の2以上の議員の同意が必要に

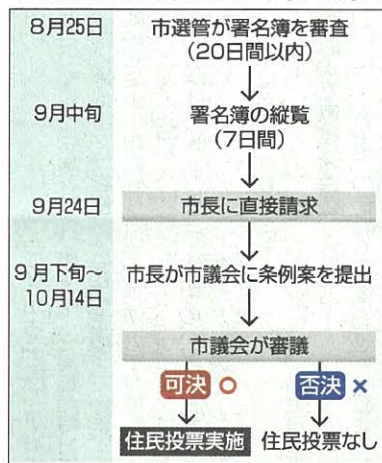
### 「白紙は考えられない」

#### 松浦市長 計画推進を強調

松江市役所本庁舎の建て替え事業を巡り、着工延期の是非を問う住民投票条例の制定を市民団体から直接請求されたことに関し、松浦正敬市長は25日の記者会見で「白紙に戻すことは考えられない」とし、現行計画のまま事業を進める考えを改めて強調した。

市内で初めてとなる直接請求を24日に受けた松浦市長は、市民団体が「早期着工を」やる必要はないと

#### 住民投票条例案を巡る今後の流れ



なり「状況が大きく変える必要性がない場合は、現地で建て替えが原則になっている」との見方を示す。

こうした市の主張に市民団体は「現地ありき」で計画が進んでいると反発を強める。

事業の着工延期と計画の見直しを求める「松江を考える会」（古志勝俊、錦織伸行代表世話人）は、現地で建て替えると現庁舎の解体作業を並行して進める必要がある、事業費の高額化につながる」と指摘。独自に住民アンケートを実施した

の一点張り、議論がかみ合っていない。何を再考するのかわからない」と指摘。新型コロナウイルス対策と老朽化が著しい現庁舎の建て替えは「いずれも早急な対応が必要だ」と訴えた。

一方、島根県の丸山達也知事は同日の記者会見で、地方自治法に基づき直接請求は「住民自治の観点から望ましいことだ」と話した。その上で「一度立ち止まって考えるべきだ」との声が上がっている理由は何かを認め、市議会で議員がどう判断をするかが試されている場面だと思ふ」と述べた。

（久保田康之、木幡晋介）

末次本町町内会の原田康行会長（77）も「現地は観光面での活用を考えるべきだ」と持論を述べ、他の候補地に移転新築した場合の比較シミュレーションを市が示していないことを批判する。

市施策に関して初となる直接請求を受けた市は今後、市議会に住民投票条例案を提出する一方、出前講座を通じて住民に現地建て替えに対する理解を深めてもらう考えだ。とはいえ、従来通りの説明姿勢で納得を得られるかどうかは見通せない。「まちづくりの拠点」として庁舎を現地で建て替えるのであれば、その根拠を分かりやすく示すことが欠かせない。

# 移転新築での対案発表

松江市役所本庁舎（松江市民団体が25日、現地建て替市末次町）建て替え事業を巡り、市民有志でつくる市

## 松江市役所 建て替え

どうする!?

（28面に関連記事）  
考察した「松江を考える会」（古志勝俊、錦織伸行

### 県立プール跡地 市民団体想定

代表世話人によると、地上6階地下1階の新庁舎を建設する現行計画に対し、移転新築案は3階建てを想定。高さを低くすることで割安な「制震構造」でも耐震性が確保できるとした。

現行計画が地下駐車場込みで410台分とする駐車みで410台分としたほかは、現

万平方メートルとしたほかは、現

スペースも平面で600台分を確保でき、工事費の削減につながる」と説明。全体の工期は7年を予定する市に対し、3年に短縮できると主張した。

総事業費は150億円と見込む市の基本設計を基に、不要と判断した設備費や人件費を差し引く形で試算した。新たな設計や積算はしておらず、延べ床面積を約4千平方メートル縮小して2万平方メートルとしたほかは、現

移転新築に政策転換する場合、2020年度末までの実施設計が条件となっている国の有利な起債制度が使えず、34億円分の財源を失うことになるが、それを考慮しても市民負担が軽減できるとの見方を示した。

## 総事業費44億円抑える

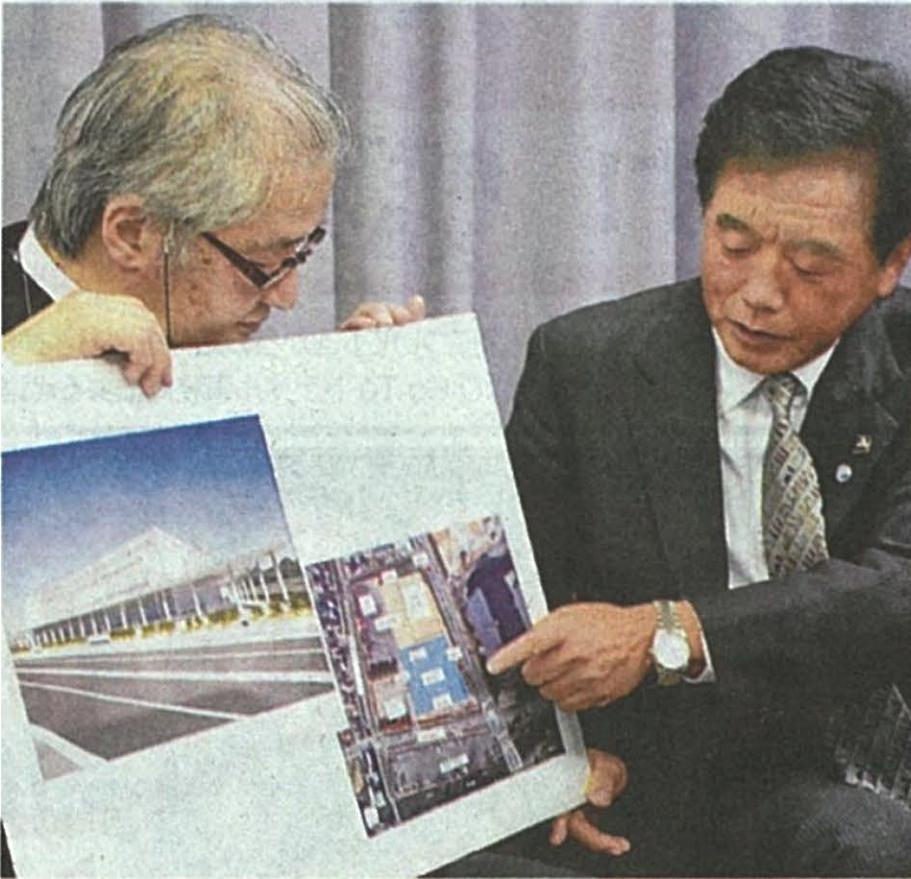
同会は対案の発表に先立ち、松浦正敬市長と一部市議に対して現地建て替えを決めた当時の会議録や移転新築の検討状況を説明するよう公開質問状を提出。10月上旬までの回答を求めている。

（久保田康之）

# 移転新築独自案を公表

## 松江市新庁舎で市民団体

松江市が現地建て替 事業について、計画の  
えで進める新庁舎建設 再考を求める市民団体



県立プール跡地に市庁舎を移転する独自案を発表する  
錦織伸行共同代表（左）ら＝松江市末次町の市役所で

「松江を考える会」は25日、松江市学園南1の県立プール跡地に移転新築する独自案を公表した。市の計画と同規模の庁舎の場合、費用を約51億円節減できるといふ。

同会は建築士や土木関係者など建築の専門家を含む経済人で構成する。市の案（延べ床面積約2万8000平方メートル、地上6階地下1階）に対し、延べ床面積は約2万平方メートル、3階建てとして比較検

討。平面駐車場を900台確保できるため地下駐車場は造らない▽3階建てのため免震構造は不要▽工期を7年から3年に短縮できる――などの理由で費用を抑えられるという。

同会の共同代表を務める錦織伸行さん（66）は、別の市民団体が24日に住民投票条例制定を直接請求したことを踏まえ「住民投票が可決された後どうするか。その選択肢の一つとして市民に考えてほしい」と話す。【前田葵】



# 別団体が削減代替案

## 「松江を考える会」新庁舎建設費

松江市の新庁舎建設計画をめぐり、計画の再考を求めている市民団体「松江を考える会」は25日、代替地に挙げる更地の県立プール跡地(市有地、同市学園南1丁目)での建て替え案を公表した。市の事業費約150億円より約44億円節約できるとした。



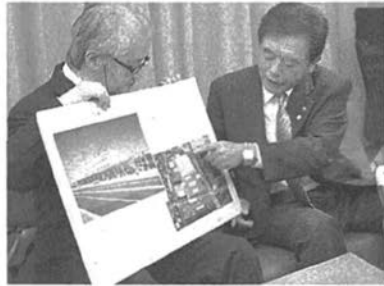
市民団体「松江を考える会」が示した代替案の新庁舎

で、延べ約2万平方メートル。地下駐車場は設けず免震から制震構造に変更し、工期も7年を3年に短縮する。会

メンバーの1級建築士ら専門家が検討して見直した結果、概算で約106億円でできると試算したという。

記者会見した代表世話人の一人、錦織伸行さんは「代替案はベストではないが、場所を変えるだけで節約できる。市は市民の声を聞くべきだ」と訴えた。

考える会は「市が2015年から始めた市議会との



新庁舎の代替案を示す「松江を考える会」の代表ら  
松江期末次町の市役所

協議に不透明な点がある」などとして、松浦正敬市長らあての公開質問状を提出した。

新庁舎の建て替え計画をめぐっては、「考える会」とは別の市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めると」が24日、計画中断の是非を問う住民投票条例の制定を求め、松江市に本請求した。

両市民団体の動きについて、松浦市長は25日の定例会見で「計画を白紙に戻すことは考えられない」と強調。市広報誌などで情報提供してきたとしたりうえで、「最初から関心を持ってもらえたら様々な議論ができた。そこが残念だ。コロナも老朽化した庁舎の建て替えもどちらも重要な課題だ」と述べた。(杉山匡史)

## 県立プール跡地 への代替案公表

松江市役所本庁舎  
建て替えて市民団体

松江市役所本庁舎の建て替え計画で、市内の会社経営者や建築、土木の専門家らでつくる市民団体「松江を考える会」が25日、同市学園南1丁目の県立プール跡地へ移転新築する代替案を公表した。現地建て替える市の計画より事業費を約44億円節減でき、議論の材料になると主張した。

代表世話人の古志勝俊さん(66)と錦織伸行さん(67)が松江市内で記者会見した。代替案は事業費を106億円と試算し、建物は3階建てで屋上に太陽光発電パネルを備え、約900台収容の平面駐車場を備える。近くに市総合体育館や日赤病院、松江城などがあ

るため、災害時の避難場所や観光面での利便性が高いとしている。

耐震構造を変更し地下施設やテラスを廃止することで事業費を大幅に節減し、工期を7年から3年に短縮できるといふ。古志さんは「現地だから無理が生じる。こんないいものがある」と提案したい」と訴えた。

また、現地建て替え計画決定のプロセスに関する議事録や現地以外の候補地との比較資料などの開示を求め、市長などに24日付で提出。10月初めの回答を求めている。  
(高埜正範)

# 住民投票 直接請求

## 松江市新庁舎巡り市民団体



松浦正敬市長（右）に条例案を提出する  
片岡佳美代表、松江市末次町、市役所

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、大学教授らでつくる市民団体が24日、着工延期の是非を問う住民投票条例の制定を松浦正敬市長に直接請求した。松浦市長は遅くとも10月中旬までに、自身の意見を付けて市議会に条例案を提出する。請求に必要な署名は1万4145人分が集まった。（佐々木一全） 24面に関連記事

### 市長議会に条例案提出へ

市民団体は「松江市民の大教授」で、署名数は直接請求に必要な有権者の50分の1（約3400人）の4・2倍に上った。団体によると、住民投票条例案は、

どうする!?

### 松江市役所 建て替え

現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問う方式を想定する。

この日、市役所で松浦市長と面会した片岡代表は新

型コロナウイルスの感染拡大による市民生活への影響を念頭に「今、なぜ150億円規模の新庁舎を建てるのか。市民の思いを大事にしてほしい」と訴えた。

条例案と署名簿を受け取った松浦市長は既に事業費が議会承認されている点を踏まえ「最初から一緒になってこの問題を考えていくという話があれば、当然そう」と強調。条例案は地方自治法に基づき、20日以内に市議会に提出しなければならず、早期に日程を調整する考えを示した。条例案に付す意見は現時点で白紙とした。

現庁舎は築58年の本館建物や別館の老朽化が進み、大規模地震などで倒壊する恐れがあると、市が建て替えを計画。事業期間は7年間で、試算段階で120億円と示していた総事業費は建設単価などを反映して150億円となった。

市庁舎の整備事業に関する住民投票を巡っては、11年に鳥取市で市民団体が約5万人分の署名を集め、庁舎の新築移転の是非を問う条例案の制定を請求。市議会が否決したものの、後に議員提出の条例案が成立し、12年5月に住民投票が実施され「耐震改修」が「新築移転」を上回る結果となった。

# コロナ禍 大事業に違和感

## ①なぜ今、建て替えか

総額150億円と見込まれる松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、市民から異論が相次いでいる。巨額の事業費や建設場所の選定に関する疑問に加え、市の説明姿勢に対する不満が噴出。着工延期の是非を問う住民投票の実現を求め約1万4千人分の署名が集まり、市長への直接請求に発展した。何が問題となっているのか、論点を再整理した。

## 市は早期着工の意義強調

「コロナが広がる中で、これほどの大掛かりな事業を続けて大丈夫なのか」11日夜に松江市内であった市民集会。市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）のメンバーが問い掛けると、出席者が深くうなずいた。多くが新型コロナウイルスの感染拡大前に策定された計画を基に事業が進むことに懸念を抱いていた。

### どうする!? 松江市役所 建て替え

求める会は、着工延期の是非を問う住民投票条例の制定を目指し、市内の大学教授らで5月末に結成した。理由の一つがコロナ禍で「多くの市民が影響を受けていることに違和感を覚えた」（片岡代表）ためだ。事業をいったん中断して計画内容を「熟議」する必要があると訴えた活動に賛同した署名者は1カ月間で約1万4千人に上り、松浦正



松江市役所前で市民（右）に署名への協力を呼び掛ける市民団体のメンバー＝8月、松江市末次町

## 二者択一で是非問う 住民投票条例案

### 市民団体が求める住民投票条例案のポイント

- 二者択一の問い
  - (1) 新庁舎建設事業は中断し、住民との対話、討論を踏まえて再考する
  - (2) 新庁舎建設事業は現行計画案のまま着工する
- 投票期日  
条例の施行日から起算して70日以内に市長が定める
- 投票資格者  
18歳以上の松江市内に住所を有し、3カ月以上、住民基本台帳に記録されている者
- 情報提供  
市長は投票資格者が意思を明確にするために必要な情報を公平かつ公正に提供しよう努める
- 投票促進  
市議会及び市長は投票資格者の半数以上の投票を目指し、広報などで投票を促すよう努める
- 投票結果の尊重  
市長及び市議会は、比較多数を占めた投票結果を尊重しなければならない

松江市役所本庁舎の建て替え事業を巡る住民投票は、市議会が条例案を可決することで実施される。いったん事業を中断して市民との対話を踏まえて計画を練り直すか、年度内着工を予定を直接請求した市民団体「松

性だ。現在の本館は本棟と北棟が58年前の1962年に建設され、71、80年に整備された別館を含め、雨漏りや外壁の欠損、電気、給排水設備に劣化が目立つ。専門業者が2014年にまとめた報告書で記した本館の残存耐用年数「5年」は既に経過しており、日本各地で大規模地震が相次ぐ中、庁舎や市職員の安全面で大きなリスクを抱えている。さらに松浦市長は20年度末までに実施設計に着手しなければ34億円分の国の有利な起債制度が活用できないことを挙げ、「貴重な財源を失うことになる。市民の負担が増大することになりかねない」と強調。「事業を一時停止しても状況は必ずしも好転せず、むしろ新たな問題が発生してしまう」と、予定通り着工することの意義を訴える。

松江市民のための新庁舎建設を求める会」によると、住民投票は、①新庁舎建設事業は中断し、住民との対話、討論を踏まえて再考する②新庁舎建設事業は現行計画案のまま着工するの二つの選択肢から一つを選ぶ方式を想定する。18歳以上の松江市民で、告示日の前日までに3カ月以上、住民基本台帳に記録されている人が投票できる。投票日は条例の施行日から起算して70日目までの間に松浦市長が定め、告示する。

法的拘束力はないものの、市長や市議会は結果を尊重しなければならないと定め、投票する人が意思を明確にできるように、市が必要なる情報を公平かつ公正に提供し、投票を促す広報にも努めるよう求めている。条例案を審議する市議会の定数は34。山陰中央新報社が今月上旬に実施した全議員アンケートでは、賛成すると答えた共産党市議団の3人を除く、31人が賛否を明らかにしていない。

（久保田康之）

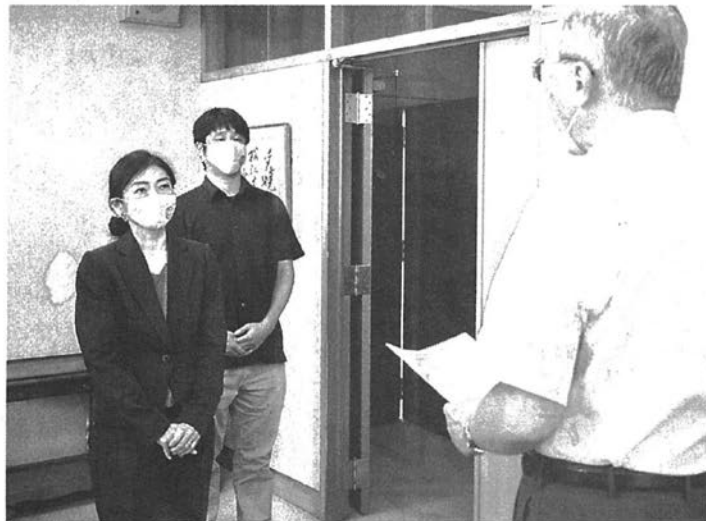
を使って老朽庁舎を建て替える自治体が相次ぐ。一方、コロナ禍以前にまとめた整備方針を見直す動きもある。市役所の機能や規模のストリム化を掲げる新市長が4月に誕生した長野県松本市（人口23万8千人）は、170億円規模と見込んだ本庁舎の現地建て替え計画の見直しに向けた議論に着手した。滋賀県湖南市（同5万5千人）は6月、新型コロナウイルスの影響で財政運営が厳しさを増すと20年度に予定した着工を先送りすることを明らかにした。

松江市では現庁舎の建て替えが必要であることは論をまたない。問題は、そのタイミングだ。新型コロナウイルスの感染拡大によって人々の生活様式が変化し、市役所に求められる役割や業務が変わる可能性がある中、庁舎のあり方をいま一度、考え直してみる必要がある。

# 松江市新庁舎

# 住民投票条例制定へ直接請求

## 市民団体 「愛情もって声を聴いて」



条例案など提出後に松浦市長(右)と意見を交わす片岡さん(左) = 24日、松江市末次町の松江市役所市長室

「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人)が24日、松江市役所の新庁舎建設の一時中断の是非を問う、住民投票条例の制定を求め、審査認定された1万4145筆の署名と条例案を、松浦正敬市長に提出した。2011年の市町合併以降初めての直接請求となる。

同日市長室を訪れた片岡さんら4人は、「愛情をもって、市民の声を聴いてほしい」と述べて、書類を提出した。直接請求は、地方自治法に規定されている市民の権利。請求を受けた市長は、自らの意見を付けた上で、20日以内に市議会に提案し、議会が可否を審議することになる。

報道陣の取材に応えた松浦市長は、市議会への提案について「出来るだけ早く、議会と相談した上で提案時期を決めたい」との考えを示した。条例案に付ける市長意見については、「これから検討する」と述べ、保留に留めた。加えて、「既に議会の議決をいただいている。それを基に進める」とし、新庁舎建設を中断する考えはないとした。



## 「決定プロセス」を問題視

市民団体 直接請求への思い語る

新庁舎建設の一時中断の是非を問う、住民投票条例の制定を求め、松江市に直接請求を行った「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人)は24日、意見を聞き、条例案の内容について説明した。市民団体の発端として問題視しているのは「新庁舎建設事業計画の決め方と進め方」。片岡さんらは会見で、市議会での条例案可決をもって、「市民の声を聞く機会を改めて作る」(ほこ)と訴えたい。ただ、目指す住民投票は、「建設反対、賛成の投票ではない」(こ)とも強調。同会では、「市民の声を聞くために、新たに時間を取るかどうかの投票」だと説明した。条例案に示された住民投票の選択肢は、▽建設事業は中断し、住民との対話・討論をふまえて再考する▽建設事業は現行計画案のまま着工するの二つ。同会は、投票により、建設事業の「決定プロセス」(＝過程)に問題があったか否か「を問う(はこ)」と訴えたい。

# 住民投票求め本請求

## 市民団体、松江市新庁舎建設めぐり

老朽化した松江市の新庁舎建設計画をめぐり、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が24日、計画中断の是非を問う住民投票条例の制定を求める本請求をした。請求を受け松浦正敬市長は住民投票条例案を市議会に提出する。市民団体が住民投票で問いたいのは、庁舎建設の是非ではなく、市民への丁寧な説明などといった、大規模公共事業の進め方だ。

## 「市民の声反映して」

「（本請求を）前向きに受け止め、市民を大事にする市政であってほしい」

この日、本請求のため市長室を訪ねた、会の代表呼びかけ人で島根大学の片岡佳美教授（社会学）はこう述べて、松浦市長に請求のために集めた1万4145人分の署名簿を提出した。

署名は、直接請求に必要な有権者の50分の1（3350人）を大きく上回った。記者会見した片岡教授は署名数の多きは想定外とし、「条例案は（庁舎建設の）賛否ではなく、（建て替え事業の）決め方、進め方を問題にしている。市民の声が反映されるよう、庁舎建設計画をやり直してほ

しい」などと訴えた。

今後、松浦市長は手続きに従って条例案を市議会に提出し、議会が可決すれば住民投票が実現することになる。



老朽化が進む松江市役所庁舎。松江市次町

求める会は今年5月、島大の片岡教授と関根平教授（財政学）、不動産会社、パソコン教室会社の各経営者の計4人を呼びかけ人にして設立された。署名活動は7月21日から始められ、8月24日に市選挙管理委員会に提出された。

住民投票は「中断して住民との対話、討論を踏まえて再考する」か「現行計画案のまま着工する」の二者択一。求める会は、署名活動などを通じ、「市民不在」で事業が進められたのではないかと訴えてきた。

松浦市長は取材陣に「できるだけ早く（条例案を）提出したい」と述べるにとどめ、判断は議会に委ねる姿勢を通した。



向とへ根・島根市長・片岡佳美・松浦正敬市長らによる住民投票条例の制定に向け、約1万4千署名を提出し、共に本請求する松浦市長と片岡佳美教授ら。

### 松江市庁舎

本館は1962年の建築で、隣接地に7棟を増築し、各課が分散している。2005年にでき、建て替え対象外の西館を除いて、築40・49年で現在の耐震基準を満たしていない。市の基本設計では本館と駐車場敷地に、地上6階地下1

階の新庁舎（延べ約2万5千平方メートル）を建てて各課を集約する。着工は今年12月の予定で、26年度の完成を目指す。2・6階に設けるテラスは、松江城からの眺望などに配慮したという階段状にせり出した進りで、市民の憩いの場として活用する。事業費は約150億円。

## 「市の財政で対応可」

この点について、市は概算だった基本計画から、図面に基づいてはじいた設計段階との違いに加え、東京五輪に伴う全国的な建設単価と人件費の高騰などが背景にあると説明する。

事業費約150億円のうち約100億円は、庁舎建て替えに活用できる地方債を発行する。37年後の2057年度に完済する計画で、利息を含めた元利償還は中期財政見通しで計約114億円とみている。ただ、約34億円は国の特例措置を見込み、市の実質の負担は約80億円という。

残り約50億円は「自己資金」として、1988年度から積み立てている庁舎建設基金を充てる。2019年度末現在で約35億円を確保しており、今後も積み立てを続けるという。

コロナ禍での収入の減少も指摘されるが、市新庁舎整備課の担当者は「市の持ち出しを抑えることで、市民の将来負担を減らす。庁舎は将来にわたって市民の安全・安心や市民サービスの拠点として使い続けるもので、市の財政規模でも十分に対応できる」と話す。

## 情報発信不足の声も

第二に、市民への情報発信のあり方だ。片岡教授らは計画の把握不足は認めつつ、「市民不在で議論に参加できていない。デザインや建設場所など立ち止まらず話してほしい」などと訴える。

計画は、松浦市長が15年2月の市議会で発表した。

一方、複数の市幹部は情報発信の仕方やタイミングのまずさを認める。市民の要望で聞く出前講座などで説明し、理解を深めてもらう努力を要すると言う。

今回の計画について、別の市民団体「松江を考える会」も議論の再考を市に求めるなどの活動をしている。

一方、経済団体の松江商工会議所は、コロナ禍で地域経済が打撃を受けていることやまちづくりを踏まえて、松浦市長に「地元企業への発注と計画通りの普工」を申し込んでいる。

# 住民投票条例制定を

## 署名1万4145人分有効 市長に直接請求

12月着工予定の松江新庁舎の事業延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は24日、設を定める会」は24日、延期の是非を問う住民投票条例の制定を松浦正敬市長に直接請求した。集まった署名1万5318人分のうち1万4145人分が有効と判断され、共同代表の片岡佳美・島根大教授は「無視できないはず。市民の声を聞いてほしい」と訴えた。条例案は「新庁舎建設事業は中断し、住民との対話、討論をふまえて再考する」か「現行計画案のまま着工する」の2択での住民投票を求める。投票結果の尊重も盛り込み、事業中断が多数を占めれば市民と協議の上で事業を見直すとしている。共同代表の関耕平

・島根大教授は「市が市民の合意を得てきたというのなら、事業決定のプロセスの検証を強く求めたい」と話す。今後、市は付帯意見と共に条例案を議会に付議し、可決すれば住民投票が実施される



1万4145人分の署名を基に住民投票条例制定を松浦正敬市長（右）に直接請求する片岡佳美共同代表ら（左）松江役所で

民投票が実施される松浦市長は現行計画のまま着工の意向を示しているが、付帯意見については「今後検討する」と述べるに止めた。  
【前田葵

# 境港の爆破予告 異常確認されず

きょうから平常授業

境港市の小中学校や高校を爆破し市役所などに薬物を積んだトラックを衝突させるなどとする予告メールが市に届いたことを受け、市内の小中学校と高校計11校は24日、臨時休校となり、市役所が一時的に閉庁となった。予告時間を過ぎても不審物などは確認されず、境港署が威力業務妨害などの容疑で調べている。各校は25日から平常通り授業を行う。

市役所は午後1～2時、4カ所で職員や署員が立つなどして車両の進入を制限。市議会本会議の開催時間にも影響が出た。市内の全小中学校と高校が休校したほか、放課後児童クラブも休館した。

伊達憲太郎市長は「市民には迷惑を掛けたが、何事もなく一安心した。愉快犯かは分からないが、早く捕まえてほしい」と話した。



私

たちの思い

松江市役所建て替え事業

Ⓣ

報告会、説得会という印象だ」  
に反省すべき点だ。一方、三、呼び掛けてきた。説期待している」

「建て替え事業は5年前から議論されており、もっと早く声を上げていれば状況は違ったはずだ。」  
「市民が積極的にならないうなことを求めるか。」  
「市には話し合いの機会も実施する。市民の声を聞いて、ぜひ条例制定に向けて議論してほしい。今後、現在の事業計画より費用が安く、工期も短い移転新築案を提示する。市民が松江を考えるきっかけをつくるため、市や市議会にアプローチを続けていく」

「松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業に対する考えは。」  
「建て替え事業について何を問題視しているのか。」

# 「施主は市民」の意識欠落

「新型コロナウイルスの問題が発生して以降、社会が大きく変わり、市役所に求められる機能も変わっている。声を聞かずに現行計画を押し進めてしまえば市民の信頼を失ってしまう。市民との協働や共創によるまちづくりを実現するためには立ち止まって議論を深め、再考する必要がある」

「一番大事なのは市役所」  
「市長や市議という点だ。市長や市議ではなく、市民だという意識が市側に欠落しているように思う。議論が巻き起こることを恐れ、現地での建て替えありきで計画を進めていることに不信感を感じざるを得ない。市の説明が十分だとは言いがたく、公民館区での説明会も後戻りできない状況での開催だった。」

どうする!?

## 市役所 建て替え

市民団体 「松江を考える会」

錦織伸行代表世話人

(青果店経営)



山陰中央新報社は松江市にもインタビューを申し込んだが、取材に応じなかった。

（聞き手は地域報道部 久保田康之）

\* \* \*

私

たちの思い

松江市役所建て替え事業

松江市が進める市役所本庁舎(松江期末次町)の建て替え事業の問題点はどこにあるか。

「市の説明姿勢を最も問題視している。議論を尽くしたと言いが、総事業費が150億円になると公表して以降、市民を交えた意見交換会やパブリックコメント(意見公募)が一度も行われていない。新型コロナウイルス

スの感染拡大によって市民生活や地域経済にさまざまな影響が生じている中、新型コロナウイルスの感染拡大前に策定した計画を推進する必要も理解できない。市民不在で建て替え事業が進んでいると言わざるを得ない」

「着工延期の是非を問う住民投票の実現を目指し、約1万4千筆の署名を集めた。」

「5月に求める会を発足した時点では、これほど自分たちの活動に賛同してもらえとは思っていなかった。特に女性が精力的に携わ

ってくれたことが印象的で、子どもや孫の世代に負担をかけたくないとの強い思いを感じた。ホームページにも多くの人がコメントを書き込んでくれた。市民が市政に関心を持ち、声を上げる機会をつくり出せたという意味で、活動を始めてくれた。市民が市政に自らも責任をもち、声を上げたのか。」

「市に任せきりだった自分自身にも責任はあがある。自分たちの思いと乖離した時は『違う』と

# 市の説明姿勢 最も問題視

ここに議論の余地はない。大切なのは、決まる前の情報を市民に提供し、意見を募ることだ。その上で計画通りに着工するのであれば、より多くの市民の納得が得られるはずだ。市だけでなく、市議会も今後、住民投票の実施に向けた条例案の審議を通じて、市民の意見を反映する姿勢を示してほしい」

どうする!?

## 市役所 建て替え

松江市民のための  
庁舎建設を求める会

片岡佳美代表

(島根大法文学部教授)



(聞き手は政経部・佐々木一全)

私

たちの思い

松江市役所建て替え事業

⑤

事業計画が決まったと感も市民参加のまちづくり  
 している市民も多いようのためには一歩前進だろ  
 に思う。別の候補地があう。ただ、関心を持ってば  
 のであれば、市が事前情報を得られたはずで、  
 に市民に問う姿勢があっもつと以前から活発な議  
 てもよかった」論があつてよかった」

市民団体が住民投票  
 条例の制定を求めている。」「ようやく市民から声  
 が上がったかという印象だ。悪いことではなく、  
 むしろ歓迎すべきだ。住  
 民投票で結論を出すこと  
 「近年は建設価格が上  
 昇傾向にあるため致し  
 う評価するか。」「庁舎はまちの『顔』  
 ではないと思うものの、30  
 億円もの増額はあまり  
 でなければならぬ。単  
 純な形の建物でいいとの  
 意見もあるが、反対だ。  
 現在地は六道湖畔にあ  
 り、松江城天守も近く、  
 観光面で重要な場所だ。  
 隣に末次公園があること  
 でポテンシャルも高い。  
 外観デザインも景観に配  
 慮されたものだ」

「市民から声が上がっ  
 たことを前向きに捉える  
 べきだ。切りがないと相  
 手にしないの  
 ではなく、し  
 っかり向き合  
 う必要があ  
 る。1万4千

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の現  
 地建て替え事業を巡り、着工延期の是非を  
 問う住民投票の実施を求める声広がって  
 いる。市が事業計画の検討過程で設けた市  
 民会議と、事業延期や移転新築を求める二  
 つの市民団体のトップに、それぞれの思い  
 を聞いた。

どうする!?

# 市役所 建て替え

「これまでの広報で足  
 りないのであれば、引き  
 続き市による丁寧な説明  
 が必要だ。ただ、唐突に  
 する人もいなかった」  
 「一年度内の着工を目指  
 す市側の事業計画の説明  
 が不十分だと指摘があ  
 る。」

## 庁舎はまちの顔であるべき

旧新しい松江市役所検討市民会議

(2017年10月～18年9月)

足立正智委員長

(島根県建築士会会長)



筆を上回る署名が集まっ  
 たということは、多くの  
 市民が不満に思っている  
 結果であり、議論を尽く  
 したとは言いがたい。来庁  
 者をたらい回しにしま  
 い、松江の都市計画ビジ  
 ョンに適した存在感のあ  
 る庁舎が建つことを願っ  
 ている」

（聞き手は地域報道部  
 ・久保田康之）

# 地方自治に大切なのは対話

益田市遠田町

小川 勉 69歳

松江市新庁舎建設をめ  
ぐって混乱が続いてい  
る。県庁所在地として、  
市民と行政の十分な対話  
を期待したい。

最近、邑南町や美郷町、  
吉賀町、雲南市などで住  
民や行政の新鮮な動きが  
報じられている。ふと思  
ったのが、今掲げた市町  
は平成の大合併の際、従  
前の町村名を使わずに、  
新たな市町名を選択した  
地域だという共通点。議  
論（お互いに自論の正し  
さをぶつけ合い、勝ち負  
けをつくる話法）ではな  
く、対話（お互い相手の  
意見を参考にして新たな

ものを一緒につくり出す  
話法）が地域文化として  
根付いているのではない  
かと感じた。

自治に一番大事なものは  
議論ではなく、対話だと  
思う。今の松江市にその  
対話を感じられない。

合併時に一方の名を選  
択した町村や、町村を吸  
収合併した市は、今こそ  
それぞれの地域文化を改  
めて見つめ直し、歴史を  
尊重した対話重視の地域  
づくり、特に市には吸収  
した町村の文化・歴史へ  
のリスペクトを持って行  
政に当たってほしいと強  
く思う。言葉や歴史は重  
さを持っている。

松江市新庁舎

# 住民投票求める 有効署名1.4万人

松江市新庁舎建設

老朽化した松江市の新庁舎建設をめぐり、市民団体が計画中断の是非を問う住民投票条例の制定を求めて提出した署名について、市選挙管理委員会は13日付で有効な署名が1万4145人分だったと告示した。直接請求に必要な有権者の5分の1(3350人)を上回った。今後は、松浦正敬市長への本請求の手続きに移る。

署名は「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が7月21日から1カ月間に集め、8月24日に1万5318人分を提出した(数え直して発表時より4人増)。市選管は選挙人名簿と照合して審査。今月13日の臨時会で決定し、同日付で告示した。署名簿は20日までの7日間、本庁舎の選管事務局で縦覧される。

求める会は今後、署名簿の返却を受けてから5日以内に本請求する。市長は意見をつけて、住民投票条例案を市議会に提案し、可決されると住民投票となる。

(杉山匡史)

# 住民投票署名1万4145票

## 選管公表 議会でも条例案審議へ

### どうする!? 市役所 建て替え

問う住民投票条例の制定を  
求める有効署名数は1万4  
145票だったと公表し  
た。条例制定の直接請求に  
必要な署名数(約3400  
人分)を大きく上回り、市  
議会が条例案を審議するこ  
とが現実になった。

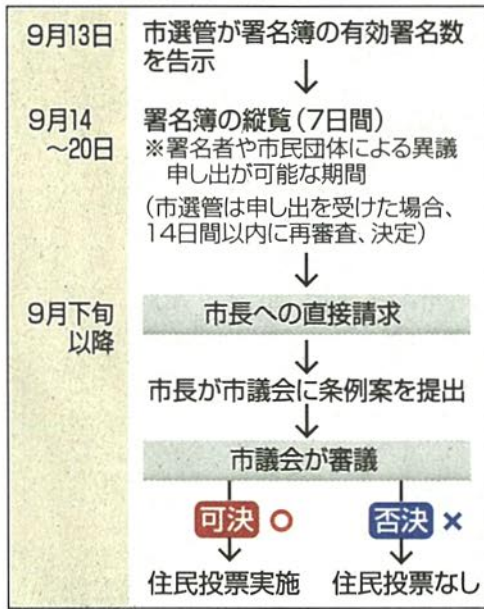
市選管への提出時の署名  
数は1万5318人分で、  
重複や選挙人名簿に登録が  
なかったり、記載不備があ  
ったりした計1173人分  
を無効と判定した。

市民団体は、署名の縦覧

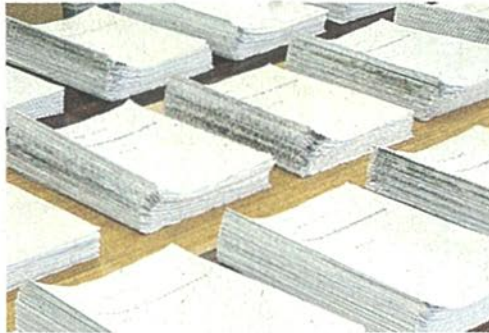
松江市役所本庁舎(松江  
市末次町)の建て替え事業  
を巡り、市選挙管理委員  
会が13日、着工延期の是非を  
大教授)が集めた。

署名は大学教授らでつく  
る市民団体「松江市民のた  
めの新庁舎建設を求める  
会」(代表・片岡佳美島根

#### 住民投票条例案の提出に関する今後の流れ



住民投票条例の制定を  
求める署名簿 松江市  
末次町、市役所



期間(7日間)を経て、有  
効署名数が「確定」する9  
月下旬以降、松浦正敬市長  
に条例制定を直接請求す  
る。

住民投票は、現行の建て  
替え事業を中断して計画を  
練り直すか、2020年度  
中の着工を予定する市の  
計画通りに進めるかを二  
者択一で問う内容で、片岡  
代表は「1万4千筆以上の  
署名が集まったことは意  
義深い。20日までしっかり  
と署名を確認し、必要に応  
じて異議を申し出る」とし  
た。

地方自治法によると、縦  
覧期間中に異議の申し出が  
あれば、市選管が再審査す  
る。松浦市長は直接請求を  
受けてから20日以内に、自  
身の意見を付けて市議会に  
条例案を提出しなければな  
らない。

(佐々木一全、久保田康之)

紙面編集・和田守涼平

松江市新庁舎

# 選管が1万4145筆認定

## 縦覧後、直接請求へ

新庁舎建設事業に関する住民投票条例制定を求める署名について、松江市選挙管理委員会は14日、署名の審査結果を発表した。提出された1万5318筆のうち、有効署名は1万4145筆と認定。直接請求に必要な3350人を大きく上回った。

署名活動を行ったのは、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人）。署名簿は、縦覧のため、同日から20日まで、同市選挙事務局（松江市役所本館2階）に置かれ、市民が自由に内容を確認することができる。内容に異議申し立てがなければ、返還さ

れ、同市民団体は5日以内に直接請求を行うことになる。

# 新庁舎の在り方 市民思い訴え

納得いく説明ない

人材育成に投資を



松江市役所本庁舎の建て替え事業に対する意見を述べる参加者（左）＝松江市白潟本町、市民活動センター

## 松江で集会

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業をテーマにした市民集会在11日夜、同市白潟本町の市民活動センターであった。着工延期の是非を問う住民投票の実施に賛同する市民が、総額150億円と見込まれる事業費や市の説明姿勢に対する思いを語り、約50人の参加者と事業の在り方を考えた。

（佐々木一全）

住民投票条例の制定を目指す市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が、事業への関心を高めようと企画。同会の署名活動に携わった主婦や大学教授など5人がリレー方式で意見を述べた。

どうする!?

## 市役所 建て替え

同会のメンバーで同市東奥谷町の自営業、長谷川浩二さん(50)は、新型コロナウイルスの感染拡大前に策定された計画のまま事業が進むことに懸念を示し「コロナ禍の中で、事業を続けて大丈夫なのか、納得のいく説明が得られていない」と強調した。

同町の主婦、太田麻衣子さん(44)も「まちのブランド力は市庁舎が立派かどうかではない」と持論を述べ、人材育成に向けた投資に回すよう求めた。

地方経済に詳しい島根大法文学部の飯野公央准教授(58)「経済政策論」は建設費やランニングコストを含めると70年間で約330億円が必要になると指摘。「ハコモノを造るということは将来の予算を縛ることにな

る。議会でその点をよく議論したのか」と疑問を呈した。

このほか、数人の来場者がマイクを握り、それぞれの考えを訴えた。

集まった約1万5千人分の署名は市選挙管理委員会が審査中で、同会は25日をめどに松浦正敬市長に住民投票条例の制定を求める直接請求を行う考え。



# 県庁も移転し三の丸を復元

松江市浜乃木

吉川 洋一 66歳

最近、松江市庁舎建て替え問題が急浮上している。一松江市民として私なりの意見を申し上げたい。私の案は、市役所、県庁の建て替えを見据えたもので、最初に市役所を西嫁島町の旧ホテル穴道湖跡地に移転し、次に県庁を市役所跡地に移転する。そして、県庁跡地は松江城三の丸を復元する。

一朝一夕にはできないかもしれないが、市役所からも県庁からも穴道湖が一望できるし、元来あった松江城三の丸が復元できたら（たとえできな

くても駐車場として活用できる）、国際文化観光都市である松江の観光価値がさらにグレードアップし、経済的にも工期の短縮による予算の節約など良いことづくめである。市役所、県庁ともに

建て替えを要している今だからこそできるのではないだろうか。

われわれの生活に密着した中枢施設は絶対必要で、孫子の代まで、やはり移転して良かったと思われるように、100年の大計を誤らないように切に願っているところである。

松江市新庁舎

# 松江市議 9割賛否示さず

## 住民投票「議論は深める」

本社アンケート

松江市役所本庁舎（松江  
市末次町）の建て替え事業  
を巡り、山陰中央新報社が  
松江市議会（定数34）の全  
議員を対象にアンケートを  
実施した。9割に当たる31  
人の議員が関連議案が審議  
入りしていないことを理由

に事業計画や住民投票に対  
する賛否を明らかにしなか  
ったが、積極的に市民の意  
見を聞いて議論を深めてい  
く考えを示した。

（24面に関連記事）

建て替え事業に対する議  
員個々の考えを問うため、  
今月上旬に聞き取り調査を  
実施した。事業を延期・中  
断して計画を再考すること  
の賛否、住民投票の実施の  
賛否、市による市民への事  
業計画の説明が十分と考え  
るかどうかの3問を尋ね  
た。

この結果、31人が市民団

体の求めによる住民投票条  
例案が今後審議される見通  
しのため、現時点で質問に  
は回答できないとした。

賛否を明らかにしなかっ

た議員は、自民党系の松政  
クラブ（16人）と真政クラ  
ブ（5人）、公明クラブ（4  
人）、民主・連合系の市民  
クラブ（4人）と友愛クラ  
ブ（2人）の所属で、「会  
派でも説明会を開いて多く  
の方の意見を聞く機会を設  
ける」（公明クラブ）、「可  
能な限り、市民の思いや意  
見をうかがう」（市民クラ  
ブ）などとコメントした。

共産党市議団の3人は事  
業計画の再考と住民投票に  
「賛成」と回答した。市に  
よる市民への事業計画の説  
明は、共産党市議団と友愛  
クラブの計5人が「不足し  
ている」と答えた。

街頭演説や会員制交流サ  
イト（SNS）で住民投票  
に賛同する考えを表明して  
いる松政クラブの出川桃子  
議員は所属会派の方針に沿  
って回答を控え、「市民の  
声をしっかりと受け止め、  
自らの信念に基づいて判断  
したい」と話した。

建て替え事業は市が年度  
内の着工を計画。市民団体  
は約1万5千人分の署名を  
集め、今月中に着工延期の  
是非を問う住民投票の実施  
を市長に直接請求する見通  
し。

（取材班）

どうする!?

## 市役所 建て替え

松江市役所本庁舎の建て替え事業に関する議員アンケート

市議会議員名簿(会派別)順。敬称略。

	事業を中断(再考)することについて	住民投票の実施について	市は事業計画を十分に説明しているか	主なコメント
河内大輔、出川桃子、細木明美、米田ときこ、三島伸夫、柳原治、野津直嗣、野々内誠、野津照雄、吉金隆、森脇幸好、森脇勇人、三島良信、三島進、立脇通也、比良幸男(松政クラブ)	回答できない	回答できない	回答できない	(関連議案の)審議前で、市民に対する説明も途中段階であるため、現時点で回答することはできない。
岩本雅之、貴谷麻以、川島光雅、石倉徳章、南波巖(真政クラブ)	回答できない	回答できない	回答できない	まだ関連議案が提出されていない段階で、回答することはできない。審議が深まった際に改めて答えたい。
太田哲、長谷川修二、田中明子、篠原栄(公明クラブ)	回答できない	回答できない	回答できない	審議前のため、回答できない。市民に対する説明は引き続き充実させてほしい。会派でも説明会を開いて多くの方の意見を聞く機会を設ける。
森本秀歳、畑尾幸生、津森良治、川井弘光(市民クラブ)	回答できない	回答できない	回答できない	条例案が上程されておらず、回答できない。可能な限り、市民の思いや意見を聞くように努力している。
田中肇、吉儀敬子、橋祥朗(共産党市議団)	賛成	賛成	不足している	コロナ禍による課題も出てきているため、立ち止まって計画の再考を求めたい。住民投票を実施し、その結果に従う。
新井昌福、宅野賢治(友愛クラブ)	回答できない	回答できない	不足している	条例案の内容を見ていないので、住民投票の是非は判断できない。事業計画については、もう少し丁寧に説明するべきだ。

※このアンケートは定期的に実施します

松江市議アンケート

「意見示さねば不信感」

識者 市民の声聞き判断を

松江市役所本庁舎(松江市末次町)の建て替え事業を巡る山陰中央新報社の松江市議34人へのアンケートで、質問に回答できないとした議員が9割を占めた。関連議案の審議前でも住民投票のテーマや市民の疑問の声を把握することは可能で、自身の意見を明らかにしない姿勢に識者から批判が上がった。

(久保田康之) 11面参照

「市民の声を聞いてどう考えるのか、議員として意見

どうする!?

市役所 建て替え

見を述べないのはおかしい。自治体財政に詳しい鳥取大の藤田安一名誉教授(68)公共政策学は、多数の議員の対応を問題視した。市の政策決定の過程に疑問を投げ掛ける市民団体の活動によって、住民投票の実施を求める約1万5千人分の署名が集まっており「市民から託された使命、

今後、市議会で条例案を審議する際、議員は市民に情報を伝え、熟考を求める姿勢が必要とした上で「市民の意見を聞き、最終的には議員の一人一人が信念を持って判断をしてほしい」と話した。

存在意義を自ら放棄している」と強調した。島根大法学部の毎熊浩一教授(48)行政学は議会全体や会派内であらかじめ見解が統一され、議員それぞれが表明できない風潮があるのではないかと推察。「個人の意見をはっきりと示さなければ、議会や議員に対する必要な不信感を市民に与えてしま」と指摘した。

11日に市民集会 事業の在り方議論

松江市役所本庁舎の建て替え計画の是非や市の説明姿勢について意見を交わし、市民の関心を高める。会場は同市白濁本町の市民活動センターで、5人程度の市民ら、事業の在り方をテーマにした市民集会を市内で開く。事業

機運醸成へ「求める会」

「求める会」は、市役所本庁舎の建て替え事業の延期を求める市民団体。松江市民のための新庁舎建設を高める。代表・片岡佳美。会場は同市白濁本町の市民活動センターで、5人程度の市民ら、事業の在り方をテーマにした市民集会を市内で開く。事業



令和2年(2020年)

9月9日(水)

### 新庁舎建設

松江市長

現地立て替えを着実に進める方針

# 「移転のメリットない」

新庁舎建設について、松浦正敬松江市長は7日、「建設予算の(市議会)議決をいただいている。執行をあずかる市長として、着実に進めたい」との考えを示した。同日の市議会一般質問で、河内大輔市議(松政クラブ)の質問に答えた。

新庁舎建設では、市と「思」うと所感。一方民団体が「知らないうちに巨額の費用をかけた事業が決まっていた」などと呼びかけ、一時中断の是非を問う住民投票条例の制定を求め、約1万5314筆の署名が、同市に提出された。

松浦市長は、署名活動について「市政に関心を持っていただけることは、大事なことです」と述べた。

の指摘については、地方自治法の要求と「街づくり」の両面から、現行計画の現地立て替えを決めたと反論。同法が庁舎移転には「市議会の3分の2以上の同意が必要」と規定していることを踏まえ、「移転以外は考えられないぐらい、明確な理由はないとした。

仮に移転となれば、「跡地利用」や、建て替えを行わない「西棟」などの扱いについて、新たに議論が必要になると強調。新庁舎建設の構想発表から5年がたち、すでに経費約3億円を使っているとし、「改めて議論するならば、事業費はさらに高くなる。移転のメリットはないと考えている」と述べた。

で、建設に向けた議論は、市議会や経済界だけでなく、市民会議やワークショップ、パブリックコメントを通じて行ってきたと強調した。「多くの意見を反映しながら、本事業を進めてきた。この点をぜひ理解いただきたい」と述べた。

一部の市民団体が「移転」を提案していること

# 市民の声基に妥当性問う

## 松江市庁舎問題 市は「説明尽くす」 市議会 質問

松江市役所本庁舎（松江期末次町）の建て替え事業を巡り、7日の9月定例松江市議会の一一般質問で、市民に対する事業説明のあり方や市民団体が実施を求める住民投票に関する質問が相次いだ。市は市民の安全を確保する上で早期に建て替え事業を進めることが欠かせないとし、出前講座などを通じて説明を尽くす考えを強調した。

（佐々木一全）

この日は質問に立った6人のうち、4人が建て替え事業を取り上げた。

自民党系の最大会派・松政クラブの河内大輔議員は、新型コロナウイルス禍の中で事業を進めることや総額150億円と見込む事業費の妥当性を問う声が市

民の間で高まっていると指摘。民主・連合系の市民クラブの畑尾幸生議員は「分かりやすくプラン（事業計画）を伝え、市民の意見や要望を聞く努力をすべきだ」と注文した。

着工延期の是非を問う住民投票の実施に理解を示す共産党市議団の吉儀敬子議員は「『現行のまま進める』との意見が多数になる可能性もある。住民投票をすることによって、真の意味で民意に基づく庁舎建設になる」と訴えた。

ほか市報や市ホームページを活用して市民の疑問解消に取り組むと強調。約1万5千人分の署名を集めた市民団体が実現を目指す住民投票については「（実施条例の制定の）可否は私ではなく、市議会において判断してもらうことになる」と述べるにとどめた。

事業の中断による影響を質問した自民党系の第2会派・真政クラブの川島光雅議員に対しては、大規模地震への備えや今後の労務単価の上昇などを挙げ「状況は好転せず、むしろ新たな問題が発生する」と述べ、着工延期に否定的な認識を示した。

こうした質問に対して松浦正敬市長は、出前講座の

どうする!?  
市役所  
建て替え

# 移転建て替え

## 「メリットない」

### 松江市新庁舎で市長

老朽化に伴う松江市の新庁舎建設計画について、松浦正敬市長は7日の市議会定例会の代表質問で、「(移転建て替えにすると)跡地も含めた総合的なまちづくりを考える必要がある。結果的に事業費が高くなり、期間も長くなってメリットはない」と述べ、現地での建て替えに改めて理解を求めた。

事業費は当初120億円とされたが、約30億円増が見込まれる。建設をめぐる

では、市民団体が計画中断の賛否を問う住民投票条例の制定を求め、市選挙管理委員会に1万5314筆の署名簿を提出している。

7日の市議会では、5会派から6人が質問に立ち、4人が庁舎建設を取り上げた。

松浦市長は市民の懸念や疑問を「承知している」としたうえで、事業費が増えたことについては計画と設計段階での違いや全国的な人件費の高騰が背景にあると説明。「安くないが現段階では現実的な金額で理解してほしい。可能な限り経費削減に取り組む」などと述べた。

(杉山匡史)

## 民主主義とは何かを考える

島根県奥出雲町

宇田川孝浩 47歳

松江市新庁舎建設について住民投票を求め署名が提出されました。1万5千を超える署名は大変重いものだと感じました。最も問題視されているのはそのプロセスだと思います。まず市民に対して高い透明性が求められているのでしよう。

しかし同時に「市民」とは何か? 「民主主義」とは何か? このあまりに自明で手あかのついた言葉の意味を考えさせられました。

島根県庁周辺には世界的にも評価の高い建築群

があります。建設から半

世紀以上たった現在も松江市が文化的な都市であり続ける重要な要素です。田部長右衛門という当時の発注者の力量も大きかったでしょう。

もちろん現代はヒロイツクなリーダーが物事を決める時代ではありません。より民主的な時代になった一方でインターネットを通じたポピュリズム

ムの危うさも同時に感じる出来事も増えました。

「市民」との熟議を通じたポトムアップの意思



決定は必要ですが、多数決の生むポピュリズムが長いスパンの政策決定に影響を与えたとき、それが本場に市民にとって有益な結果となりうるのか不透明であることもまた事実だと思えます。

## 今の計画がベストか再考を

松江市北堀町

吉岡 明子 62歳

92歳になる老母いわく、昔、市役所の辺りは

をしているとか。工事も大変な技術を要し、結局は大手ゼネコンが主体となるのでは? 素人考えですが、違約金が発生したとしても堅固で使いやすい建物を別の場所に建てる方が工期も短く、安く、市の業務もしやすく、地元も潤い、市民も納得できると思います。

「もう決まったことだから」「議会の承認も受けている」「市民への説明もした」と突っぱねるのではなく、この新庁舎がベストなのか、市民の将来の負担にならないためにはどうあるべきか再考してほしいです。現在地での建て替えに固執するのは、なぜでしょうか。もし半沢直樹が当局にいたら「いま一度見直さないか!」と声を上げるのだからと思います。

アシ原で蛇もたくさんいる沼地だったとのこと。

そんな場所に地階を有する6階建ての建物を建てて大丈夫ですか。

地元経済界はこの大プロジェクトに多大な期待

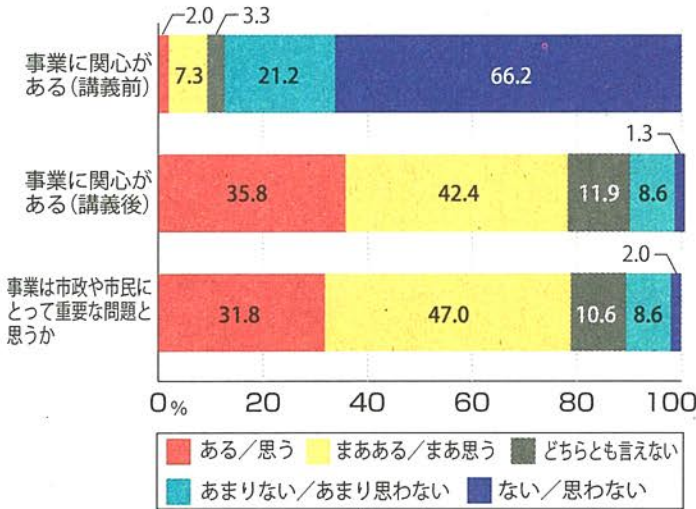
どうする!? 松江新庁舎

# 回答者8割 新庁舎重要視

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、若者の政治参加を考える島根大の学生団体「ポリレンジャー」が学生アンケートを行い、回答者の約8割（119人）が「事業は市政や市民に重要な問題」との認識を示したとの結果をまとめた。団体側は市に公開討論会の開催を打診したものの断られたとし、対話の必要性を訴えている。

（佐々木一全）

市役所本庁舎の建て替え事業に関する学生アンケートの結果（回答151人）



## 島根大ポリレンジャー 学生200人調査

# 松江市に討論会求める

どうする!?

## 市役所 建て替え

アンケートは団体の顧問を務める毎熊浩一教授が担当する「政治・行政学入門」と「行政学」の受講生約200人を対象に6月下旬に実施し、151人が回答した。建て替え事業が市政や市民にとって重要な問題だと思うかどうかを尋ねたところ、48人（31・8%）が「思う」と答え、「まあ思う」も71人（47・0%）に上った。

学生は6月中旬に建て替え事業をテーマにした講義を受講。受講前から関心があった学生は14人（9・3%）にとどまっていたが、

受講後は118人（78・2%）に増加した。結果を踏まえ、団体は議論を通して市民のさらなる関心の向上と理解の促進につなげようと、公開討論会を企画。市に参加を呼び掛けたが、これまでも市民の意見を反映しながら事業を進めてきているとの理由で「出席は適切ではない」との返答があったという。

こうした市の姿勢に対し、団体代表を務める法文学部2年の沢田香純さん（20）は「若者の行政に対する関心の向上に水を差しかねない」と残念がり、毎熊教授は住民投票条例の制定を求める市民運動の高まりを念頭に「市の施策に対して大きな注目が寄せられている現状は、市政にとって好機のはずで、対話に応じないのはもったいない」と苦言を呈した。

団体は今後、条例案を審議する市議会との意見交換などを視野に、議論の活性化に取り組むとした。

市は総事業費150億円で現地建て替えを計画しており、年度内の着工を目指している。



# 真摯に向き合う懐深い市政

松江市上乃木

藤谷 勲 69歳

松江市庁舎の建て替え事業に住民投票の直接請求が行われた。市長は「議会制民主主義は地方自治の根幹をなすものであ



り、そのルールの中で手順を尽くしている」としている。おおむねその通りだが、手順を「尽くしている」と言えるのだろうか。

市民の直接請求は地方自治に制度化されている

手順の一つである。国政と異なり、議会と市長という直接選挙により選ばれた相互けん制の枠組みは、より住民の身近で政治や行政が行われる制度である。

市長には誤解があるのではないか。確かに「市議会の承認を得て進め

## 市議会議員はどう感じたか

松江市西川津町

大石 健夫 71歳

松江市庁舎建て替え事業についての住民投票条例制定に賛同する署名が

いる」のだが、そうした場合でも住民が直接請求を行う余地は残っており、市長はそれに向き合っ

市長と議会には直接請求に真摯に向き合っても

の方針は元の場所に建て替えるという案一辺倒で、市民への説明会もその方針を一方的に伝えるだけという姿勢のよう

だ。市民から提案された、県立プール跡地もホテル穴道湖跡地にもそれぞれ一長一短がある。しかし「もう決まったことだから」という、議論を避ける風潮には疑問を持つ。

市長も市議会議員も、われわれ市民が代表として直接選んだ人たちだ。議会制民主主義において国民投票や住民投票を求めるということは、議会を信頼していないということにならないか。議員として恥ずかしくはないか？

どの案に決着するのかは別として、速やかに議会で議論、検討することを切望する。

## どうする!? 松江市庁舎

1万5千人超集まったという報道があった。これに対し市議会議員の皆さまはどのように感じられたのだろうか？

市庁舎を建て替えることに反対する人は多くないと思われる。が松江市



職員の新型コロナウイルス感染が確認された雲南市役所。勤務する3階フロアは、一般市民の立ち入りを制限した—雲南市木次町里方、市役所1階

# 職員感染 雲南市影響最小限に 窓口業務や小中学校継続

雲南市職員が新型コロナウイルスに感染したことを受け、職員が勤務する同市木次町里方の市役所は対応に迫られた。市は感染拡大を防ぎながら、市民生活への影響を最小限にする方針で、市内の小中学校は休校

とせず、多くの市民が訪れる市民生活課などの窓口業務も続ける。(一面参照) 22日午前、速水雄一市長ら幹部職員約30人が会議を開き、今後の対応を協議。感染者が教員など学校関係者ではなかったため、小中

学校の休校措置は見送ることを確認した。感染した職員が勤務する市役所本庁舎3階には、市長室や総務部、政策企画部、防災部、産業観光部などが入る。この日は開庁前に机やカウンターを消毒し、3階を封鎖して一般市民の立ち入りを制限。3階で勤務する約50人のうち3分の1に当たる管理職などを残し、他の職員は自宅待機とした。

1階の市民生活課や長寿障がい福祉課の窓口は、消毒した上で開けた。住民票の届け出など各種受け付けは、通常通り行っている。速水市長は会見で「市の

1例目として市職員が感染し、市民には大変心配を掛けていた」とし、雲南保健所による調査に全面的に協力する姿勢を示した。市は、23日からの4連休中も職員を配置し、電話相談を受け付ける。問い合わせは健康推進課、電話0854(40)1045。午前8時半〜午後8時に対応する。(奥原祥平、清山遼太)

2020年7月23日 山陰中央新報 掲載

これは、当時のニュース記事ですが、私が住む雲南市大東町では、この日すでに、私の隣の家の人が、この人は誰かを知っていました。

隣の家の人いわく、「その人は加茂町に住む、〇〇才の人で、大阪に仕事で行ったときに感染したそうよ」と。ニュースでは詳細に出ませんが、ニュースと同じくらいのタイミングで、隣の人は、本人とは全く関係ないのにそこまで知っている、という状況でした

その後、先週、隣の家の人から聞いたのですが、「感染したその人の玄関には、コロナ来るな、という張り紙、そして生卵を家にあてられるこのようなことが連日あったそう、そこには、居れなくなり、市役所も辞めるし、家族で引っ越したらしい」とのことでした。

ニュースでは「気を付けましょう」程度しか言わないのですが、実態はこのようなことです。とても他人事では済まないと思いました。

# 島根3市3町に 爆破予告メール

一部はきょう臨時閉庁

島根県内の複数の自治体に庁舎爆破を予告するメールが届いていたことが31日、分かった。一部自治体は予告された時間の前後に臨時閉庁する。

メールが届いたのは、雲南、江津、益田の3市と奥出雲、川本、美郷の3町。いずれも1日午後の時間を指定して「爆弾を仕掛けた。役所を爆破する」といった文面になっていた。

3市3町は不審物を捜したが、見つからなかった。

雲南市と奥出雲町は1日正午～午後3時、雲南市役所本庁舎と奥出雲町役場の仁多、横田両庁舎を臨時閉庁する。江津市は同日午後

3時半～同5時15分、本庁舎、分庁舎、水道庁舎、人權啓発センター、市役所前リサイクルステーションを同様に閉庁する。川本町は午後2時前後、一時職員を避難させ、安全確認後に通常業務を行う。

## 松江市新庁舎問題

松江市役所本庁舎(松江市末次町)の現地建て替え事業を巡り、延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めめる会」(代表・片岡佳美島根大教授)が、住民投票条例の制定に賛同する1万5314人分の署名簿を市選挙管理委員会に提出した。現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問うのが目的だ。

現在、市選管が署名簿の審査を行っており、13日をめどに有効署名数を告示。その後、市民団体から直接請求を受けた松浦正敬市長が9月下旬から10月上旬ごろに市議会へ条例案を提出し、市議会が住民投票実施の可否を審議する。

まず押さえておきたいのは、市民団体が頭から市の計画を否定しているのではなく、工期や建設費がかさむとされる現地で建て替えが決まった過程が不透明だと主張している点だ。

## 募る不信感 説明尽くせ

松浦市長が初めて現地建て替えるの考えを明らかにしたのは、15年の2月定例市議会。市議の質問に対し「現地建て替えを考

えたい」と答弁した。当時、市議会内には島根県立プール跡地(同市学園南一丁目)を推す声もあったが、実際に移転するとなると大きな反発を招く恐れがあり、代替地での建設を提案するには至らなかったという。「結論ありき」の感否めない。その後、市議や市民から大きな異論は出ず、議事録などによ

だが、当初120億円を見込んでいた概算事業費が、東京五輪に伴う資材費の高騰などで150億円に膨らむことが判明。前提条件が変わったのに加え、新型コロナウイルス禍で地域経済が低迷する中、「このまま突き進んでいいのか」という疑問が浮かぶのは当然だろう。

とはいえ、市民の間に「何も知らなかった」という声が多いのは事実で、市民に納得してもらえない丁寧な議論の積み重ねができていたとは言い難い。外部の異論を排除しては、民主主義の根幹を揺るがすことになり、市民は市政運営に不信感を募らせてしまう。

ると、各種団体の代表らでつくる市民会議、市議会の特別委員会はいずれも現在地での建て替えを前提に議論。18年2月に現地建て替えの方針が決まった。

こうした市民団体の活動を受け、松浦市長は6月の定例会見で「これまで段階に応じて広報誌などで説明してきた。聞いていないと言われても、なぜいまさらという感じだ」と不快感を示した。

今回の件を受け、市は6、8月、公民館区ごとに地区代表者らを集めた説明会を開催。今後は出前講座を開催するという。現在地建て替えのメリット、デメリットなどを丁寧に説明してほしい。

市民投票が実施されるかどうかは分からないが、市民が改めて市政運営に目を向ける契機になるはずだ。市民の意思を十分に反映させないまま、強引に計画を押し進めれば、県都の将来に禍根を残すことになる。

## 論説

2020.9.1

指す。

示した。

に禍根を残すことになる。

松江

## 新庁舎説明 再度すべき

不満2割受け議会特別委

## 市は出前講座開く考え

市役所  
建て替え

どうする!?

松江市議会の新庁舎建設特別委員会（立脇通也委員長、9人）が28日あり、市が開いた市役所本庁舎の建て替え事業に関する住民説明会の満足度調査で約2割が不満と回答したことを受け、市民に改めて丁寧な説明すべきだとの意見

が相次いだ。市側は出前講座を企画する考えを示した。市は6～8月、公民館区ごとに地区代表者などを集めた説明会を開催。参加した818人のうち、669人からアンケートを回収した結果、計40・9%が「満

足」「やや満足」したと答える一方、19・3%に当たる129人が「不満」「やや不満」と回答した。

特別委では、複数の市議が、現地建て替えを決めた経緯や150億円と見込む事業費の説明を市民に再度行うよう求めた。市議34人のうち16人が所属する最大会派・松政クラブの野津直嗣議員は「（さらなる説明の実施が）課の体制として難しいのであれば、広報班をつくって対応すべきだ」と指摘。同会派の森脇勇人議員は「市民の質問に対す

る回答を回覧で配ってほしい」と求めた。

これに対し、市新庁舎整備課の岡田等課長は「多くの市民に直接、お話しできる機会を設けたい」と述べ、出前講座を開く考えを示した。

事業を巡っては、市の説

明が市民に十分に行き届いていないとして、市民団体が着工延期の是非を問う住民投票の実現を求めて署名活動を展開。1カ月間で1万5千人分を超える署名が集まった。現在、市選挙管理委員会が有効署名数を確認しており、9月下旬の市長への直接請求を経て、市議会でも条例案が審議される見通し。

（佐々木一全）



令和2年(2020年)  
8月25日(火)

# 松江市新庁舎

# 建設中断し住民の声反映を

## 住民投票条例 制定求め市民団体 署名1万5314筆を提出

松江市役所の新庁舎建設の一時中断の是非を問う、住民投票条例の制定を求め、「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人)が24日、集まった1万5314筆の署名を松江市選挙管理委員会に提出した。

同求める会が目指すのは、「新庁舎建設を中断し、市民との対話討論を経て見直す」との是非を問う、住民投票の実施。「市民が考えたり、意見を言ったりする間も十分になく、知らないうちに、巨額の費用をかけた事業が決まっていた」など問題提起し、7月21日から1カ月以内の署名活動を行ってきた。

条例制定の直接請求に必要なのは、有権者の5分の1(約3360人)以上の署名。今後、同選挙が20日間以内、書名と選挙人名簿の突合などを実施し、署名の有効性を確認する。署名が有効であれば、7日間の縦覧の後、同求める会が、条例案とともに市長に提出。市長は提出から20日以内に市議会を招集し、可否を議論する

ことになる。片岡同大教授は、市長提出までの約1カ月の間に、市長との面談や市民集会などを行いたい考え。現在、調整を行っているという。同市現庁舎は1962年に建設。大規模な改修がないまま、50年以上が経過している。同市では、2014年に着手した耐用年数調査や庁舎総合評価などを経て、16年に整備基

本方針を策定。「新しい松江市役所検討市民会議」(委員長・足立正智)など

基本設計を発表している。完成予定は2026年度中。今年度中の着工が予定されている。整備事業や、市民から寄せられた質問・回答などについては、同市HP (<http://www.city.matsue.shimane.jp/index.html>) の「松江市新庁舎の整備について」に詳しい。

松江市長

# 新庁舎「計画変更なし」

## 住民投票求める署名に見解

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、着工延期の是非を問う住民投票の実現を求め

どうする!?

## 市役所 建て替え

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業の署名が約1万5千人分集まったことに関し、松江市の松浦正敬市長が26日の定例会見で「住民投票を実施すべきとの主張であって、全てが（事業に）反対という意見ではないと思う」と述べた。建設を止める必要はないとの認識も示し、現行計画のまま事業を進めていく考えを強調した。

松浦市長は、建て替え事

業の延期を求める市民団体が集めた署名簿について「署名された方々がどのような意見を持っているのかは分からない。いろんな意見があると思う」と指摘。市民への事業説明が不十分との批判に対しては「情報は常に出している。自分の耳に入っていないことをもって説明がないと言ひ、それを理由に延期を求めるのは少し乱暴ではないか」と

反論した。

市民の代表である市議会の承認を得て事業を進めているとして「議会制民主主義は地方自治の根幹を成すものであり、そのルールの中で段階を踏んで手順を尽くしている」とも述べた。

大規模地震に備えた小中学校や公民館、支所などの耐震化に続き、市民の安全・安心を確保する必要な事業だと重ねて訴えた。

（久保田康之）

# こだま

## 投稿規定

長さは400字以内(趣旨を変えない範囲で、手直しすることがあります)。  
宛先は〒690-8668、松江市殿町383、山陰中央新報社編集局「こだま」係。  
FAX番号0852(32)3520、電子メールkotama@sainin-chuo.co.jp  
郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。実名掲載。採用分には図書カードを贈呈。他紙との二重投稿、採否の問い合わせ、原稿の返却はお断りします。差出人不明の場合は掲載しません。

## 現在地は若者のために活用

松江市浜乃木

乾 薫 78歳

松江市の主な産業は観光やサービス業です。国際文化観光都市という看板

板は立派でも、生かされていないでしょうか？ 現在地で建て替える新庁舎がいくら素晴らしい建物だからといって、観光客

## どうする!? 松江市庁舎

が増え、満足してくれるでしょうか？

この素晴らしい立地条件を生かした企画を市民の皆さまと関係者の方々と一緒に考えられてはいかがでしょうか。今、松江出身の若者たちによる音楽グループは全国で大活躍されていますね。ヒゲダンやサウシードッグ

をはじめ、たくさんの方がテイストの方々が活躍されています。現在地は、



音楽や他の行事のイベント会場に、そして市民の憩いの場などに利用され

## 市民の最善の利益優先願う

松江市西尾町

浅津 寿広 62歳

これまで松江市庁舎の建設問題はさほど気にも留めていなかった。よく

てはいかがでしょうか。松江を拠点とし、全国から若者たちが集まり松江を盛り上げるようになれば、経済効果も生まれます。将来の松江を豊かに、元気にするのは若者たちです。この素晴らしい環境に育つ松江人の才能や個性が育てられ、生かされる場所を提供してください。

聞くところによると、松江市庁舎を建て替えることについて問題はなさそうだが、問題なのは、主に「場所」「費用」「期間」の3点で、これについて再考を促している。具体的には、現地より県

立アール跡地が市の中心地で、周辺環境も市役所建設地として適している。その場所であれば費用も安く期間も短くて済むとのこと。

これに対し、市は「5年前から議論を積み重ね、公表してきた。すべて手続きを踏んできた」との主張。この主張も分からないではないが、この間に社会情勢は大きく変化してきた。少なくとも新型コロナウイルス感染の拡大による全世界的な影響や、松江市の未来を担うべき子ども出生数が2年連続で1500人に激減したことは想定していなかったはず。

市民は「高価な市庁舎の建設など望んでおらず、将来的な不安への公的対処」を願っている。ここは、市長に「市民の最善の利益を優先」し、勇気ある決断を切に願っている。



# 住民投票の請求

## 松江市長が批判

新庁舎問題「理屈が乱暴」

松江市の松浦正敬市長は26日の定例会見で、市役所新庁舎建設計画の中断の賛否を問う住民投票条例の制

定を求める署名簿が提出されたことについて、「市広報やホームページで（事業計画は）公開し、議会にも説明してきた。その人たちの耳に入っていないということ、『説明が足りない』と言われると、どうしていいかわからない。理屈の立て方として乱暴だ」と批判し、予定通り進める考えを示した。

署名簿を提出したのは、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」。

松浦市長の発言に対し、呼びかけ人の片岡佳美・島根大教授は「市長は市民と対話をしたくないのか。市長が言う『説明』は『こう決まりました』という『報告』だ。私たちは決定のプロセスが分かるような説明が欲しい」と話した。同会は24日に、条例制定の請求に必要な有権者の50分の1（3千数百筆）を大きく上回る1万5314筆の署名を提出した。

（奥平真也）

# 松江市新庁舎 市選管署名簿審査を開始 9月中旬に有効数告示

松江市役所本庁舎(松江  
市末次町)の建て替え事業  
を巡り、松江市選挙管理委  
員会が25日、住民投票条例  
の制定を求める市民団体の  
集めた約1万5千人分の署  
名簿の審査を始めた。9月

13日をめどに有効署名数を  
告示する。団体は署名簿の  
返却後、9月下旬ごろに住  
民投票の実施を市長に直接  
請求する考え。

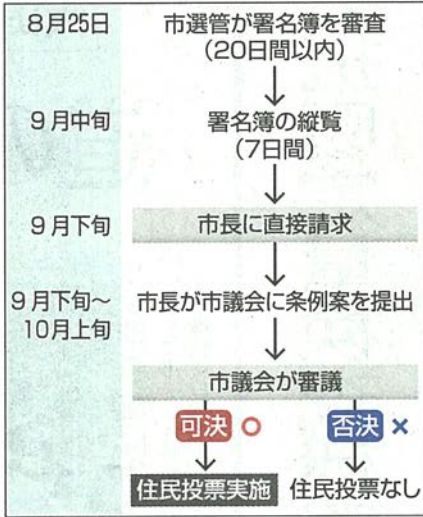
署名を集めた市民団体  
「松江市民のための新庁舎  
建設を求める会」(代表・  
片岡佳美島根大教授)は、  
現行の建て替え事業を中断  
して計画を練り直すか、2  
020年度中の着工を予定  
する市の計画通りに進める  
かを二者択一で問う住民投  
票の実施を求めている。

市選管は24日に提出され

どうする!?

## 市役所 建て替え

### 住民投票条例案を巡る今後の流れ



判断する作業に着手。完了  
後、7日間の縦覧を経て団  
体に署名簿を返却する。  
地方自治法は、有権者の  
50分の1以上(約3400  
人)の署名を集めて直接請  
求された場合、市長が市議  
会に条例案を提出しなけれ  
ばならないと定めている。  
団体のメンバーは25日  
朝、同市朝日町のJR松江  
駅前で街頭報告を行い、片

岡代表は「多くの方に賛同  
いただき感謝したい。『待っ  
た』の思いを込めて、引き続  
き市に対話を求めていく」  
と述べた。(佐々木一全)



令和2年(2020年)

8月28日(金)

松江新庁舎

# 市長「止めることはない」

## 市民団体署名受け表明

松江市の新庁舎建設計画について、市民団体が建設一時中断を求める署名を提出したことに、松浦正敬市長は26日、「建設に向け」これまで一定の手続き、議会の了承を受けてやってきた」と改めて強調し、「署名があったからといって、建設を止めることはない」との考えを示した。26日の定例会見で、報道陣の取材に答えた。

新庁舎建設を巡り、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が24日、建設計画の一時中断の是非を問う住民投票条例の制定を求め、1万5314筆の署名を提出。「知らないつちに、巨額の費用をかけた事業

が決まっていた」などと訴えた。

松浦市長は新庁舎建設に関連し、「(東日本大震災後)地震に対する安全が、時間が経つにつれ忘れられている」との見方を示すと同時に、「きちっと公共施設の耐震化をや

り、安心安全を確保する」と述べた。

また、同団体の主張に対し、「議会制民主

主義を駄目とする声に、なんと言っているのか分からない」と述べた。

するならば、考え方を示してほしい」と求め、同市はこれまで

に、公共施設の耐震化について、総額約160億円をかけ、小中学校、公民館などの改修を推進。新庁舎建設は「最終の事業」と位置付けている。建設費の大部分は起債により賄うが、同市は「後年度負担の縮減」のため、財政運営計画に基づき、基金を積んでいる。

# 住民投票条例求め1万5000人超

# 初の直接請求へ署名提出

## 松江市新庁舎 団体「市民不在の表れ」

総額150億円と見込まれる松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業の延期を求める市民団体が24日、住民投票条例の制定に賛同する署名が1カ月間で1万5314人分集まったと明らかにした。団体側は「市民不在で事業が進むことへの怒りの表れだ」と強調。松江市の施策に関して条例制定の直接請求が行われるのは初めてで、大きなうねりとなった住民の意思が市長、市議会にどう響くのか、新たな局面を迎えた。

（佐々木一全）



集まった署名簿を提出する市民団体の片岡佳美代表＝松江市末次町、市選挙管理委員会

住民投票条例は、現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問うために制定する。

どうする!?  
**市役所  
建て替え**

実現には市内有権者の50分の1（約3400人）以上の署名を集めて市長に直接請求する必要がある、大学教授らでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が7月21日から今月20日まで署名活動を展開していた。

有効署名数の審査のため、24日に市選挙管理委員会へ署名簿を提出した片岡代表は「相当な数の市民が、市民不在で事業が進むことに怒りを感じていることが分かった。市民の納得は全く得られていない」と訴えた。

直接請求は住民の基本権として認められており、住民投票は市民の意思を直接、確認する手段となる。

市の選挙人名簿登録者数（6月1日現在）は16万7907人で、集まった署名数は9％に相当する。

市民団体は有効署名数の確定後、9月下旬をめどに市長に住民投票条例の制定を直接請求する考え。その後、松浦正敬市長は地方自治法に基づき、市長意見を付けて20日以内に市議会に条例案を提出しなければならぬ。

住民投票は、市議会が可決しなければ実施されないため、片岡代表は市長や市議、市民との意見交換会を開催する考えを示した。

# 新庁舎 市民「待った」

## 説明不足 市の認識とずれ

### 松江

1万5千人以上の市民が、松江市が進める市役所本庁舎の現地建て替え事業に「待った」の声を上げた。集まった署名の多さは、説明を積み上げてきたと主張する市側と市民との認識の違いを浮き彫りにした。

(佐々木一全、久保田康之) ー1面参照



松江市が現地建て替えを計画する市役所本庁舎―松江市末次町

宍道湖畔の現在地での建て替えが決まった経緯や、150億円と見込まれる多額の事業費に関する説明が市民に行き届いていないとして、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が7月下旬に始めた署名集め。団体側の当初の予想に反して、活動趣旨に賛同する声は日増しに高まり、次々と署名が寄せられるようになった。

市民団体の呼び掛け人を務める関耕平島根大教授は「これまで市の施策に市民が声を上げるといふ動きがなく、行政に任せっきりだった。そうした文化への大きな不満が顕在化した結果だろう」と分析する。

市は、市報を使った計画内容の周知やパブリックコメント(意見公募)を通して説明を重ねてきたと主張する。

ただ、総事業費が150億円に上ると公表した2019年11月以降、市民が意見表明できる機会を設けておらず、今月8日に別の市民団体が企画したシンポジウムへの参加打診も断った。

今回の動きについて、市新庁舎整備課の岡田等課長は「詳細を把握しておらず、コメントは差し控える。市報や説明会などを通じて市民に理解してもらえよう最善を尽くす」と述べるにとどめた。

こうした市の姿勢に対し、関教授は「署名活動

の結果を」敵対視するのではなく、議論の活性化にならねば」と願う。  
「市民不在」で事業が進んだ証左にも受け取れる1万5千人分の署名。市長と市議会がどのように受け止めるのか、市民が注視している。

どうする!?  
市役所  
建て替え

# 「新庁舎再考を」 署名1.5万筆提出

松江、住民投票要望

松江市新庁舎の建設中断の賛否を問う住民投票条例の制定を求めている市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は24日、1カ月で集めた署名簿1万5314筆を、地方自治法に基づき市選挙管理委員会に提出した。条例制定の請求には有権者の50分の1以上の3千数百筆の署名が必要だが、それを大きく上回った。

市選管は、25日から20日



以内に、署名を選挙人名簿と照らし合わせて有効か無効かを判断する。7日間の署名簿の縦覧期間を経て、会は松浦正敬市長に対し住民投票条例を本請求。市長が条例案を提案し、市議会が賛成多数で可決すれば住民投票が実現する。

呼びかけ人の関耕平・島根大教授は「これだけの署名が集まったのは、行政にお任せになってしまった声が上がられなかった市民の不満が顕在化したのではないか」。片岡佳美・同大教授は「市長との対話も呼びかけたい。市長や市議の皆さんの考えを聞きたい」との考えを示した。

松浦市長は予定通り12月に着工するとしている。

(奥平真也)

# 署名1万5314人分提出

## 松江市新庁舎巡り 住民投票求める

12月着工予定の松江市新庁舎の事業延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は24日、延期の是非を問う住民投票実施を求める1万5314人分の署名簿を市選挙管理委員会に提出した。直接請求に必要な有権者の50分の1（3359人）を大

代表は「潜在的な賛同者は署名数以上。事業は市民の理解を得られ

ていない」と訴えた。市選管は9月13日までの20日間で署名の有効性を確認し、1週間の縦覧期間を経て同会に署名簿を返還。同会の共同代表らが5日以

内に住民投票条例制定を市長に直接請求する。  
【前田葵】



署名簿（手前）を市選管に提出する片岡佳美・共同代表（右から2人目）ら＝松江市末次町の市役所で

# こだま

## 投稿規定

長さは400字以内(趣旨を変えない範囲で、手直しすることがあります)。宛先は〒690-8668、松江市殿町383、山陰中央新報社編集局「こだま」係。FAX番号0852(32)3520、電子メールkocutama@sanin-chuo.co.jp。郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。実名掲載。採用分には図書カードを贈呈。他紙との二重投稿、採否の問い合わせ、原稿の返却はお断りします。差出人不明の場合は掲載しません。

## 立ち止まって声に耳傾けて

松江市湍北台

青木 豊 41歳

松江市の新庁舎建設については、以前から外壁のさびなどもあり、賛成でした。ただ、建て替えが決まってから、新庁舎

の完成イメージが発表されるまで、情報が公に出ていなかったように感じます。

7月27日付本欄での門脇正人さんの投稿にすごく共感しました。利便性

## どうする!? 松江市庁舎

を考えたなら、県立プール跡地がいいというのも分かります。

この段階での市民の意見に対し、新たな案を作り進めていくのは手間がかかるので、松浦正敬市長が「もう決めたことだ」と言つのも少なからず分かります。

しかし、市役所は市長やこの計画を進める人だけが納得いけばいいとい

うものではありません。申請などで市役所を利用しなくてはならない市民が「待った」をかけているのだから、着工前に改めて意見を聞き、どうやって「使いやすい、建て替えてよかった」と言えるものができるのか考えてみてもらいたいです。

市には個人でも仕事でも趣味でも大変お世話になってるので、こんなことは言いたくないですが、やはり市民あつての松江市だと思つのです。耳を傾け、足を止め、市民と市が納得いくラインを確立してから建て替えてもいいと思います。

## コロナ禍での計画推進疑問

松江市伊勢宮町

青戸 寛 63歳

「松江市くらしの便利帳」をご存じでしょうか?

市長の答弁、選挙の時にはあれだけ声が聞こえる議員さんたちの沈黙にはいささか腹立たしく感じています。

この132ページに「市政を身近に」、それに続いて「市議会とは」と載っていますが、昨今の市民の意見やそれに対する

この2月ごろから不安が増し、さまざまな業種が休業に追い込まれ、街行く人影もまばらになるなど、戦後生まれの私た

ちにとつては初めて経験する今回のコロナ騒動です。「コロナと市庁舎の問題は別物」「松江市の財政力では問題のない金額」との認識ですが、閉店や廃業に追い込まれた店や会社もあり、また頑張っている業種も、給付金の申請をしようと思つた途端に「終了しました」のひと言です。

このような状況で、150億円もの大金を掛けて行う事業を、今この時期にこのまま何もなかったかのように進めて良いものかどうか大変疑問に思います。市民の方々もいろんな案をお持ちのようです。立ち止まって考えるべきだと強く思います。





# 松江市役所が建て替わるの？



なるほドリ 松江市役所の建て替えが最近、話題だね。

記者 本庁舎の本棟（同市末次町）は1962年築。古くなり、地震にも弱いため、2015年3月に現地での建て替えが決まりました。20年12月に工事を始め、23年度に使い始める予定です。

Q 事業費が30億円も増えたことを巡って、市民団体が事業の中断を求めて住民投票条例制定を目指しているね。なぜ30億円も？

A 18年9月発表の基本計

1962年築で地震に弱い

## 事業費増で反対意見も

画では事業費は約120億円返すため、住民団体は「市民で、これは人口規模が松江と同じ広島県呉市の庁舎建設を参考にした概算でした。東京五輪準備などによる建設コストの上昇傾向を盛り込み、「正確に計算」した結果、19年11月発表の基本設計では150億円になりました。

Q 150億円って高いの？  
A 松浦正敬市長は「市の財政面から見れば妥当だ」としています。一方、近年の山陰両県の庁舎建て替えはいずれも100億円未満です。事業費150億円のうち、50億円は積み立てた基金を使い、残りは市債を発行します。

Q 市債って？  
A 簡単に言うと市の借金です。市民から集める税金で

れて事業が中断するとどんな影響があるの？

A 市は、最低でも4年以上遅れ、移転になればさらに遅れると見込んでいます。現在、発行予定の市債は利息を含め114億円ですが、うち34億円は国に払ってもらえるため、市の負担は80億円です。事業が遅れると国に払ってもえなくなり、市の負担が増えるといえます。

Q 市民はどう考えているのかな。

A 新しい建物が豪華すぎるとか、新型コロナ問題の今やる事業ではないなど、反対意見は多くあります。一方、商工会議所は経済回復のため予定通りの着工を求めています。

Q みんなが納得できる方法で進めてほしいね。



回答・前田葵

随時掲載します。取り上げてほしいテーマを、封書かファクスで松江支局にお寄せください。

### 市議会議員の考え聞きたい

松江市古曾志町

清水 正次 56歳

新市庁舎の建設場所に関し、ほとんどの松江市民は市政に対し、市議会の議決を金科玉条とし、

市民の参加を全く寄せ付けない独断専行だと感じていると思います。

さまざまな意見がある中で150億円の税金を使う以上は、市民の合意

### どうする!? 松江市庁舎

を得る必要があるのではないのでしょうか? 民主主義社会において、たとえ結果が現計画と同じとなろうとも、自由に市民が参加できる公開討論会などの場が全くないことに大きな問題があると思います。

市民の代表として選ばれた市議会議員の皆さまは当然のこととお考えな

のでしょうか? せめて選挙で選んでくれた有権者たちに説明責任があることを感じられ、新市庁舎建設に関し地元説明会などをなさった市議会議員はおいでになるのでは

### 新天地に簡素な建物を望む

松江市国屋町

酒向 武 77歳

新庁舎建て替え事業について、市民の関心の高まりを感じます。市内のトップを切って松江城西

ようか? わが町内では皆無ですし友人たちとの問題を話し合うにつけても皆無です。市議会議員の皆さまのお考えをぜひ聞かせていただきたいと思います。

公民館で6月9日に説明会があり、私は現在地を推進する市政に対して静かな傍聴会と感じました

公民館で6月9日に説明会があり、私は現在地を推進する市政に対して静かな傍聴会と感じました

が、今あちこちで、もう一度考える署名活動が盛んと聞き、他の地区の説明会は、いかがかなと気が

になりまして。私なりに三つの気付いた点があります。一つ目は150億円の予算額と約7年の工期です。もちろん専門家を交えた行政の考えですが、多額と思える予算と長期におけるいろいろな課題が考えられます。

二つ目は解体を伴う現在地の使用です。私は建設業に従事した経験から現地で解体しての建設は日数と費用がかさむ気がします。

三つ目は原発問題に絡むことです。言うまでもなく原子力発電所に近

# 「説明責任を果たすべき」

出川市議  
街頭演説

松江市役所本庁舎（松江  
市末次町）の現地建て替え  
事業を巡り、市議会最大会  
派の松政クラブに所属する  
出川桃子市議＝写真＝が18  
日朝、同市朝日町のJR松  
江駅前で街頭演説を行い、  
事業計画に対する市民の理

## どうする!?

# 市役所 建て替え

解が十分に得られていない  
として、市が説明責任を果  
たすべきだと訴えた。

出川市議は、老朽化が進  
む本庁舎を建て替える必要  
性には理解を示した上で  
「新庁舎の施主は市長でも  
市議でもなく市民だ」と指  
摘。総額150億円と見込  
まれる事業規模や着工時期  
について市民の意思を十分  
に反映しないまま計画を推  
し進めれば将来に禍根を残  
すことになる」と主張した。

市民から疑問の声が上が  
る中、市が年度内着工の構



えを崩していないことに対  
しては「結論ありきのまち  
に若者が魅力を感じるの  
か」と述べ、政策決定の在  
り方に疑問を投げ掛けた。

（久保田康之）

# 直接請求の署名確保

## 住民投票条例

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業に関する住民投票条例の制定を目指す市民団体が17日、市長への直接請求に必要な署名数を大きく上回る5960人分の署名が集まったと明らかにした。現時点で回収できた署名簿は全体の3割ほどで、さらに増える見込みという。市議会への条例案提出が現実味を帯びた。  
（佐々木一全）



松江市役所前で市民（右）に署名への協力を呼び掛ける市民団体のメンバー＝松江市末次町

## 市民団体 必要数大きく上回る 議会提出に現実味

### どうする!? 市役所 建て替え

住民投票は、現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問う内容で、実現させるには市内の有権者の50分の1（約3400人）以上の署名を集めて市長に直接請求し、市議会が条例案を可決する必要がある。

署名活動は、大学教授らでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求めよう会」（代表・片岡佳美島根大教授）が7月21日から実施。戸別訪問や街頭、商業施設や宿泊施設に設けた「署名スポット」で協力を呼び掛けてきた。今月20日まで続け、集計後に市選挙管理委員会に提出する。直接請求が出された場合、市長が条例案を市議会に諮ることになり、9月下旬ごろに審議される見通しという。

17日に市民団体のメンバー15人と共に、市役所前で署名の協力を呼び掛けた片岡代表は「多くの方に賛同してもらっている。市や市議会に市民の声の重みを受けて止めてもらえるよう、

最終日の20日まで、一人でも多くの署名を集めたい」と力を込めた。

## 新庁舎の着工

### 「計画通りに」

松江商議所、申し入れ

松江市の新庁舎建設計画  
について、松江商工会議所  
の鷓鴣順・副会頭らは4

日、松浦正敬市長に「地域産業の振興、雇用の安定のため、地元企業へ発注し、当初の計画通り今年度中の着工を」と申し入れた。

鷓鴣副会頭は「新型コロナで地域経済は打撃を受けており、その点からも予定通り、早めに着工していただいた方がいい」と求めた。松浦市長は「コロナもあるが、計画通りに進めることが出来る環境にはあ

る」と、今年12月着工の計画を変更する考えはないことを強調した。

市は3日、庁舎正面入り口横に建築計画を知らせる木製の看板を設置。着工予定が今年12月28日、完成予定が2025年10月31日と記載されている。

新庁舎の建設をめぐるっては、市民団体が建設計画の中断の賛否を問う住民投票条例の制定を求めて署名活

動をしている。松浦市長は3日の定例会見で「看板は建築基準法に基づく手続きの一つ。市民の気持ちを無視して強行的に進める意図ではない」と説明した。

(奥平真也)

## ニュース短信

◆新庁舎建設中断へ署名スポット  
松江市役所の新庁舎建設  
計画の中断を求めている市民団

体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は6日記者会見し、住民投票条例制定を求める署名への協力を求めた。8月20日までに有権者の50分の1以上の署名が必要で、JR松江駅前の松江テルサに署名スポットを設けているという。午前10時～午後6時に署名が出来る。他にも6カ所の署名スポットがあり、詳細はホームページ (<http://mata.jp/>) で確認できる。

## 現在地に地元業者で建設を

松江市浜佐田町

内田 盛信 85歳

12月着工で準備が進んでいるようですが、代案を述べ再考を促します。

立地条件を考慮し、現

庁舎はいったん撤去した上で現地に建設する▽新

庁舎完成までの仮庁舎を、くにびきメッセに置く▽新庁舎はシンプルな箱形とし円形、角形など

## どうする?! 松江市庁舎

特別なデザインにしない

▽工事費は100億円を

最高限度とする▽工事は

県内業者で施工する▽工

事期間は2年間とする

。

まず地産地消の地元経

済効果を考え、工事を県

内業者で共同企業体を組

織し、設計段階から、1

00億円で建設するには

どんな方法があるかを考

える。市民の税金で建設することになるので、全て市民が納得することが

は上がる。

無駄を省く趣旨から、

市長室は6畳の広さとす

る。多人数の応接は会議

室などで行う。構造は市

民優先の形で考えること

が必要である。

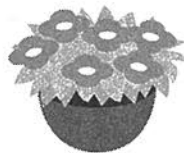
今やAI(人工知能)

の時代で、設計や工事は

大手業者、中小業者の区

別はない。以上いささか

でも参考になれば幸いです。



## 声多く聞き愛される庁舎に

松江市東本町

福島 伸子 88歳

7月10日の本欄で「災害も視野に利便性重視を」と題して県立プール

からの松江人です。湖も街も人々も大好きです。

だからこそ市庁舎も人

々の利用しやすい愛され

るものを建ててほしいの

です。交通の便利な所、

橋南橋北それぞれから行

きやすい、災害時にも大

丈夫な所、松江駅に近く

法務局も年金事務所も近

く合同庁舎にも行きやす

い。地下駐車場を考えな

くても良い。

プール跡地は避難所と

いわれている安全地帯。

工事をするにもすぐ取り

掛かれそう。今コロナ騒

動の中、急ぐ必要はない

ではありませんか。15

0億円という金額は他の

市に比べて多すぎません

か? 後の世代に負担を

かけることを考えて、市

民の税金は大切に使うて

ください。多くの市民の

声に耳を傾けて建て替え

## 後味悪い説明会在り方疑問

松江市新雑賀町

片山 良治 63歳

たまたま公民館に行く  
と、市庁舎建て替え説明  
会があることを知り、参  
加することができまし  
すよ。

た。どうして市は市民に  
説明会開催を市報や回覧  
などで事前に周知しない  
のでしょうか。株主総会  
では2週間前に通知しま  
すよ。

どうする!? 松江市庁舎

説明会冒頭の市側の発  
言にも驚きを禁じ得ませ  
んでした。「市庁舎建て  
替え問題を政争の具にし  
てはいけない」とは一体  
どういう意味なのでしょう  
うか。

これは市民の自由な議  
論を封殺する発言であ  
り、政治家が言うならま  
だしも、行政職員にはと  
ても不似合いで不釣り合

いな発言だと思いまし  
た。何とも嫌な気分にな  
ると同時に、説明会に対  
する市の姿勢がそれとな  
く透けて見えました。あ  
りていに言えばお飾りで  
あり添え物ということだ  
す。

1時間ばかりの説明会  
でお茶を濁し、市庁舎建  
て替え工事に前のめりに  
なっている今の市の眼中  
には、どうやら市民の2  
文字はなさそうです。何  
とも後味の悪い説明会で  
した。

## 移転し跡地は小売業振興に

松江市春日町

室田 浩吉 57歳

松江市で開業している  
小売業者として、また37  
年県外で生活していた県  
外者として、また松江市  
民として意見させていた  
だきます。

まず松江市役所は移転  
して、その跡地には松江

市の全小売業者が平等に  
週単位で出店できる施設

ツプとして活用させてい  
ただければと考えており  
ます。市役所跡地なら市  
民誰もが行きやすい場所  
であるし、宍道湖を望む  
絶好のロケーションであ  
るため観光客も集まりや  
すいでしよう。



を造り、お店のPRと販  
売ができるアンテナショ

ただしそのような施設  
を造るにしても、予算を  
かけ立派な建物を建てテ  
ナント料を取りーでは駄  
目。テナント料を払える  
一部の業者だけの施設で  
は意味がありません。お  
よそ掘っ立て小屋でよ  
く、ほぼ無料にしてどん  
な業者でも使える施設  
にしてほしいと思いま  
す。

松江で頑張っている全  
ての業者が平等に使える  
のがポイントです。

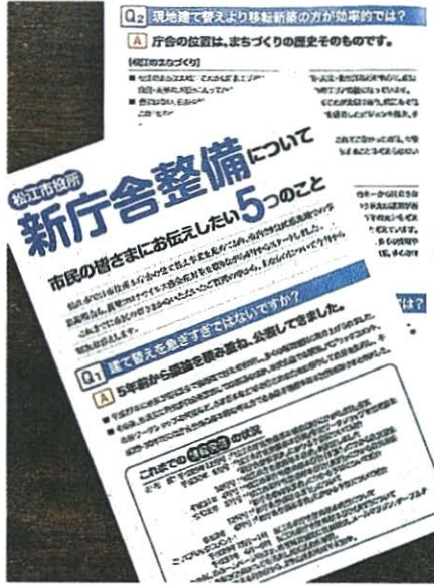


# 松江市新庁舎 質問相次ぎ市回答 チラシを各戸配布

松江市役所本庁舎(松江 市末次町)の現地建て替えを計画する市が、事業内容を説明するチラシを作成し、市報8月号とともに各戸配布を始めた。着工延期を求める市民団体が住民投票条例の制定を目指して署名集めなどを展開する中、市民から質問が相次いでいるため。Q&A形式で寄せられた疑問に答えている。チラシは4ページで、事業の検討経過▽現地建て替える理由▽事業費の説明▽新型コロナウイルス対策との関連▽財政運営の5項目で構成した。

「建て替えを急ぎすぎではないか」との質問には、5年前から市議会や市民会議などで議論を積み重ね、公表してきたと説明。市報での掲載歴も記載した。

「現地建て替えより移転新築の方が効率的では」との疑問に対しては、市役所の場所が変わると都市計画や防災対策といったまちづくりを一から見直さなければならなくなると強調。跡地利用という新たな課題に



松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

松江新庁舎整備について 市民の皆さまにお伝えしたい5つのこと

どうする!?  
**市役所 建て替え**

よって市民の混乱を招く移転は適切ではないと指摘している。

また、新型コロナウイルス対策と新庁舎整備はどちらも最優先課題として同時に進める必要があると主張。庁舎整備に充てる財源は使途が決まった地方債と専用の基金で、新型コロナウイルス対策には活用できないと回答している。

市は29公民館区での事業説明会を6月に始めたが、新型コロナウイルスの影響で参加者が限られ、大量の質問が電話やメールで寄せられている。市新庁舎整備課の岡田等課長は「市民の皆さんが抱く疑問に対して丁寧に説明する必要がある」と話し、事業への理解を深めてもらうため、説明会が終わり次第、出前講座を企画する考えを示した。市報9月号には、新庁舎に採用する段々状のテラスや免震構造に関する質問への回答を掲載するとした。

(久保田康之)

# 現地建て替えの再審議望む

松江市新庄町

門脇 正人 76歳

松江市新庁舎建て替え事業については、市民ワークショップやパブリックコメントが既に行われており、参加しなかった者が今頃になって言うのもどうかと思うが、気が付いた点について申し上げてみたい。

市役所は市民全員が多かれ少なかれ利用する建物であり、新庁舎の工期や建設事業費は専門家のご意見があろうが、立地場所については素人も意見がある。最重要なのは周辺環境を考慮した利便性であろう。

つている3地区の中では、明らかに県立プール跡地が松江市の中心部であり周辺の住宅も多いことから、車を使用せず徒歩で訪庁できる市民の数も多い。さらに、周辺には松江公共職業安定所や松江税務署などが入る松江合同庁舎やくにびき

ッセ、市総合体育館、徒歩圏内の松江駅などがあり、現在地との優劣の差は明確である。

現庁舎は、老朽化が激しくして使用に耐えられない状況というわけではないと思われるので、コロナ禍の今、可能であれば再度、工期や建設事業費なども含めて審議されるよう望むものである。

## 穴道湖北岸は一大観光地に

松江市浜乃木

原田 康行 77歳

本紙12日付の記事「60年前 移転先巡り大論争」に鑑み、市庁舎建て替え問題は「中海穴道湖淡水化事業廃止」などに匹敵する重要案件である。

て、穴道湖北岸一帯は水都松江の次世紀に向けての一大観光拠点として唯一開発可能なポテンシャルを持つ宝庫である。

国宝松江城の懐にある末次公園・現市役所所在地・松江しんじ湖温泉駅一フォーゲルパーク一帯は、国際文化観光都市ならではの城下町文化や茶の湯のまちづくりをコンセプトとした観光産業振興や水陸両用バスの水運など観光による経済効果を目的にした仮称「松江版・ハウステンポス」の観光振興実現のための一大観光拠点とし、次世代型の新市庁舎は県立プール跡地に移転新築すべきである。

係から 松江市庁舎の建て替え事業への投稿は宛先にこたえ「市庁舎」

園などの合流ゾーンとし

特集係と明記。

どうする!? 松江市庁舎

# 住民投票へ署名活動開始

## 市新庁舎延期求め 松江の市民団体

12月に着工予定の松江市新庁舎の事業延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は、延期の是非を問う住民投票実施に向けた署名活動を始めた。期限の8月20日までに住民投票条例の制定を求めるのに必要な有権者（約3500人）を超える1万人分を集めたいと

している。

同会は島根スクエア（松江市菅田町）や同会事務局が入るパソコン教室（同市奥谷町）など市内4カ所に署名スポットを設置。今後スポットを増設し、街頭でも署名活動をすすめる。署名集めを担う「受任者」は現在320人で、1000人程度まで増やす予定という。21日にはJR松江駅前（同市朝日町）で初めての署名活動を実施。



署名を集めるメンバーら

＝松江市朝日町のJR松江駅前で

共同代表の片岡佳美・島根大教授は「コロナの問題などで市政に目が向いている今だからこそ実現させたい」と話した。

【前田葵】

# 松江の観光新時代の象徴に

松江市秋鹿町

福田 昇 73歳

コロナ禍は時代の流れを変えるチャンス、そのスタートに新庁舎建設が巡り合ったようだ。松江は国際文化観光都市として観光ビジネスが成立しないと生きていけないことが今回よく分かった。松江がこれから飯を食っていくためには、観光ビジネスの発展を第一に考えたい。

「21世紀は観光の時代」といわれる。観光振興は世界の経済的発展と国際的な相互理解に寄与していたことが、今回人々の往来が遮断されたことにより鮮明になった。多く

の人々が地球的な規模で国境を越えて往来するようになった今、市庁舎も



21世紀に対応できる情報の集約地としての機能を有する戦略的実現モデル

の「創出市役所」を目指してほしい。

観光で訪れた人が誰でもインターネットが使える広場を創設し、市民との交流スペースを通じて世界に発信する拠点にしたい。他の観光地に先駆けて国際化をいろいろな形で実現し、今までの市庁舎にない21世紀型の市庁舎が、松江の観光新時代を象徴する建物になってほしい。

## 基本賛成 工期と費用圧縮を

松江市上乃木

祖田 進 83歳

松江市役所本庁舎の建て替え事業が、総額150億円の見積もり事業費で波紋を広げている。現地で7年をかけて業務

をしながらの建て替えで、事業費内訳は基金50億円、国財政支援30億円、起債70億円。形状は6階建て、テラス張り出し形である。

これに対し、市民や団体から高額であることや現地建て替えへの反対意見が続出している。隣接

する出雲市や安来市では、既に100億円以内でシンプルかつスマートな庁舎ができており、松江市役所も遊休地の県立プール跡地や末次公園に少し規模を縮小して方形の庁舎を建ててはどうかなどの意見である。

私の意見は基本的には市の計画に賛成である。ただ、防災拠点も兼ねているとはいえず、7年の工期、150億円の事業費は、あまりにも長期で高額である。詳細を詰めて工期、費用を圧縮すべきである。遊休地は場合によっては、払い下げ（売却）して負債を減らすべきである。

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、「ごだま」市庁舎「特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

# 松江市新庁舎

# 中断か続行か二択で問う

## 市民団体 住民投票条例案公表

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業の延期を求める市民団体が20日、制定を目指す住民投票条例案の内容を公表した。いったん事業を中断して計画を練り直すか、12月着工を予定する市の計画通りに事業を進めるかの二者択一で、建て替え事業の是非を問う。21日に街頭での署名活動を始める。

（佐々木一全）

## きょうから街頭署名活動

条例案によると、住民投票「市民の意思の確認が目的、票は建て替え事業に対する」で、①新庁舎建設事業は中

断し、住民との対話、討論を踏まえて再考する②新庁舎建設事業は現行計画案のまま着工する③の選択肢から一つを選んでもらう方式とした。18歳以上の全市民に投票資格があり、市長と市議会に結果を尊重する義

**どうする!?**  
**市役所 建て替え**

務を課している。

一方、住民投票を実現するには、市内の有権者の50分の1（約3360人）以上の署名を1カ月以内に集めて市長に直接請求し、市議会で条例案が可決される必要がある。この日、市役所で記者会

見した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）は条例案の内容とともに、21日から8月20日まで署名集めを展開すると発表。約320人の受任者が戸別訪問や街頭で呼び掛けを行うほか、市内の事務所や商業施設内で常設の署名場所を設置すると説明した。

片岡代表は「市民を交えた意思決定がなされていないことが問題だ。市民による新たな市政をつくるきっかけとしたい」と意気込み、民意を問うことで建て替え事業に「待った」をかけた」とした。

このほか、会員制交流サイト（SNS）を中心に活動する市民有志の「松江を考える会」（古志勝俊、錦織伸行世話人代表）が8月上旬に、住民対話の必要性や事業内容の妥当性について議論する公開討論会を企画している。



住民投票条例案の内容を説明する片岡佳美代表（中央）ら—松江市末次町、市役所

## 松江市新庁舎

### 「市民も意見」

署名きょうから

松江市役所の新庁舎建設計画中断を求めている市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は21日から、住民投票条例制定を求め署名活動を始める。

「中断し住民との対話、討論をふまえて再考する」「現行計画案のまま着工する」の二者択一による住民投票を目指す。有権者の50分の1以上の署名が必要で、8月20日まで署名を集める。

求める会の呼びかけ人、片岡佳美・島根大教授や関耕平・同教授らが20日記者会見し明らかにした。この日、松江市条例制定請求代表者証明書が市から交付され、告示された。

松江市の場合「50分の1以上」は3千数百の署名が必要だが、求める会は「強い住民意思を示すため、1万以上の署名を集めたい」としている。片岡教授らは「上から行政が『こうだ』と押しつけるのではなく、市民が『私も意見が言えた』という状況を作りたい」と意義を強調した。

(奥平真也)

## 早くて安くてもうまい事業に

松江市内中原町

木佐 剛典 61歳

6月22日に放映された松浦正敬松江市長の記者会見で、市庁舎建て替えに関して、早い安いが全てではないという趣旨の発言があった。どこかの外食産業のキャッチコピーを思い出したが、もちろん「うまい」がないといけない。

市のメールマガジンで市長は、市役所移転には議員の3分の2の賛成が必要と述べているが、そこまで多数の賛成を得るのが困難なことが現地建て替えの理由では、とも思える。市の中心地につ

いても触れているが、歴史的にどこが市の中心地であったかは過去の話である。一畑百貨店が移転した後の殿町が衰退したことも書いているが、市役所と百貨店は性質が違

う施設である。これまでの新市庁舎に関する市の広報は、市役

## 原発事故を想定した計画か

松江市浜乃木

石原 亨 83歳

松江市庁舎に関して寄せられた2日付「世事抄録」の風来さんの意見に大賛成です。コロナ禍に揺れる今、着工を強行し

所の専管事項であるというがごとくクローズド（閉じた）の印象がある。市民に情報を発信したことにして手続きを急いでいるようにも思える。

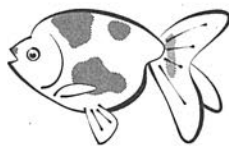
庁舎建て替え事業を「うまい」施策とするために行政、市民、専門家からなる委員会を結成し、機能的で後年まで使いやすい庁舎を再度検討していただきたい。

なければならぬのにはどんな理由があるのでしようか。緊急説明会での説明が市民を十分納得させるものだったとは思えません。

福島レベルの原発事故を想定した災害対策が立てられているとすれば、橋北に県庁と市役所が隣

接するなどということには考えられません。共に機能まひを生じかねない危険は避けるべきです。

新市庁舎はホテル穴道湖のあった辺りが利便



性、ロケーションともに最適だと思います。市長が着工を急がれる理由が、市民を十分納得させるものであることを願っています。

お係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、ごだま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

# 松江市新庁舎 外観 淡い灰色

## 市景観審は色彩案承認



松江市が示した淡い灰色を基調とした新しい市役所本庁舎の外観イメージ

松江市が13日、現地建て替えを計画する市役所本庁舎（松江市末次町）の外観の色彩案を公表した。建て

### どうする!? 市役所 建て替え

替え対象とならない本館西棟の外壁に近い淡い灰色を基調としたほか、テラス側面にはより濃い灰色を採用。水平方向の濃淡が目を引き色合いで、市景観審議会（会長・足立正智県建築士会会長、13人）は案を承認した。建て替え事業を巡っては市民団体から計画見直しを求める声が出ているが、市は予定通り進める考えで、色彩案を実施設計に反映させる。

現地立て替えを計画する

本庁舎は、地下1階、地上6階建てで、延べ床面積は約2万5千平方メートル。市民に開放するテラスを張り出させた外観で、12月の着工を予定している。総事業費は150億円を見込む。

市はこの日の同審議会で色彩案を示し「全体的に落ち着いた雰囲気を作り出し、隣接する末次公園や湖岸との調和を図ることがで

きる」と説明。同審議会は市の景観計画の色彩基準に合っている点や、西棟外壁の色に近い点を踏まえ、承認した。

建て替え事業を巡っては、大学教授らでつくる市民団体が、現地建て替えの是非や事業規模の妥当性を問う住民投票条例の制定を目指して活動を展開。別の市民団体も県立プール跡地（同市学園南1丁目）など他の候補地に建設した場合の総工費を試算し、計画の見直しを求めている。

（佐々木一全）



## いま一度立ち止まり熟考を

松江市東奥谷町

太田麻衣子 44歳

県外から松江に来て4年になります。自然に恵まれ、人は穏やかで優しく、大変心地よい場所だと思っております。しかし、新市庁舎の建設についてメディアで取り上げられるたび、松江の将来について不安が募っております。

後まで見据えた使い方が検討されたのでしょうか。

高齢者が多い地であるのにもかかわらず、公共交通機関の便が悪く、自家用車で市役所に行くことが、市民にとってプラ

スでしょうか。市役所に行かなくても手続きができるシステムの構築の方が重要だと思えます。

市長の発言は終始あいまいな言葉であり、3年後の姿すら見えてきません。いま一度立ち止まり、新市庁舎の建設の方向性を熟考していただきたいと思えます。

## 業務しながらの工事は疑問

松江市西川津町

白石 光生 63歳

人口20万人、そのうち18歳未満の若者がたった3万人しかいない市に、150億円もの費用をかけた庁舎が必要でしょうか。70年後まで使うとのことですが、本当に70年

現庁舎で通常業務を行いなから解体し、新庁舎を建設する市の案には反対する。庁舎建て替えに反対しているわけではない。

現庁舎の場所が建設地としてベストであろうか。現庁舎は旧松江市で考えるならいいかもしれ

ないが、20万都市・国際観光都市としての立地を考えると、湖の跡地が最適ではないだろうか。いつまでも旧町村に支所を構えることは将来無理ではないか。

バスターミナル建設構想もあるようだ。高層化にして多機能複合庁舎もよいのではないかと。

単純に比較するのは難しいが、松江赤十字病院も診療を継続しながらの建設で医療スタッフ、利用者にも多大な苦勞を掛けようと思う。また、建設に携わる方たちの安全の確保、労働環境の維持などコロナ禍で果たして妥当な工法だろうか。

今、早急に新庁舎を建設する必要があるのであるだろうか。将来に禍根を残さないよう十分な検討をしていただきたい。

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、こたま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

# 60年前 移転先巡り大論争

## 松江市新庁舎

松江市役所本庁舎の建て替えを巡っては、同市末次町に現庁舎が建てられた1960年前後に大論争に発展した歴史がある。同市殿町からの移転を決める際、橋北と橋南の議員間で意見が真っ二つに割れ、わずか1票差の攻防を経て決着した。松江市誌や松江市議会史をひもとくと、市が当時、住民投票の実施を視野に入れていたとの記述もあり、混乱ぶりがうかがえる。

(佐々木一全、久保田康之)

### どうする!? 市役所 建て替え



のが建設地の選定だった。市議会史によると、市は約9900平方メートルの広大な空き地があったことから末次町の埋め立て地を移転先の「適地」と結論付けた。

では、計画案に賛成する橋北地区の議員との議論が白熱し、一触即発の乱闘寸前の騒ぎになった。その後、市議会全員協議会が開かれ、計画案が1票差で否決されると、市は打開策として松江大橋北詰と末次町を結ぶ湖岸道路の造成を提案。再採決で、計画案が僅差で可決された。

### 松江市役所本庁舎の歴史

1945年	太平洋戦争に伴い、殿町にあった初代庁舎を取り壊し
49年	跡地に2代目庁舎を再建
62年	末次町に3代目となる庁舎を移転新築(現在の本庁舎)
91年	石倉孝昭市長(当時)が移転新築の方針を表明→断念
2015年	松浦正敬市長が現地建て替えの方針を表明

夫道湖の一部を埋め立てり、現在の島根県民会館の近くに建てた。太平洋戦争に伴う家屋疎開で45年7月に初代の建物が取り壊

「た」と記載。建設省(現・国土交通省)が殿町周辺に官公署を集約するよう強く要請していたことも影響したとされる。

## 一触即発 乱闘寸前の騒ぎ

### 過去の教訓生かせるか

2億3800万円で、当時の延べ床面積は6800平方メートルだった。元々の本庁舎は殿町にあ

再び庁舎移転が議論されたのは30年後の91年だった。石倉孝昭市長(当時)が本庁舎を別の場所に移し、跡地に島根県立美術館を誘致する考えを表明。移転先には北公園や旧県立プールなどが浮上した。

松江市殿町にあった2代目の市役所本庁舎の写真(松江歴史館提供)と、当時の移転論争を伝える新聞記事

で折り合いがつかず構想は頓挫。後任の宮岡寿雄市長(同)が当選直後の93年の所信表明で「市庁舎(の建

### 1票差で否決

その際、大論争となった開かれた市議会特別委員会

が問われている。

## 災害も視野に利便性重視を

松江市西川津町

渡辺 俊樹 63歳

市役所に景観は必要ありません。松江市役所は移転し、跡地は松江温泉の再開発に使うべきです。市役所は利便性を重視すべきです。プール跡地に建て替えた場合、湖北線以外の地域は交通が便利になります。くびき道路とだんだん道路により橋南からも行きやすくなります。

最も重要な点は、プール跡地は体育館やくにびきメッセに近いということです。災害発生時に体育館やメッセが避難所などに使われるでしょう。

そのときに市役所が近い方が良いのです。プール跡地は、国の合同庁舎にも近く、県庁や法務局も道一本です。年金事務所も橋を渡ればすぐの所です。駐車場について、現在

地で建て替える場合、地下駐車場を考えているようですが、それはまだこの地域になじめません。将来、市役所の別館が必要な場合、北公園というスペースがあります。以上のことから、プール跡地に市役所を建て替えるのが良いと思います。

## 「今でしょ」と言い難い時機

出雲市美談町

中村香都奈 42歳

私が大好きなタレントは、「いつやるか?」「今でしょ!」でおなじみの林修先生だ。即実行を意味する「今でしょ!」は仕事でもプライベートでもとても大切にしている

る。

「今でしょ!」と言い難いのは、松江市庁舎の建て替え。私は出雲市民だが、今も生まれ育った松江で働き、仕事でよく市庁舎に行くのでご意見をさせていただきたい。新型コロナウイルスの影響で日本中の経済が落ち込んでいます。なぜそんな中、本年度に多額の経

費をかけて着工する必要があるのか。

緊急事態宣言が解除されて久しいが、天災は忘れた頃にやって来る。コロナの感染の第2波は必ずやって来る。そうなれば、また緊急事態宣言や休校、休業要請が出るに違いない。また市民がさまざまな面で苦しむ中で市庁舎の建て替えなど言語断だらう。

今、市民に必要なのはご立派な建物ではなく、安心できる生活。「(市庁舎の建て替え)いつやるか?」「今じゃないでしょ!」

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、こだま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

# 「新庁舎待った」

## 松江駅前で訴え

署名活動開始へ

松江市の新庁舎建設計画の見直しなどを求めている市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が近く、「建設を中断し市民との対話討論を経て計画を見直す」ことを求める住民投票条例の制定を目指し署名活動を始める。20日開始を目指しているという。

2日朝、JR松江駅前

「新庁舎建設に待ったをか  
けよう」と訴えチラシを配  
った。

会の呼びかけ人の一人、  
片岡佳美・島根大法文学部  
教授がマイクで「皆さん一  
緒に声を上げませんか。庁  
舎計画は市民が十分に参加  
出来ないまま、見過ごす  
ことは出来ません」などと  
訴えた。

(奥平真也)

# 松江を象徴するデザインに

松江市竹矢町

別所 泰一 35歳

生まれ変わる新庁舎にワクワクしている。が、

立地条件や事業費など、さまざまな課題を抱えており、多方面からさまざまな意見が飛び交っているようだ。

誰のための市庁舎なのか。「みんなのまち」なのだから、みんなの市庁舎ならみんなで建て替えたい。市民の声が上がリ、コミュニケーションの結果がきちんと反映されるまちであってほしい。市民の要望が全て通らないのは当たり前。ただ、完成の結果を待つだけでな

く、完成までのプロセスに市民が関わることで、市庁舎に愛着が湧くのだと思う。

ここで若者の一個人的な意見を述べたい。利便性なども重要だけど、デザイン性にも力を入れてほしい。ファッションや

## 現在地にこだわる必要はない

松江市鹿島町

中村 彰男 73歳

松江市庁舎について、そもそも建設計画が浮上した3年ほど前、私は県立プール跡地が適地だと思ひ、職員の方とも話をしていたが、賛同さ

車のデザインにこだわるのと同じように、松江市の個性を前面に出し、市民にとって象徴となるようなデザインで全国にアピールしてほしい。

市庁舎の建て替えを機に「みんなのまち」を意識していきたい。「みんなのために、みんなでつくる、みんなのまち」であってほしい。

れる職員も結構ありました。現在地で建て替えとなると、7年もの長期間、市民も職員も大変不便になると同時に、建設費も大幅に増えると思われる。

市役所が移転となると周辺の食堂、レストランなどが暇になって困るとのお話もあるようです。

が、20万市民にとっては大きな問題ではありませんが、70億円もの借金をしてまで、現在地にこだわることは到底納得できません。県立プール跡地は高速道路にもJR松江駅にも近いですが、県庁方面にだって道路が整備され、非常に近くなりました。

周辺の市（出雲、雲南、安来）の庁舎は立派な建物で完成しています。一度決めたからといって前に進むだけではなく、状況がかわれば再考してもいいと思います。

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、「こだま」市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

# 「市新庁舎建設事業延期を」

松江市民の会がチラシ配り

住民投票目指し署名活動へ

12月着工予定の松江市新庁舎建設事業の延期を求める「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は2日、松江市朝日町のJR松江駅前前でPR活動を行った。延期の是非を問う住民投票条例制定を市

松江市新庁舎工事延期を求める活動への協力を呼びかけるチラシを配るメンバーら

＝松江市朝日町のJR松江駅前で



長へ直接請求するのに必要な署名を集める「受任者」への参加を呼びかけ、直接請求の仕組みなどを説明するチ

ラシ約300枚を配った。

受任者は松江市内の有権者であることが条件で、請求代表者

の片岡佳美・島根大教授らの委任を受け署名を集める。同会は直接請求に必要な有権者の50分の1（約3500人）を超える1万人分

の署名を集めるため、1000人程度の受任者の確保を目指している。署名活動は7月中旬ごろ始める予定。

【前田葵】

# 松江市新庁舎建設計画

# 延期へ住民投票実現を

## 市民団体 署名活動向け街頭PR



チラシを手渡しながら「熟議」の必要性を訴える市民団体のメンバー  
 〓 松江市朝日町、JR松江駅前

松江市が同市末次町の現地で計画する市役所本庁舎の建て替え事業の延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が、建設場所や事業規模などの妥当性を問う住民投票条例の制定に向けて、今月中旬に署名活動を開始する。2日はメンバーが初めて街頭に立ち、コロナ禍を踏まえた「熟議」の必要性を訴えた。

市内の大学教授や会社経営者らで結成した同会は、

（佐々木一全）

### どうする!?

## 市役所 建て替え

現地での建て替えが決まったプロセスが不透明で、総額150億円と見込まれる事業費に関する市民の理解も深まっていないと主張。市が予定する12月着工に「待った」をかけるため、住民投票の実現を目指している。

この日は同市朝日町のJR松江駅前に7人のメンバー

が立ち、計画の疑問点などを記したチラシを通勤客などに配布。昨年11月に総事業費が公表されて以降、市民が意思表示する場がなく、新型コロナウイルスが市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼしていることを挙げ、「建て替えは早急に行うべき事業ではない」と訴え掛けた。

住民投票を実現するには、市内の有権者の50分の1（約3360人）以上の署名を1カ月以内に集めて市長に直接請求し、市議会が条例案を可決する必要がある。

同会は現時点で約150人いる署名集めの受任者をさらに増やす考えで、市民有志でつくる別の市民団体「松江を考える会」（古志勝俊、錦織伸行代表世話人）との連携も視野に入れる。片岡代表は「市民の将来に関わる大切な問題だ。幅広い年齢層の関心を高め、市に熟議を求めたい」と話し、情報発信に力を入れるとした。

# 庁舎地代払い続ける米子市

米子市皆生

秦野 久範 72歳

米子市が昨年7月に策定した「庁舎再編ビジョン」について市議会で論戦が交わされている。米子市の庁舎は全国でもまれに見る借地に建てられており、以前から議論されている。

本庁舎はほとんどが借地、新耐震基準建築物で築36年である。借地料は駐車場を含め、年間6681万円、市民の税金から支払われている。第2庁舎は全て借地で年間761万円。県立米子西高跡地に建てられた「ふれあいの里」も一部借地で

ある。市有地に建てられているのは「旧庁舎新館」「淀江支所」「下水道事務所」「山陰歴史館」だけだ。耐震上の問題を抱える



「第2庁舎」に代わる施設として米子市は県と共同整備することにして予算案を提出した。市議の中には庁舎の分散は時代の流れに逆行すると反対している。その前に市庁舎などが借地に建てられたことに異議を唱えなければならぬ。庁舎の分散が時代遅れかどうかは後回しにし、借地に建てられた建築物の代わりに校区ごとにある体育館を活用すればよいと思う。災害での避難施設は小中学校を使用すればと考える。借地料を払い続けることに市民の不満は爆発寸前である。借地への庁舎は解消してほしい。

# 現地建て替えは長期で大変

松江市乃木福富町

舟木 敏子 71歳

市庁舎の建て替えには賛成だが、現地での建て替えには反対だ。というのは近所の家が壊され、新しく完成するまでが大変だったから。鉢物や植物にほこりが降り積もり、閉め切っている部屋の中は何となくぐらぐらした。ほこりと臭いは黄砂どころではなかった。騒音にも悩まされた。私たちはとにかく息苦しかった。なるべく外出して時間をつぶした。主人は体調を崩した。市役所の建物と庶民の

家とは大きさも頑丈さも違う。騒音もほこりもすごいはずだ。その中で仕事をやる職員の人たちは逃げ出すこともできない。心身ともに不調を来す方も出てこられるだろう。7年もほこりと騒音

# コロナ禍前の計画は再考を

松江市浜乃木

原田 稚子 50歳

「松江市庁舎の立て替え事業」について、松江をこよなく愛する一松江市民として思いをつづります。市民が新型「コロナウイルス」によって深刻な

打撃を受けているこの困難な時期に、なぜこんな急いで計画を進めようとするのでしょうか？「コロナ禍真つただ中の今、生活の全てが変わってしまった今、松江のために役に立つならと切に願いながら真面目に税金を納めている私たち市民にとって、コロナ禍前に

決めた計画をそのままの形で急ぐことが、果たして本当に必要なのでしょうか？松江のことを真に考えるならば、いったんここで立ち止まり、市民の公平な意見を考慮した上で、コロナ禍を経た未来のより良い松江に向けて「松江市民による、松江市民のためのより良い新市庁舎」について改めて考えるべきではないでしょうか。

救えないのは旧市街しか見えない狭い中心感覚。平成大合併で旧宍道町、旧東出雲町まで市域となり、50年後に新幹線も走っているかもしれない県都なら、ハイテク新庁舎を橋南のJR駅近辺に想定するのが自然だ。となれば現在地は国宝松江城と松江しんじ湖温泉を結ぶ文化観光の回廊として、跡地活用の知恵も試されよう。(松江市・風来)

# 世事抄録

やはりと言つべきか、松江市役所の新庁舎建設計画をめぐり「待った！」の声が広がってきた。2月に市民有志が求めた緊急説明会を傍聴して市側の硬直姿勢に危うさを感じていたが、当初より30億円も膨らんだ事業費150億円、7年の長丁場となる現在地建て替えに疑問が噴出している。松浦正敬市長がことし12月着工に変更はない考えを述べたのに対し、新たに結成された市民団体は住民投票を目指すらしい。

計画概要を読んで最初に感じたのは、街づくりと新庁舎のビジョンが案外希薄なことだ。老朽庁舎の耐震・防災から検討を始めて、なぜ大橋川で南北に分断された市街の弱点と橋北の現在地が孤立する

# 新市庁舎計画に見る硬直

る可能性に思いが及ばないのか。かつて北へ10分離れた島根原発の2号機建設の際にも、大地震で橋が落ちたら怖いという反対意見が多く出された。市のホームページは「市中心部にあり、島根県庁舎にも近く、バス等の公共交通機関も確保されており適切」と説明するが話は逆。万一の場合に両庁舎もろともまひしたらどうする。

# どうする!? 松江市庁舎

決めた計画をそのままの形で急ぐことが、果たして本当に必要なのでしょうか？松江のことを真に考えるならば、いったんここで立ち止まり、市民の公平な意見を考慮した上で、コロナ禍を経た未来のより良い松江に向けて「松江市民による、松江市民のためのより良い新市庁舎」について改めて考えるべきではないでしょうか。